

EPSON
EXCEED YOUR VISION

取扱説明書

Offirio
オフイリオ プロジェクター

EB-1925W

EB-1920W

EB-1915



EB-1910

マニュアル中の表示の意味





● 安全に関する表示

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

● 一般情報に関する表示

注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「付録 用語解説」をご覧ください。  p.131
操作	操作方法や作業の順番を示しています。 番号順に操作して目的の作業を行ってください。
[(表記名)]	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：[戻る]ボタン
「(メニュー名)」 明るさ(太字の表記)	環境設定メニューの項目を示しています。 例： 画質調整メニュー - 「明るさ」を選びます。 画質調整メニュー - 明るさ

マニュアル中の表示の意味..... 2

はじめに

本機の特長..... 7

各機種共通の特長.....	7
扱いやすさを満載.....	7
USBケーブルで接続して投写(USBディスプレイ).....	7
書画カメラで手持ちの資料を拡大投写.....	7
充実したセキュリティー機能.....	7
EB-1925W/1915の特長.....	8
プレゼンテーションの即戦力.....	8
ネットワークに接続してフル活用.....	8
EB-1920W/1910の特長.....	9
ネットワークに接続してフル活用.....	9
コンピューターを接続せずにJPEG画像を投写(スライドショー).....	9

各部の名称と働き..... 10

前面/上面.....	10
背面(EB-1925W/1915).....	11
背面(EB-1920W/1910).....	13
底面.....	14
操作パネル(EB-1925W/1915).....	16
操作パネル(1920W/1910).....	17
リモコン.....	18

便利な機能

かんたんセットアップで投写映像を補正する(EB-1925W/1915のみ)..... 22

Quick Cornerで投写映像のゆがみを補正する(EB-1925W/1915のみ)..... 25

投写映像を切り替える..... 28

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出).....	28
-----------------------------	----

リモコンで目的の映像に切り替える.....	29
-----------------------	----

投写を効果的にする機能..... 30

映り具合を選ぶ(カラーモードの選択).....	30
オートアイリス(自動絞り)を設定する.....	31
映像と音声を一時的に消す(A/Vミュート).....	31
映像を停止させる(静止).....	32
アスペクト比を切り替える.....	32
切り替え方法.....	32
ビデオ機器の映像のアスペクトを切り替える.....	33
コンピューター映像のアスペクトを切り替える(EB-1915/1910の場合).....	34
コンピューター映像のアスペクトを切り替える(EB-1925W/1920Wの場合).....	35
説明箇所を指し示す(ポインター).....	37
映像を部分的に拡大する(Eズーム).....	38
リモコンでマウスポインターを操作する(ワイヤレスマウス).....	39

複数台利用時に操作対象プロジェクターを限定する..... 41

プロジェクターのIDを設定する.....	41
リモコンのIDを設定する.....	42

複数台設置時の色差補正(マルチスクリーンカラーアジャストメント)..... 43

補正手順の概要.....	43
補正の方法.....	43

セキュリティー機能..... 45

利用者を管理する(パスワードプロテクト).....	45
パスワードプロテクトの種類.....	45
パスワードプロテクトの設定方法.....	45
パスワードの認証.....	46
操作を制限する(操作ボタンロック).....	47
盗難防止用ロック.....	49
ワイヤーロックの取り付け方.....	49

環境設定メニュー

環境設定メニューの操作.....	51
機能一覧.....	52
画質調整メニュー.....	52
映像メニュー.....	53
設定メニュー.....	55
拡張設定メニュー.....	57
ネットワークメニュー(EB-1925W/1915の場合).....	59
ネットワークメニュー操作上のご注意.....	60
ソフトキーボードの操作.....	60
基本設定メニュー.....	61
無線LANメニュー(オプションの無線LANユニット装着時のみ).....	62
セキュリティーメニュー(オプションの無線LANユニット装着時に有効)	63
WEP選択時.....	65
WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)選択時.....	66
EAP-TLS選択時.....	67
EAP-TTLS/MD5、EAP-TTLS/MS-CHAPv2、PEAP/MS-CHAPv2、PEAP/ GTC、LEAP、EAP-Fast/MS-CHAPv2、EAP-Fast/GTC選択時.....	67
有線LANメニュー.....	67
メールメニュー.....	68
その他メニュー.....	69
初期化メニュー.....	70
ネットワークメニュー(1920W/1910の場合).....	71
ネットワークメニュー操作上のご注意.....	72
ソフトキーボードの操作.....	72
基本設定メニュー.....	73
有線LANメニュー.....	74
メールメニュー.....	75
その他メニュー.....	76
初期化メニュー.....	77
情報メニュー(表示のみ).....	78
初期化メニュー.....	79

困ったときに

ヘルプの見方.....	81
故障かなと思ったら.....	82
インジケータの見方.....	82
⏻ インジケータが赤色点灯/点滅時.....	83
⚠ インジケータがオレンジ点灯/点滅時.....	84
インジケータを見てもわからないとき.....	85
映像に関するトラブル.....	86
投写開始時のトラブル.....	90
その他のトラブル.....	91

付 録

いろいろな設置方法.....	94
各部の掃除.....	95
本機の掃除.....	95
レンズの掃除.....	95
エアフィルターの掃除.....	95
消耗品の交換方法.....	96
リモコンの電池の交換方法.....	96
ランプの交換.....	97
ランプの交換時期.....	97
ランプの交換方法.....	97
ランプ点灯時間の初期化.....	99
エアフィルターの交換.....	100
エアフィルターの交換時期.....	100
エアフィルターの交換方法.....	100
オプション・消耗品一覧.....	101
オプション品.....	101
消耗品.....	101

ユーザーロゴの登録.....	102	コンポジットビデオ/S-ビデオ.....	122
Wi-Fi Protected Setupで無線LANアクセスポイントに接続する(EB-1925W/1915のみ).....	104	HDMI入力端子からの入力信号(EB-1925Wのみ).....	123
接続設定の方法.....	104	EB-1915/1910の対応解像度表.....	124
プッシュボタン方式で接続する.....	105	コンピューター映像(アナログRGB).....	124
PINコード方式で接続する.....	106	コンポーネントビデオ.....	125
スクリーンサイズと投写距離.....	108	コンポジットビデオ/S-ビデオ.....	125
EB-1925W/1920Wの投写距離表.....	108	HDMI入力端子からの入力信号(EB-1915のみ).....	125
EB-1915/1910の投写距離表.....	109	仕様一覧.....	127
USB機器の接続と取り外し.....	111	本機仕様.....	127
USB機器の接続.....	111	ソフトウェアの動作条件.....	129
USB機器の取り外し方.....	112	外形寸法図.....	130
書画カメラ(ELPDC06)の接続.....	112	用語解説.....	131
書画カメラ(ELPDC06)の取り外し方.....	112	一般のご注意.....	133
LAN ケーブルの接続.....	113	商標について.....	134
外部機器との接続.....	114	索引.....	153
外部モニターとの接続.....	114		
外部スピーカーとの接続.....	114		
異常通知メールの見方.....	115		
ESC/VP21コマンド.....	116		
コマンドリスト.....	116		
ケーブル配線.....	116		
シリアル接続.....	116		
通信プロトコル.....	117		
ネットワークプロジェクトについて(EB-1925W/1915のみ)...	118		
PJLinkについて.....	120		
対応解像度一覧.....	121		
EB-1925W/1920Wの対応解像度表.....	121		
コンピューター映像(アナログRGB).....	121		
コンポーネントビデオ.....	122		



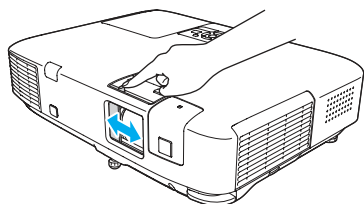
はじめに

ここでは、本機の特長と各部の名称について説明しています。

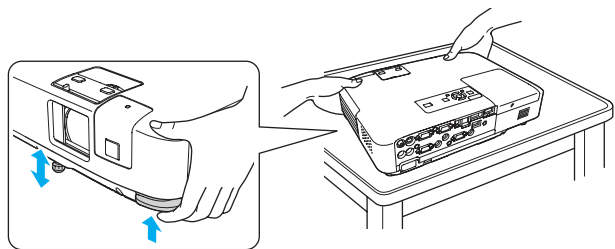
各機種共通の特長

扱いやすさを満載

- 投写や収納が簡単なスライド式レンズカバー
レンズカバーを開閉して投写の中断・再開が簡単にできるため、メリハリのあるプレゼンテーションが行えます。



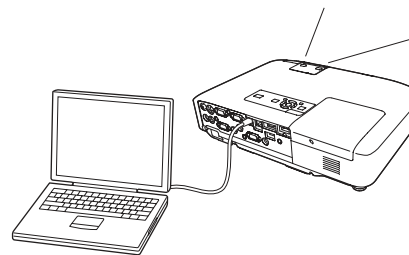
- 面倒な本体の水平調整が不要な単脚デザイン
レバー1つで簡単に高さ調整ができます。☛ 『[セットアップガイド](#)』



- ダイレクトにパワーオン/オフ
会議室など電源を集中管理している部屋でも管理元の主電源を入れる/切るして本機の電源をオン/オフすることができます。

USBケーブルで接続して投写(USBディスプレイ)

同梱のUSBケーブルでWindows搭載のコンピューターと本機を接続するだけで、コンピューター画面を投写できます。



書画カメラで手持ちの資料を拡大投写

USB対応の書画カメラ(ELPDC06)をオプションで用意しています。この書画カメラは電源ケーブルが不要で、USBケーブル1本で簡単に接続できるうえ、シンプルなデザインで使いやすく、手持ちの冊子資料を手軽に拡大投写できます。☛ 『[オプション・消耗品一覧](#)』

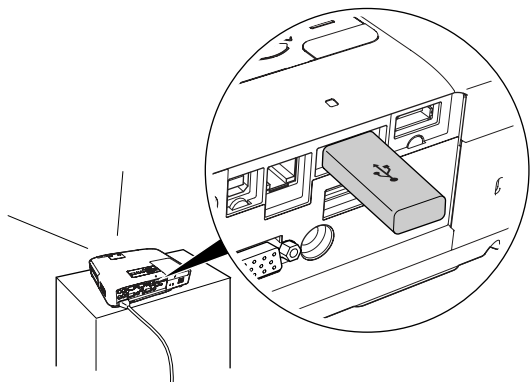
充実したセキュリティー機能

- 利用者を制限・管理するパスワードプロテクト
パスワードを設定して、本機を使用する人を制限・管理することができます。☛ [p.45](#)
- 操作パネルのボタン操作を制限する操作ボタンロック
イベントや学校などで使用する際に本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。☛ [p.47](#)

EB-1925W/1915の特長

プレゼンテーションの即戦力

- **投写映像の面倒な調整が不要(自動タテヨコ補正機能)**
プロジェクターを移動・設置したときに生じる投写映像の台形ゆがみやピントのずれを自動で補正するので、投写映像の調整に手間がかかりません。
- **ボタン1つですばやいセッティング(かんたんセットアップ)**
かんたんセットアップボタンを押すだけで、お使いのスクリーンに合わせて投写映像が補正され、最適な状態で投写できます。スクリーンを使ったプレゼンテーションの準備をすばやく行えます。
- **コンピューター不要のプレゼンテーション(PC Free)**
画像や動画を保存したUSBメモリーやデジタルカメラをプロジェクターに接続して直接投写できるので、コンピューターを使わずにプレゼンテーションができます。同梱のアプリケーションソフトEasyMP Slide ConverterでPowerPointファイルをシナリオに変換し、USBメモリーに保存して投写すれば、効果的なプレゼンテーションを行えます。
● [『プロジェクター活用ガイド』](#)(EB-1925W/1915)



ネットワークに接続してフル活用

同梱の『EPSON Projector Software for Meeting & Presentation』を使うとネットワークを有効に活用でき、効率的で多様なプレゼンテーションや会議が行えます。● [『プロジェクター活用ガイド』](#)(EB-1925W/1915)

- **ネットワークを利用した画面・音声転送(EasyMP Network Projection)**
すでに構築されているネットワークシステムに接続して投写できます。ネットワークシステムに接続した複数のコンピューターからケーブルをつなぎかえることなく1台のプロジェクターを利用でき、効率的に会議等を行えます。
動画や音声を転送してプロジェクターで再生できるので、プレゼンテーションの幅が広がります。
- **Windows Vistaのネットワークプロジェクタ機能に対応**
Windows Vista標準搭載のネットワークプロジェクタ機能を使うと、本機をネットワークに接続してネットワーク上の複数のユーザーが共有プロジェクターとして利用できます。
- **クイックワイヤレス用USBキーを使って接続**
オプション品のクイックワイヤレス用USBキーにプロジェクターの情報を保存してネットワーク上のコンピューターに接続すると、簡単にコンピューターの映像・音声を転送し、プロジェクターで再生することができます。● [『オプション・消耗品一覧』](#)

EB-1920W/1910の特長

ネットワークに接続してフル活用

同梱の『EPSON Projector Software for Meeting & Monitoring』を使うとネットワークを有効に活用でき、各会議室のプロジェクターも一括して管理できます。

- **ネットワークを利用した画面転送(EasyMP Network Projection)**

すでに構築されているネットワークシステムに接続して投写できます。

ネットワークシステムに接続した複数のコンピューターからケーブルをつなぎかえることなく1台のプロジェクターを利用でき、効率的に会議等を行えます。

- **クイックワイヤレス用USBキーを使って接続**

オプション品のクイックワイヤレス用USBキーにプロジェクターの情報を保存してネットワーク上のコンピューターに接続すると、簡単にコンピューターの映像をネットワーク経由で転送し、プロジェクターで投写することができます。☛ [『オプション・消耗品一覧』](#)

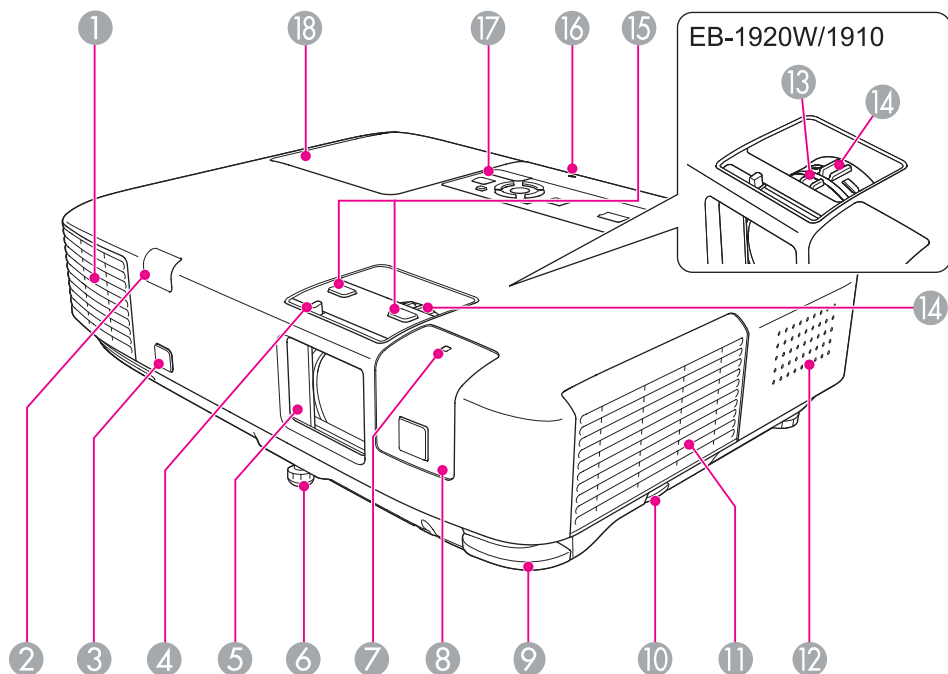
コンピューターを接続せずにJPEG画像を投写(スライドショー)

USBメモリーやUSBに対応したデジタルカメラを本機に接続して、USB機器に保存されているJPEG画像をそのままスライドショー投写できます。☛ [『プロジェクター活用ガイド』](#)(EB-1920W/1910)

前面/上面

イラストはEB-1925W/1915のものです。

以降、断りがない限りEB-1925W/1915のイラストを用いて説明しています。

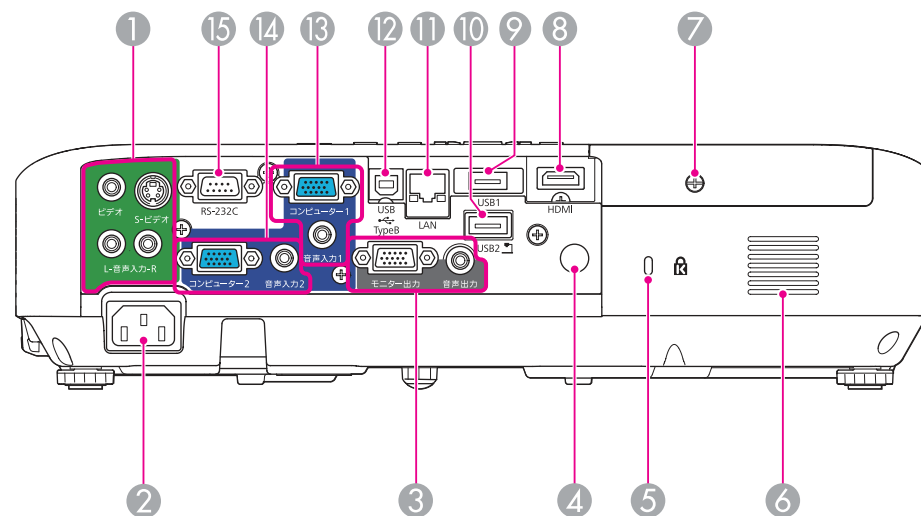


名称	働き
① 排気口	本機内部を空冷した空気の吐き出し口です。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⚠ 注意</p> <p>投写中は、排気口の付近に、熱で変形したり、悪影響を受けるものを置いたり、手や顔を近づけたりしないでください。</p> </div>

名称	働き
② リモコン受光部	リモコン信号を受信します。☛『セットアップガイド』
③ センサー (EB-1925W/1915 のみ)	投写映像を自動補正するときに、計測を行うセンサーです。
④ スライド式レンズカバー操作部	つまみをスライドさせてレンズカバーの開閉をします。
⑤ スライド式レンズカバー	本機を使用しないときに閉じ、投写レンズを保護します。投写中に閉めると映像と音声を消すことができます(AVミュート)。☛ p.31
⑥ フロントフット	机上に設置したとき、本機を傾けて映像の位置を上調整するときに伸ばします。☛『セットアップガイド』
⑦ 無線LANインジケータ (EB-1925W/1915 のみ)	オプションの無線LANユニットのアクセス状況をお知らせします。
⑧ 無線LANユニットカバー (EB-1925W/1915 のみ)	本機とコンピューターを無線で接続するときに、このカバーをはずしオプションの無線LANユニットを装着します。
⑨ フットレバー	フットレバーを引いて、フロントフットを伸縮させます。☛『セットアップガイド』
⑩ エアフィルターカバー開フック	エアフィルターカバーを開けるときに操作します。☛ p.100
⑪ 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を空冷するための空気を取り込みます。ここにホコリがたまると内部の温度が上昇し、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。エアフィルターは定期的に清掃してください。☛ p.95, p.100
⑫ スピーカー	
⑬ フォーカスリング (EB-1920W/1910のみ)	映像のピントを合わせます。☛『セットアップガイド』

名称	働き
⑭ ズームリング	映像のサイズを調整します。☞『セットアップガイド』
⑮ フォーカスポタン (EB-1925W/1915のみ)	映像のピントを調整するときに、このボタンを押します。☞『セットアップガイド』
⑯ USBインジケータ	USB1端子(EB-1925W/1915のみ)、USB(TypeA)端子(EB-1920W/1910のみ)に接続しているUSB機器の状態を以下のようにお知らせします。 消灯：USB機器未接続 オレンジ点灯：USB機器接続時 緑点灯：USB機器動作中 赤点灯：異常
⑰ 操作パネル	☞ p.16
⑱ ランプカバー	ランプ交換時に、このカバーを開けて中のランプを交換します。☞ p.97

背面(EB-1925W/1915)

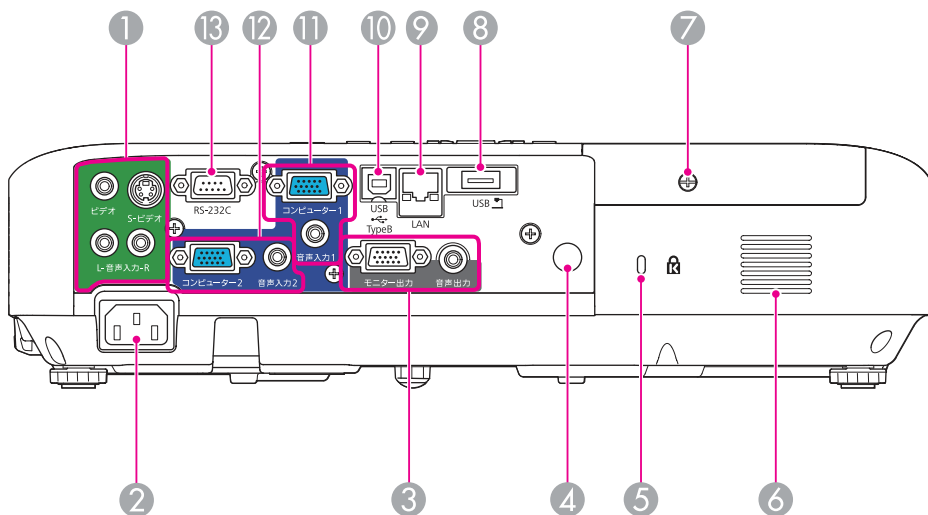


名称	働き
① ビデオ入力端子 S-ビデオ入力端子 音声入力端子	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。 ビデオ機器のS-ビデオ信号を入力します。 S-ビデオ入力端子またはビデオ入力端子に接続した機器のうち、本機から音声を出力したい機器の音声出力端子と接続します。 ☞『セットアップガイド』
② 電源端子	電源ケーブルを接続します。☞『セットアップガイド』

名称	働き
③ モニター出力端子 音声出力端子	外部モニターと接続し、コンピューター1入力端子から入力しているコンピューター映像信号を出力します。コンポーネントビデオ信号やコンピューター1入力端子以外の端子から入力している信号には対応していません。☛ p.114 現在投写している映像の音声を外部スピーカーに出力します。☛ p.114
④ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。☛ 『セットアップガイド』
⑤ セキュリティースロット	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティースロットです。☛ p.49
⑥ 吸気口	本機内部を空冷するための空気を取り込みます。ここにホコリがたまると内部の温度が上昇し、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。吸気口は定期的に清掃してください。
⑦ ランプカバー固定ネジ	ランプカバーを固定するネジです。☛ p.97
⑧ HDMI入力端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。本機はHDCP▶▶に対応しています。☛ 『セットアップガイド』
⑨ USB1端子	USBストレージやデジタルカメラを接続し、PC Freeで画像・動画ファイル、シナリオを投写します。☛ 『プロジェクター活用ガイド』(EB-1925W/1915)
⑩ USB2端子	オプション品の書画カメラ(ELPDC06)をここに接続します。書画カメラ専用の端子で、他の機器には対応していません。
⑪ LAN端子	LANケーブルを接続し、ネットワークに接続します。☛ p.113

名称	働き
⑫ USB(TypeB)端子	同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続して、コンピューターの映像を投写します。☛ 『セットアップガイド』 ワイヤレスマウス機能を使うときに、同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続します。☛ p.39
⑬ コンピューター1入力端子 音声入力1端子	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。 コンピューター1入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続し、音声を入力します。☛ 『セットアップガイド』
⑭ コンピューター2入力端子 音声入力2端子	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。 コンピューター2入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続し、音声を入力します。☛ 『セットアップガイド』 また、映像を入力している機器とは別の機器から音源を入力するときは、音声入力2端子に接続します。
⑮ RS-232C端子	コンピューターから本機を制御するときにRS-232Cケーブルでコンピューターと接続します。制御用の端子で通常は使用しません。☛ p.116

背面(EB-1920W/1910)

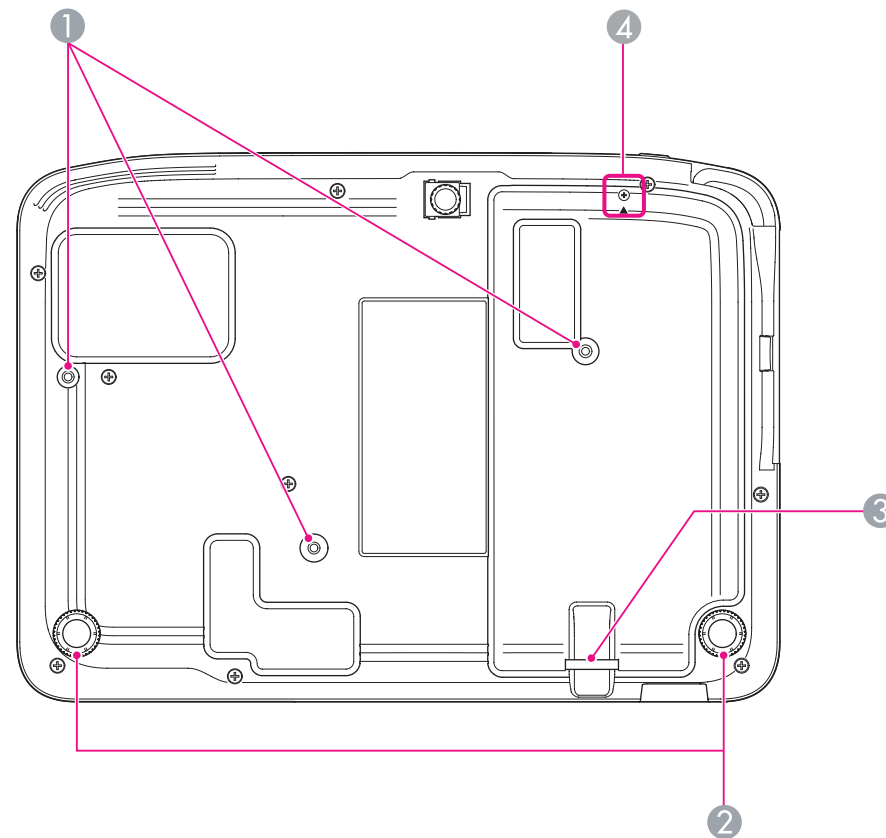


名称	働き
1 ビデオ入力端子 S-ビデオ入力端子 音声入力端子	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。 ビデオ機器のS-ビデオ信号を入力します。 S-ビデオ入力端子またはビデオ入力端子に接続した機器のうち、本機から音声を出力したい機器の音声出力端子と接続します。 ●『セットアップガイド』
2 電源端子	電源ケーブルを接続します。●『セットアップガイド』
3 モニター出力端子 音声出力端子	外部モニターと接続し、コンピューター1入力端子から入力しているコンピューター映像信号を出力します。コンポーネントビデオ信号やコンピューター1入力端子以外の端子から入力している信号には対応していません。● p.114 現在投写している映像の音声を外部スピーカーに出力します。● p.114

名称	働き
4 リモコン受光部	リモコン信号を受信します。●『セットアップガイド』
5 セキュリティーロック	Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティロックです。● p.49
6 吸気口	本機内部を空冷するための空気を取り込みます。ここにホコリがたまると内部の温度が上昇し、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。吸気口は定期的に清掃してください。
7 ランプカバー固定ネジ	ランプカバーを固定するネジです。● p.97
8 USB(TypeA)端子	USBストレージやデジタルカメラなどを接続し、JPEG画像をスライドショー投写します。●『プロジェクター活用ガイド』(EB-1920W/1910) また、オプション品の書画カメラ(ELPDC06)をここに接続します。
9 LAN端子	LANケーブルを接続し、ネットワークに接続します。● p.113
10 USB(TypeB)端子	同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続して、コンピューターの映像を投写します。●『セットアップガイド』 ワイヤレスマウス機能を使うときに、同梱のUSBケーブルでコンピューターと接続します。● p.39
11 コンピューター1入力端子 音声入力1端子	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。 コンピューター1入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続し、音声を入力します。 ●『セットアップガイド』

名称	働き
⑫ コンピューター2入力端子 音声入力2端子	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。 コンピューター2入力端子に接続した機器の音声出力端子と接続し、音声を入力します。☛『 セットアップガイド 』 また、映像を入力している機器とは別の機器から音源を入力するときは、音声入力2端子に接続します。
⑬ RS-232C端子	コンピューターから本機を制御するときにRS-232Cケーブルでコンピューターと接続します。制御用の端子で通常は使用しません。☛ p.116

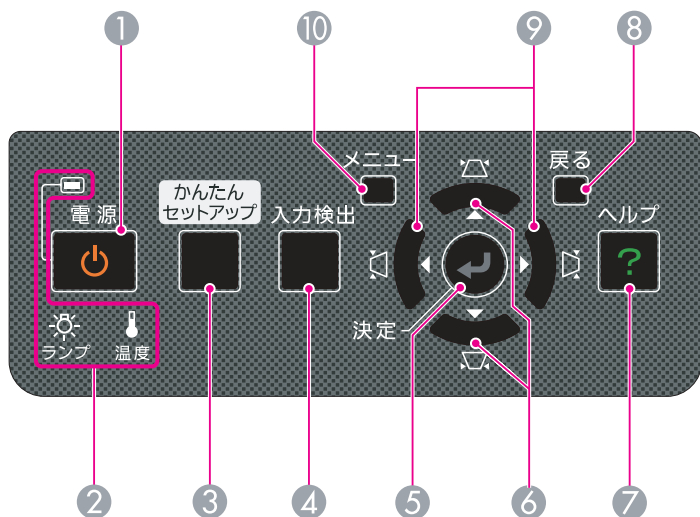
底面



名称	働き
① 天吊り固定部 (3箇所)	天井から吊り下げて使うとき、オプション品の天吊り金具を取り付けます。☛ p.94 , p.101
② リアフット	机上設置時に、水平方向の傾きを調整するときに回して伸縮させます。☛『 セットアップガイド 』
③ セキュリティーケーブル取付け部	市販の盗難防止用ワイヤーロックをこの部分に通して施錠します。☛ p.49

名称	働き
④ 無線LANユニットカバー固定用ネジ穴 (EB-1925W/1915 のみ)	無線LANユニットカバーを固定するネジ止め用の穴です。☛『 セットアップガイド 』

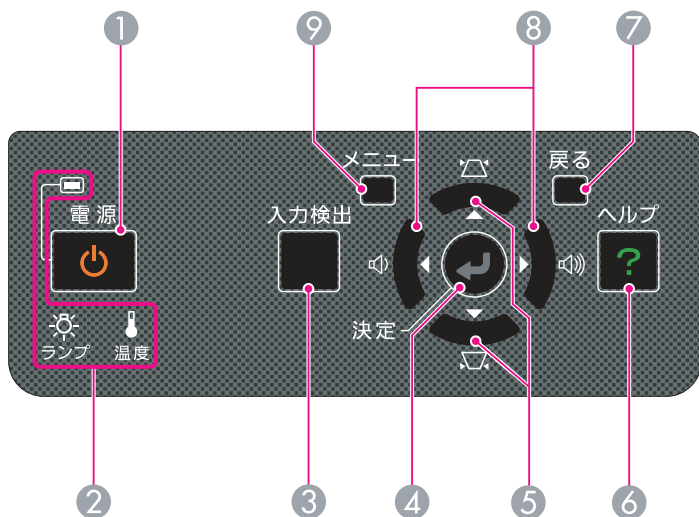
操作パネル(EB-1925W/1915)



名称	働き
① [⏻]ボタン	電源をオン/オフします。☞『 セットアップガイド 』
② 状態インジケータ	本機の状態を色や点灯・点滅で示します。 ☞ p.82
③ [かんたんセットアップ]ボタン	スクリーンの枠に合うように投写映像を補正するときを押します。☞ p.22 天吊り使用時はボタンを押しても機能しません。
④ [入力検出]ボタン	次に映像信号が入力されている機器の映像に切り替えます。☞ p.28
⑤ [決定]ボタン	コンピューター映像信号を投写中に押すと、最適に映るように トラッキング・同期・表示位置 が自動調整されます。 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。

名称	働き
⑥ [△/▲][□/▼]ボタン	タテ方向の台形補正を行うときに押します。 ただし、以下の場合は[▲][▼]ボタンとしてだけ機能します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows Vistaのネットワークプロジェクタ機能を使って投写しているとき • PC Freeで投写しているとき 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。☞ p.51 , p.81
⑦ [ヘルプ]ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。☞ p.81
⑧ [戻る]ボタン	実行中の機能を終了します。 環境設定メニュー表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。☞ p.51
⑨ [◀][▶][△/▲][□/▼]ボタン	ヨコ方向の台形補正を行うときに押します。 ただし、以下の場合は[◀][▶]ボタンとしてだけ機能します。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows Vistaのネットワークプロジェクタ機能を使って投写しているとき • PC Freeで投写しているとき 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。☞ p.51 , p.81
⑩ [メニュー]ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。☞ p.51

操作パネル(1920W/1910)



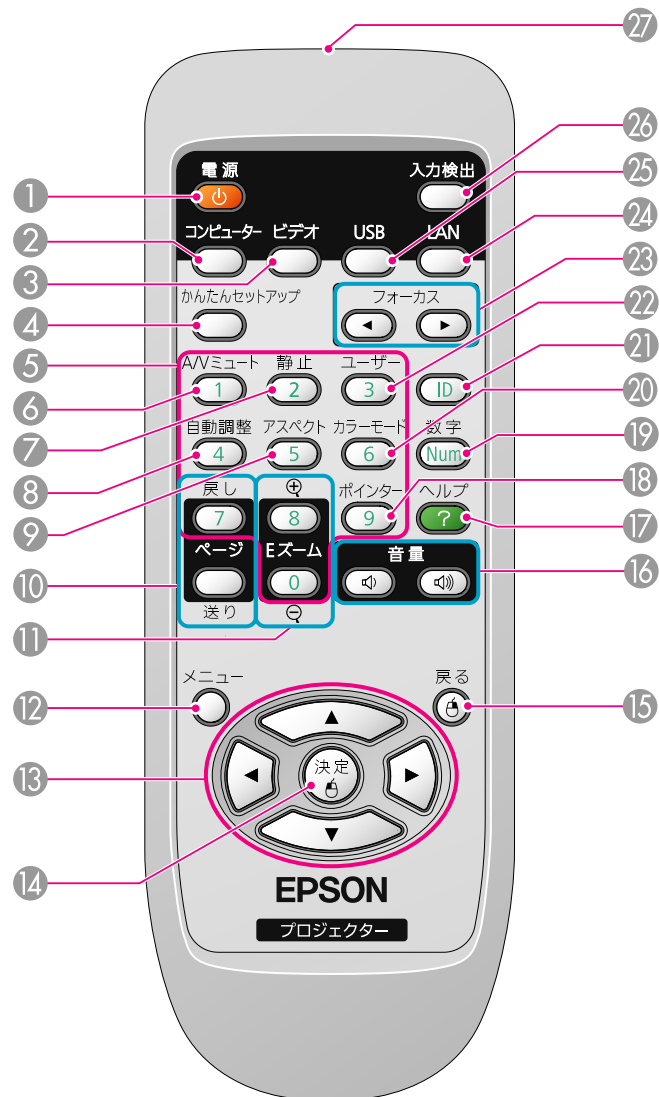
名称	働き
① [⏻]ボタン	電源をオン/オフします。☞『セットアップガイド』
② 状態インジケータ	本機の状態を色や点灯・点滅で示します。 ☞ p.82
③ [入力検出]ボタン	次に映像信号が入力されている機器の映像に切り替えます。☞ p.28
④ [決定]ボタン	コンピューター映像信号を投写中に押すと、最適に映るようにトラッキング・同期・表示位置が自動調整されます。 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。

名称	働き
⑤ [△/▲][▽/▼]ボタン	台形補正を行うときに押します。 ただし、スライドショーで投写しているときは[▲][▼]ボタンとしてだけ機能します。 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。☞ p.51, p.81
⑥ [ヘルプ]ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。☞ p.81
⑦ [戻る]ボタン	実行中の機能を終了します。 環境設定メニュー表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。☞ p.51
⑧ [◀][▶]ボタン	音量を調整するときに押します。 ただし、スライドショーで投写しているときは、[◀][▶]ボタンとしてだけ機能します。環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。☞『セットアップガイド』, p.51
⑨ [メニュー]ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。☞ p.51


⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります。電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

リモコン



名称	働き
① [電源]ボタン	本機の電源をオン/オフします。☛『セットアップガイド』
② [コンピューター]ボタン	押すたびに、コンピューター1入力端子、コンピューター2入力端子からの映像に切り替えます。
③ [ビデオ]ボタン	押すたびに、ビデオ入力端子、S-ビデオ入力端子、HDMI入力端子(EB-1925W/1915のみ)からの映像に切り替えます。
④ [かんたんセットアップ]ボタン	スクリーンの枠に合うように投写映像を補正するときには押します。(EB-1925W/1915のみ)☛ p.22 天吊り使用時や、EB-1920W/1910をお使いのときは、ボタンを押しても何も機能しません。
⑤ テンキーボタン	<ul style="list-style-type: none"> パスワード入力やリモコンIDを指定するときに使います。☛ p.42, p.45 環境設定メニューのネットワークメニューで数字を入力するときに使います。
⑥ [A/Vミュート]ボタン	映像と音声を一時的に消去/解除します。
⑦ [静止]ボタン	映像を一時停止/解除します。☛ p.32
⑧ [自動調整]ボタン	コンピューター映像信号を投写中に押すと、最適に映るようにトラッキング・同期・表示位置が自動調整されます。
⑨ [アスペクト]ボタン	押すたびに、アスペクト比が切り替わります。
⑩ [ページ]ボタン(送り)(戻し)	<ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスマウス機能時や、USBディスプレイでPower Pointファイルなどを投写しているときに、このボタンを押すとページの送り/戻しができます。☛ p.39, 『セットアップガイド』 EasyMP Network Projectionで、Power Pointファイルなどを投写しているときに、このボタンを押すとページの送り/戻しができます。 PC Free(EB-1925W/1915のみ)、スライドショー(EB-1920W/1910のみ)で投写しているときに、このボタンを押すと画面の切り替えを行えます。

名称	働き
⑪ [Eズーム]ボタン (+)(-)	(+) 投写サイズを変えずに映像を拡大します。 (-) [E]ボタンで拡大した結果を縮小します。 ☞ p.38
⑫ [メニュー]ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。☞ p.51
⑬  ボタン	環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。☞ p.51 ワイヤレスマウス機能時は、ボタンを押すと、押した方向にマウスポインターが移動します。 ☞ p.39
⑭ [決定]ボタン	環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ☞ p.51 ワイヤレスマウス機能時は、マウスの左ボタンとして機能します。☞ p.39
⑮ [戻る]ボタン	実行中の機能を終了します。環境設定メニューを表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☞ p.51 ワイヤレスマウス機能時は、マウスの右ボタンとして機能します。☞ p.39
⑯ [音量]ボタン(🔊)(🔇)	(🔊) 音量を下げます。 (🔇) 音量を上げます。 ☞ 『セットアップガイド』
	<p>⚠ 注意</p> <p>初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります。電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。</p>
⑰ [ヘルプ]ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。☞ p.81

名称	働き
⑱ [ポインター]ボタン	投写中の映像をポインターで指し示すときに押します。☞ p.37
⑲ [数字]ボタン	<ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力するときに使います。☞ p.45 環境設定メニューのネットワークメニューで数字を入力するときに使います。
⑳ [カラーモード]ボタン	押すたびにカラーモードが切り替わります。 ☞ p.30
㉑ [ID]ボタン	リモコンのIDを設定するときに押します。 ☞ p.42
㉒ [ユーザー]ボタン	環境設定メニューの項目のうち良く使われる5項目から任意に項目を選択して、このボタンに割り当てることができます。ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。 ☞ p.55 初期設定では明るさ切替が割り当てられています。
㉓ [フォーカス]ボタン [-][+]	映像のピントを調整するときに押します。(EB-1925W/1915のみ)☞ 『セットアップガイド』 EB-1920W/1910をお使いのときは、このボタンを押しても何も機能しません。
㉔ [LAN]ボタン	EasyMP Network Projectionで投写している映像に切り替えます。オプション品のクイックワイヤレス用USBキーを使って、クイックワイヤレスで投写しているときは、その映像に切り替えます。
㉕ [USB]ボタン	押すたびに、以下の映像に切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> USBディスプレイ USB1端子、USB2端子に接続した機器からの映像 (EB-1925W/1915のみ) USB(TypeA)端子に接続した機器からの映像 (EB-1920W/1910のみ)
㉖ [入力検出]ボタン	次に映像信号が入力されている機器の映像に切り替えます。☞ p.28

	名称	働き
27	リモコン発光部	リモコン信号を出力します。



便利な機能

ここでは、プレゼンテーションなどに効果的な機能と、セキュリティー機能について説明しています。

本機(EB-1925W/1915)には、投写映像を自動補正する以下の2つの機能があります。

● 自動タテヨコ補正

移動・設置したときや傾けたときなどプロジェクターが動きを感知すると、投写映像のタテ方向・ヨコ方向の台形ゆがみとピントのずれを自動的に補正します。この機能を本機では自動タテヨコ補正といいます。

プロジェクターが動きを感知してから約2秒間静止すると、調整用の画面が表示されたあとに投写映像が補正されます。☞『[セットアップガイド](#)』



- 自動タテヨコ補正が機能するのは、環境設定メニューの**拡張設定メニュー - 設置モード**で**フロント**を選択しているときのみです。
☞ [p.57](#)
- 自動タテヨコ補正を機能させたくないときは、環境設定メニューの**設定メニュー - 台形補正 - タテヨコ - 自動タテヨコ補正**を**オフ**に設定してください。☞ [p.55](#)

● かんたんセットアップ

かんたんセットアップは、投写映像をスクリーンやホワイトボードなどの枠(縁取りの部分)に合うように補正する機能です。リモコンまたは操作パネルの[かんたんセットアップ]ボタンを押すと、投写映像がスクリーンの枠に収まると同時に、ゆがみ補正・ピント調整を自動で行います。

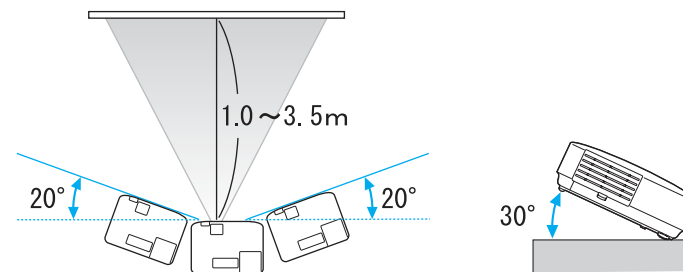
ここではかんたんセットアップで補正する方法について説明します。

かんたんセットアップで投写映像を正しく補正できる条件は、以下のとおりです。

スクリーンのサイズ：100型以内

本機とスクリーンの距離：約1.0～3.5m

補正角度：左右約20°/上下約30°

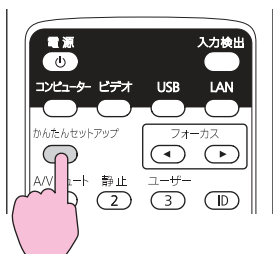


- 上記の範囲を越えると正しく補正ができません。手動で投写映像を補正してください。また、上下左右の組み合わせによっては、正しく補正できる範囲が上記の範囲よりせまくなることがあります。
- 天吊り使用時は、かんたんセットアップは機能しません。手動で投写映像の補正をしてください。

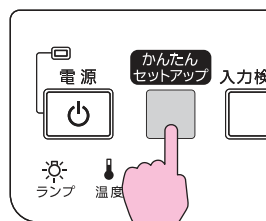
操作

- 1 リモコンまたは操作パネルの[かんたんセットアップ]ボタンを押します。

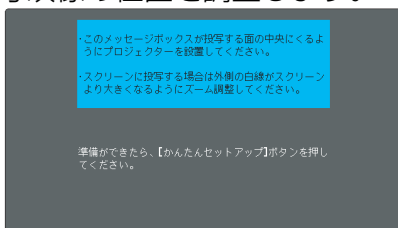
リモコンの場合



操作パネルの場合



次のメッセージボックスが表示されるので、メッセージボックスがスクリーンの中央にくるように、プロジェクターを動かして投写映像の位置を調整します。

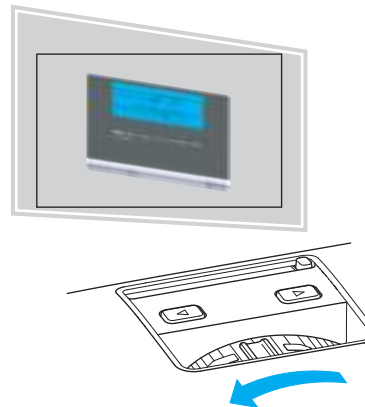


【かんたんセットアップ】の実行 【戻る】/中止



メッセージボックスがスクリーンの枠内に収まっていないと、かんたんセットアップでの補正ができません。プロジェクターを設置する位置やズームリングで投写映像を調整してもメッセージボックスがスクリーンの枠からはみ出してしまうときは、手動で投写映像を補正してください。

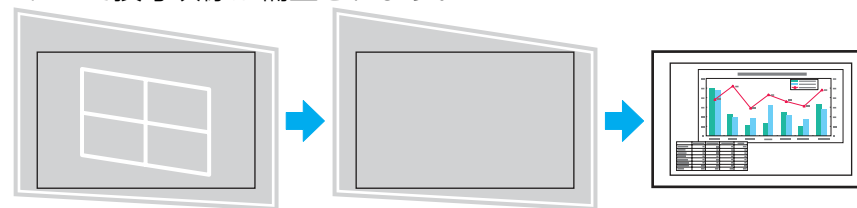
- 2 投写エリア(外側の白線)がスクリーンの枠より大きくなるように、ズームリングで調整します。






ズームリングで投写エリアを最大にしても投写エリアがスクリーンの枠より大きくなるときは、プロジェクターを設置する位置をスクリーンから離してみてください。(このときメッセージボックスの位置がスクリーンの中央からずれたときは、中央にくるように調整します。)


- 3 再び、[かんたんセットアップ]ボタンを押します。

調整用の画面が表示されたあと、入力映像のアスペクト比▶に合わせて投写映像が補正されます。







調整用の画面が表示されたら、プロジェクターを動かしたり、映像を遮断しないでください。正しく補正されません。

- ④ 補正後は以下のメッセージが表示されます。そのまま補正を終了するときは、リモコンまたは操作パネルの[戻る]ボタンを押すと、メッセージが消えます。
補正後の投写映像を微調整するときは、操作パネルの[]
[][]ボタンを押して調整します。☛ p.25の手順③

補正結果は本体操作パネルの  で微調整
できます。

何も操作しないと、このメッセージは約5秒後に消えます。

かんたんセットアップ実行後は、環境設定メニューの台形補正が **Quick Corner** に設定されます。以降、操作パネルの[][]
[][]ボタンで投写映像を補正するときは、Quick Cornerでの補正になります。☛ p.25



- かんたんセットアップは投写エリア内に2辺以上の枠を検知すると、検知した枠に合わせて補正をします。たとえば、せまい部屋で横長のスクリーンに投写するときは、スクリーンの上下の辺を投写エリア内に収めることで、補正が可能です。



- 明かりを消した部屋など暗い環境でお使いのときは、かんたんセットアップがうまく機能しない場合があります。その場合は、部屋を明るくしてから、再度、かんたんセットアップを実行してみてください。
- かんたんセットアップはセンサーを使用しているため、投写面の状態(たわみや模様など)や外光の影響によっては正しく機能しないことがあります。この場合は手動で調整を行ってください。☛ 『セットアップガイド』

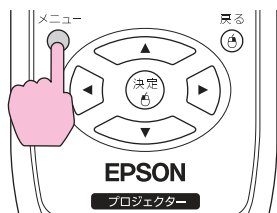
本機(EB-1925W/1915)で、投写映像のゆがみを手動補正するには、以下の2通りの方法があります。

- タテヨコ補正
タテ方向の台形ゆがみ、ヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。タテヨコ補正は台形ゆがみを微調整するのに向いています。本体操作パネルの[][][]ボタンで簡単に補正できます。☞『セットアップガイド』
- Quick Corner
スクリーンに合わせて投写映像の4つのコーナーを個別に補正します。ここでは、Quick Cornerで補正する方法を説明します。

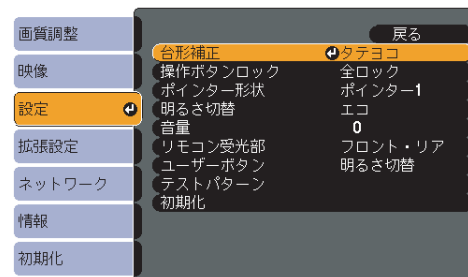
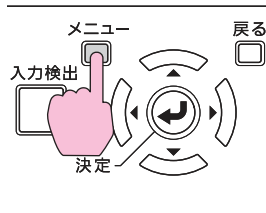
操作

- 1 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから設定メニュー - 「台形補正」を選びます。☞「環境設定メニューの操作」 p.51

リモコンの場合



操作パネルの場合



【戻る】:戻る 【↔】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

2

「Quick Corner」を選択し[決定]ボタンを押します。






【戻る】:戻る 【↔】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了









もう一度[決定]ボタンを押すと、次の4つのコーナーを選択する画面が表示されます。

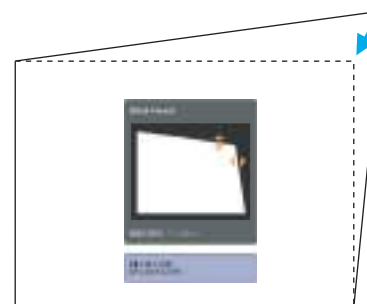


【◆/◆】: 選択
【決定】: 決定
【戻る】: 戻る(2秒間押下で初期化/切替)

- ③ 補正するコーナーをリモコンの  ||  ||  ||  ボタンまたは操作パネルの  ||  ||  ||  ボタンで選択して【決定】ボタンを押します。











- ④ リモコンの  ||  ||  ||  ボタンまたは操作パネルの  ||  ||  ||  ボタンでコーナーの位置を補正します。







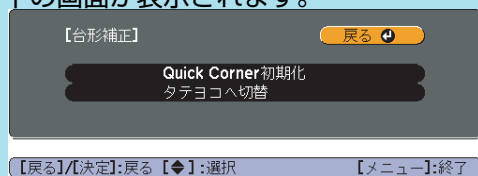
補正中に以下の画面が表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。



- ⑤ 手順③と④を繰り返して補正が必要なコーナーすべてを補正します。
- ⑥ 補正を終了するには、【戻る】ボタンを押します。
環境設定メニューの台形補正で補正方法をQuick Cornerに変更したので、以降は操作パネルの  ||  ||  ||  ボタンを押すと手順②のコーナーを選択する画面が表示されます。操作パネルの  ||  ||  ||  ボタンを押したときにタテヨコ補正したいときは、環境設定メニューの台形補正をタテヨコに変更してください。



- 環境設定メニューの**設定メニュー - 台形補正**で、**自動タテヨコ補正**をオンに設定していると、本機を動かしたときに、「**自動タテヨコ補正を実行しますか?**」とメッセージが表示されます。実行したときは、環境設定メニューの**台形補正**が**Quick Corner**から**タテヨコ**に設定されるので、以降は操作パネルの[][] [][] ボタンを押すとタテヨコ補正になります。☞ p.55
- Quick Cornerで補正中に[戻る]ボタンを約2秒間押し続けると、以下の画面が表示されます。



Quick Corner初期化：Quick Cornerで補正した結果を初期化します。

タテヨコへ切替：補正方法を**タテヨコ**に切り替えます。

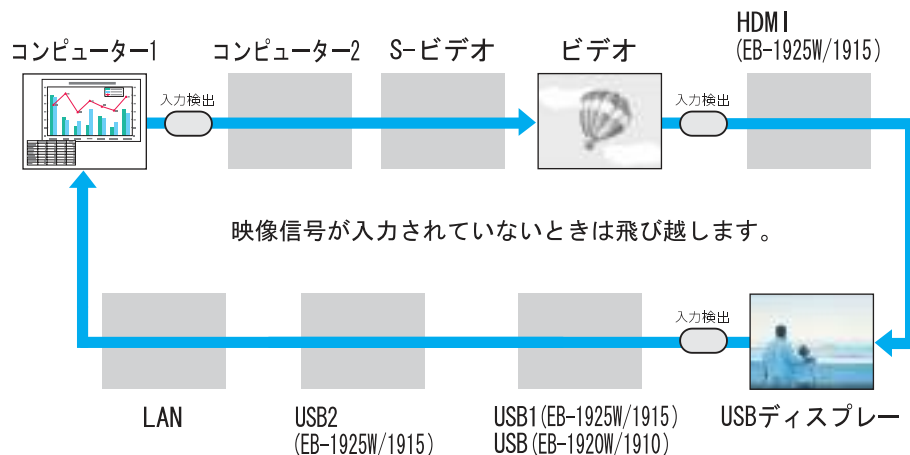
☞ p.55

投写する映像を切り替えるには以下の2通りの方法があります。

- 入力検出で切り替える
本機に接続している機器から映像信号が入力されているかを自動検出し、映像信号が入力されている機器の映像を投写します。
- ダイレクトに目的の映像に切り替える
リモコンから目的の入力端子のボタンを押して切り替えます。

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)

[入力検出]ボタンで切り替えると、映像信号が入力されていない入力端子には切り替わりませんので、目的の映像をすばやく投写できます。



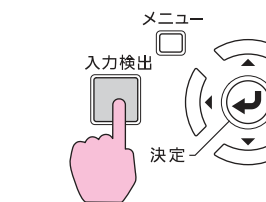
操作

ビデオ機器を接続しているときは、再生状態にしてから操作を開始してください。

リモコンの場合



操作パネルの場合



複数の機器を接続しているときは、目的の映像が投写されるまで[入力検出]ボタンを繰り返し押します。



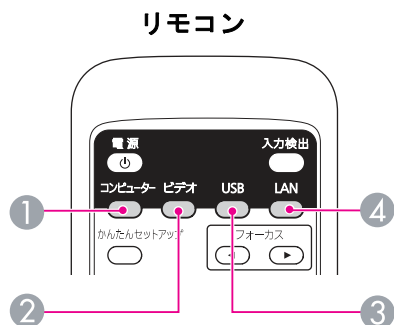
現在投写されている映像信号しか入力されていない場合や映像信号がまったく入力されていないときは、映像信号の状態を示す以下の画面が表示されます。この画面では投写したい機器を接続している入力端子を選択することができます。何も操作しないと、約10秒で画面は消えます。

例：1925W/1915の場合



リモコンで目的の映像に切り替える

以下のリモコンのボタンを押すと、目的の映像に直接切り替えることができます。



- ① 押すたびに、コンピューター1入力端子、コンピューター2入力端子からの映像に切り替えます。
- ② 押すたびに、ビデオ入力端子、S-ビデオ入力端子、HDMI入力端子 (EB-1925W/1915のみ)からの映像に切り替えます。
- ③ 押すたびに、以下の映像に切り替えます。
 - USBディスプレイ
 - USB1 端子、USB2 端子に接続した機器からの映像 (EB-1925W/1915のみ)
 - USB(TypeA)端子に接続した機器からの映像 (EB-1920W/1910のみ)
- ④ EasyMP Network Projectionで投写している映像に切り替えます。オプション品のクイックワイヤレス用USBキーを使って、クイックワイヤレスで投写しているときは、その映像に切り替えます。

映り具合を選ぶ(カラーモードの選択)

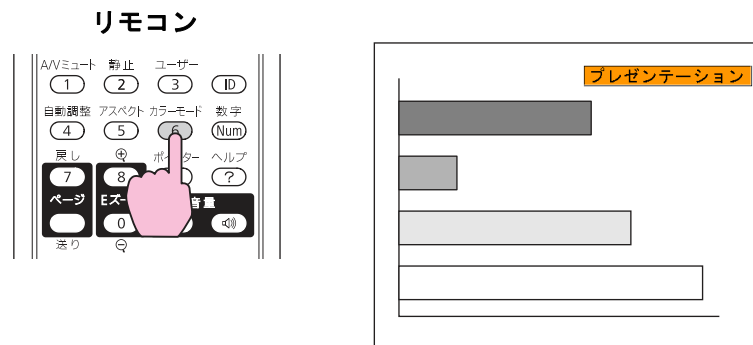
投写時の環境に応じて次の設定から選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが変わります。

モード名	使い方
ダイナミック	明るい部屋での使用に最適です。一番明るいモードで、暗部の階調表現に優れています。
プレゼンテーション	明るい部屋で、カラーの資料を使ってプレゼンテーションを行うのに最適です。
シアター	暗い部屋で、映画を楽しむのに最適です。自然な色合いの映像になります。
フォト※1	明るい部屋で、写真などの静止画像を投写するのに最適です。鮮やかで、コントラストのある映像になります。
スポーツ※2	明るい部屋で、テレビ番組などを楽しむのに最適です。鮮やかで、臨場感のある映像になります。
sRGB	sRGB▶に準拠した映像になります。
黒板	黒板(緑色)に投写しても、スクリーンに投写したときのような自然な色合いの映像になります。
ホワイトボード	ホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行うのに最適です。
カスタム	環境設定メニューのカラー調整でR、G、B、C、M、Yの調整をしたいときは事前にカスタムを選択しておきます。

※1 RGB信号入力時と入力ソースがUSBディスプレイ/USB1/USB2/USB/LANのときのみ選択できます。(お使いの機種により対応していない入力ソースがあります。)

※2 コンポーネントビデオ信号入力時と、入力ソースがS-ビデオ/ビデオのときのみ選択できます。

操作



ボタンを押すたびに画面上にカラーモード名が表示され、カラーモードが切り替わります。

カラーモード名が画面上に表示されている間にボタンを押すと、次のカラーモードに切り替わります。



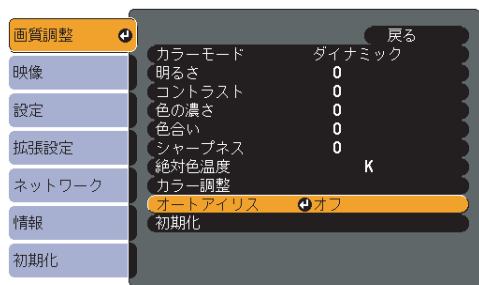
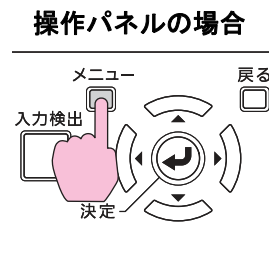
環境設定メニューの画質調整メニュー - カラーモードからも設定できます。▶ p.52

オートアイリス(自動絞り)を設定する

表示される映像の明るさに合わせて、光量を自動的に設定することで、奥行きと深みのある画像が楽しめます。

操作

- 1 [メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから画質調整メニュー - 「オートアイリス」を選びます。☞「環境設定メニューの操作」 p.51



【戻る】:戻る 【↔】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

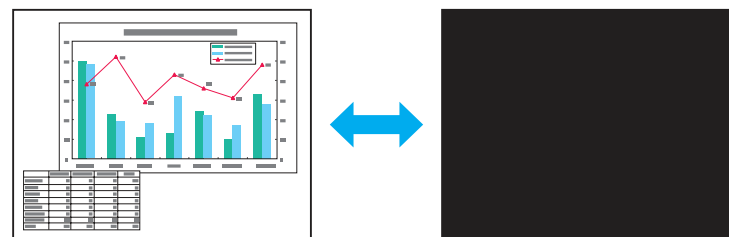
- 2 「オン」を選択します。
設定値はカラーモードごとに保存されます。
- 3 [メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。



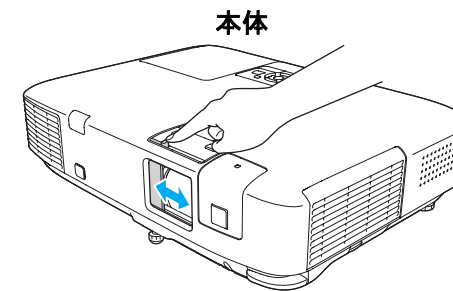
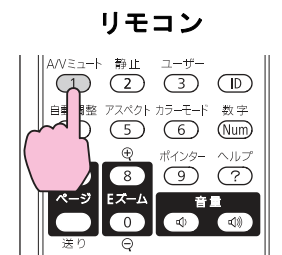
カラーモードがダイナミック、シアター、カスタムのいずれかに設定されているときに限り、オートアイリスの設定ができます。

映像と音声を一時的に消す(AVミュート)

スクリーンの映像を消して聴衆を話しに集中させたいときや、ファイルの切り替え操作などを見せたくないときに使います。



操作



ボタンを押す、またはレンズカバーを閉/開するたびにAVミュートが実行/解除されます。



- 動画の場合は、AVミュート中でも映像と音声は進んでいますので、消したときの場面からは再開できません。
- リモコンで操作したときのAVミュート中の表示状態は**拡張設定メニュー - 表示設定 - AVミュート**で黒、青、ロゴの中から選ぶことができます。☞ p.57
- レンズカバーを閉じた状態が約30分続くとレンズカバータイマーが機能し、自動的に電源がオフになります。レンズカバータイマーを機能させたくないときは**拡張設定メニュー - 動作設定- レンズカバータイマー**の設定をオフに変更します。☞ p.57
- AVミュート中でもランプは点灯しているので、ランプ点灯時間に累積されます。



- 音声は停止しません。
- 動画の場合は、停止している間も映像は進んでいますので、消したときの場面からは再開できません。
- 環境設定メニューやヘルプを表示中に[静止]ボタンを押すと、表示中のメニュー・ヘルプは消去されます。
- Eズーム実行中も、静止機能で停止できます。

映像を停止させる(静止)

静止を実行したときの画面が投写されたままになりますので、動画の一場面を静止画で投写できます。また、ファイル切り替えの前に静止を実行すれば、操作内容を投写せずに操作できます。

操作



ボタンを押すたびに静止が実行/解除されます。

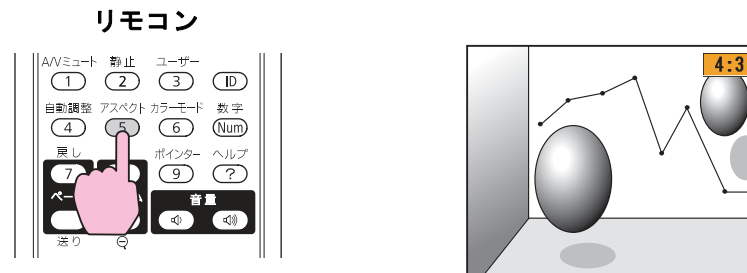
アスペクト比を切り替える

ビデオ機器を接続し、デジタルビデオで録画した映像やDVD映像を16:9のワイド画面で投写するときには**アスペクト比**▶を切り替えます。コンピューター映像を投写サイズいっぱい投写するときなどもアスペクト比を切り替えます。

切り替え方法とアスペクトの種類は次のとおりです。

切り替え方法

操作



ボタンを押すたびに画面上にアスペクト名が表示され、アスペクトが切り替わります。

アスペクト名が画面上に表示されている間にボタンを押すと、次のアスペクトモードに切り替わります。

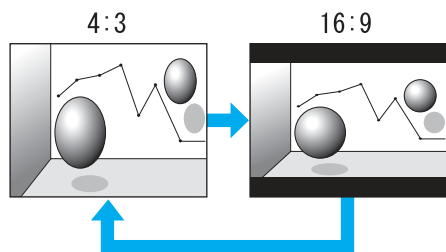


環境設定メニューの映像メニュー - アスペクトからも設定できます。 p.53

ビデオ機器の映像のアスペクトを切り替える

EB-1915/1910の場合

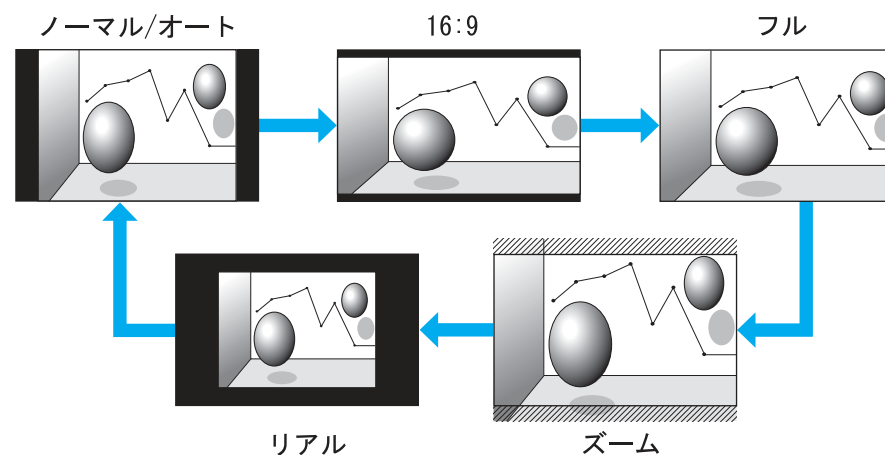
ボタンを押すたびに、**4:3**と**16:9**が切り替わります。



※720p/1080i信号入力時はズーム4:3表示(映像の左右をカットした表示)になります。

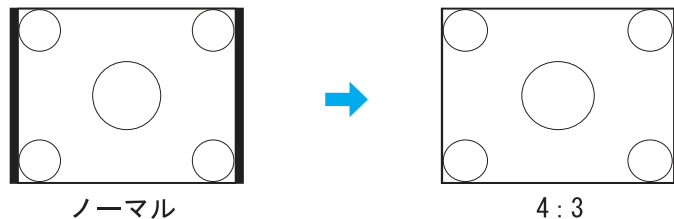

EB-1925W/1920Wの場合

ボタンを押すたびに、**ノーマル**または**オート**、**16:9**、**フル**、**ズーム**、**リアル**の順で切り替わります。



コンピューター映像のアスペクトを切り替える(EB-1915/1910の場合)

コンピューター1/2入力端子、HDMI入力端子(EB-1915のみ)からの映像投写時は、以下のようにアスペクトを切り替えられます。

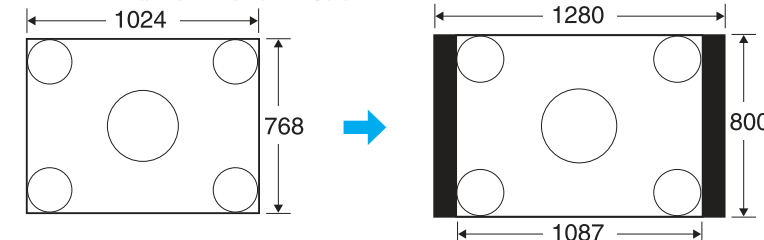
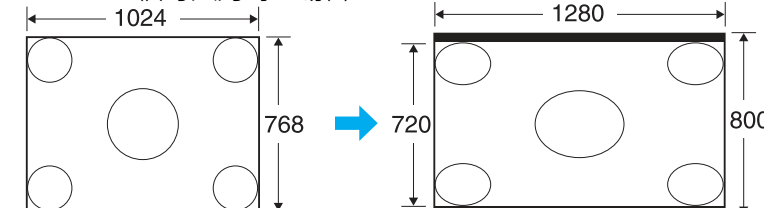
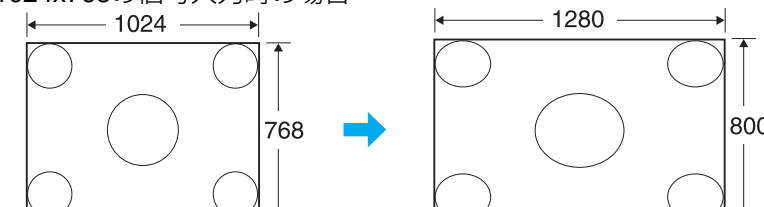
設定値	動作	投写例
ノーマル 入力ソースがコンピューター1/2のときに表示されます。	入力した映像のアスペクトのまま投写サイズいっぱいになるように投写します。	
オート(EB-1915のみ) 入力ソースがHDMIのときに限り表示されます。	入力した信号の情報に基づき適切なアスペクトで投写します。	
4:3	4:3のアスペクトで投写サイズいっぱいになるように投写します。アスペクトが5:4(1280x1024など)の映像を投写サイズいっぱい投写したいときなどに適しています。	1280x1024の信号入力時の場合 
16:9	16:9のアスペクトで投写します。16:9のスクリーン使用時に、スクリーンいっぱい投写したいときに適しています。	1280x1024の信号入力時の場合 

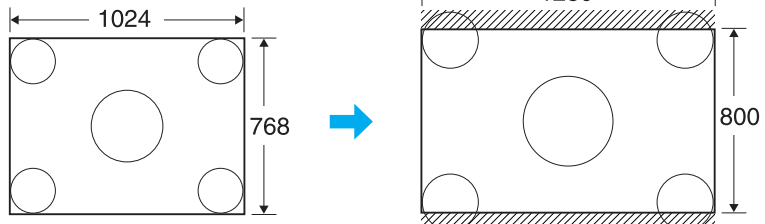
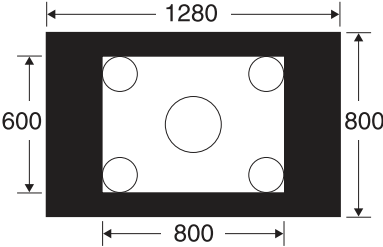
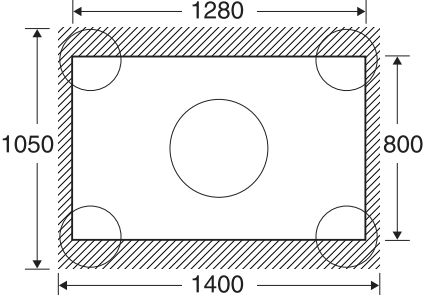


投写映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターのパネルサイズに合わせて環境設定メニューの**入力解像度**を**ワイド**または**ノーマル**に設定してください。

コンピューター映像のアスペクトを切り替える(EB-1925W/1920Wの場合)

コンピューター1/2入力端子、HDMI入力端子(EB-1925Wのみ)からの映像投写時は、以下のようにアスペクトを切り替えられます。EB-1925W/1920Wはパネル解像度がWXGAのため投写サイズは1280x800ドット(アスペクト比16:10)です。16:9のスクリーンに投写するときは、アスペクトを16:9に設定してください。

設定値	動作	投写例
ノーマル	入力した映像のアスペクトのまま投写サイズいっぱいになるように投写します。	1024x768の信号入力時の場合 
オート(EB-1925Wのみ) 入力ソースがHDMIのときに限り表示されます。	入力した信号の情報に基づき適切なアスペクトで投写します。	
16:9	16:9のアスペクトで投写サイズいっぱいになるように投写します。	1024x768の信号入力時の場合 
フル	投写サイズいっぱいになるように投写します。	1024x768の信号入力時の場合 

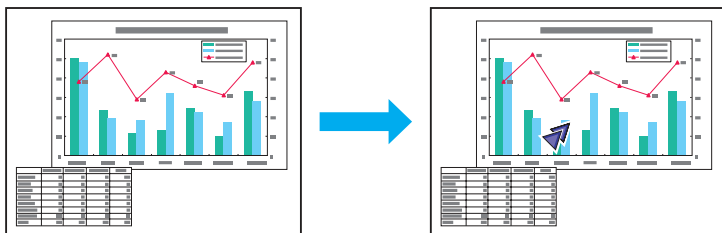
設定値	動作	投写例	
<p>ズーム</p>	<p>入力した映像のアスペクトのまま横方向が投写サイズいっぱいになるように投写します。投写サイズをはみ出した分は投写されません。</p>	<p>1024x768の信号入力時の場合</p> 	
<p>リアル</p>	<p>入力した映像の解像度のまま投写サイズの中央に投写します。よりはっきり投写したいときに適しています。映像の解像度が1280x800を超えるときは、映像の周辺部分は投写されません。</p>	<p>800x600の信号入力時</p> 	<p>1400x1050の信号入力時</p> 



投写映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターのパネルサイズに合わせて環境設定メニューの**入力解像度をワイドまたはノーマル**に設定してください。👉 p.53

説明箇所を指し示す(ポインター)

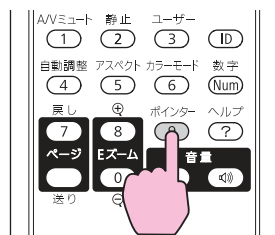
ポインターで映像を指し示し、どこを説明しているかを明確にしたり、注目させるときに使用します。



操作

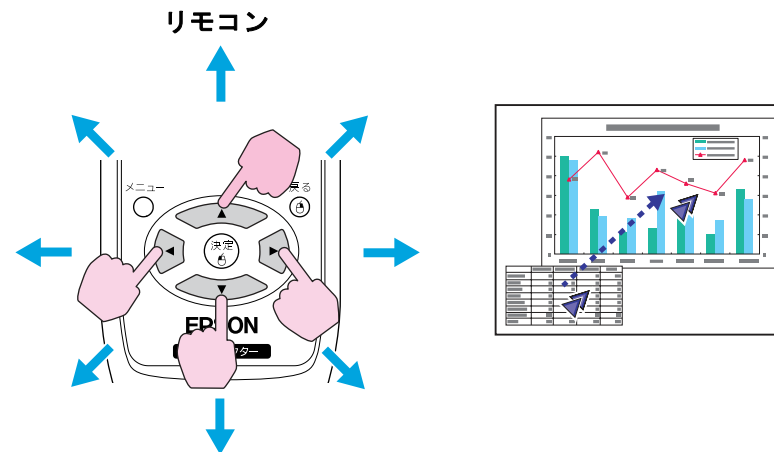
① ポインターを表示します。

リモコン



ボタンを押すたびに表示/非表示が切り替わります。

② ポインターアイコン(➤)を移動します。



隣り合う[◀][▶][↶][↷]ボタンを組み合わせると斜め方向にも移動することができます。

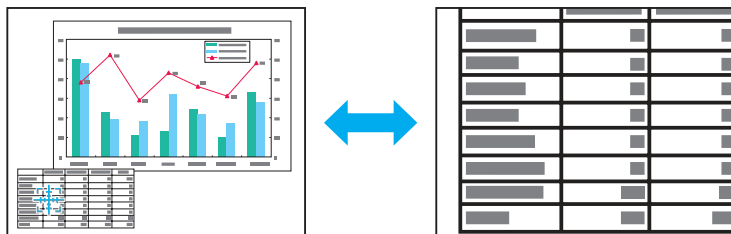


環境設定メニューの**設定メニュー** - **ポインター形状**でポインターアイコンの形状を3種類(➤・✕・➤)から設定できます。

🖱️ p.55

映像を部分的に拡大する(Eズーム)

グラフや表の細目などを拡大して見せたいときに便利です。



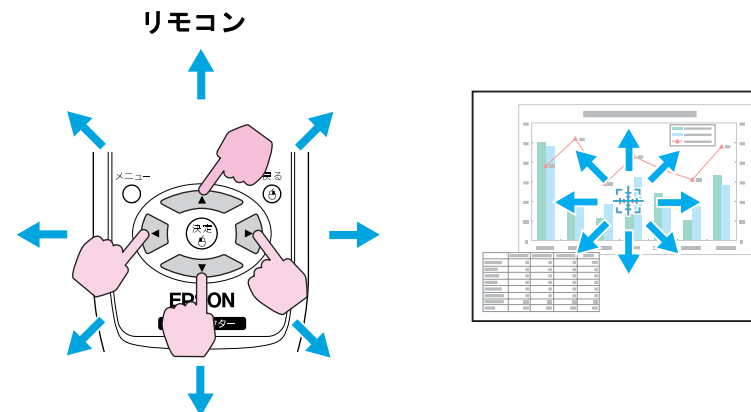
操作

- 1 Eズームを開始します。

リモコン



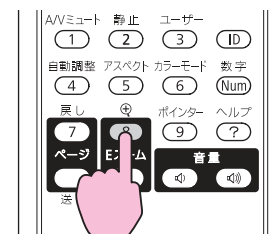
- 2 拡大表示したい部分にターゲットスコープ(十字)を移動させます。



隣り合う[▲][▼][▶][◀]ボタンを組み合わせると斜め方向にも移動することができます。

- 3 拡大します。

リモコン





ボタンを押すたびに拡大されます。ボタンを押し続けると、すばやく拡大できます。

[e]ボタンを押すと拡大した結果を縮小します。

解除するには[戻る]ボタンを押します。

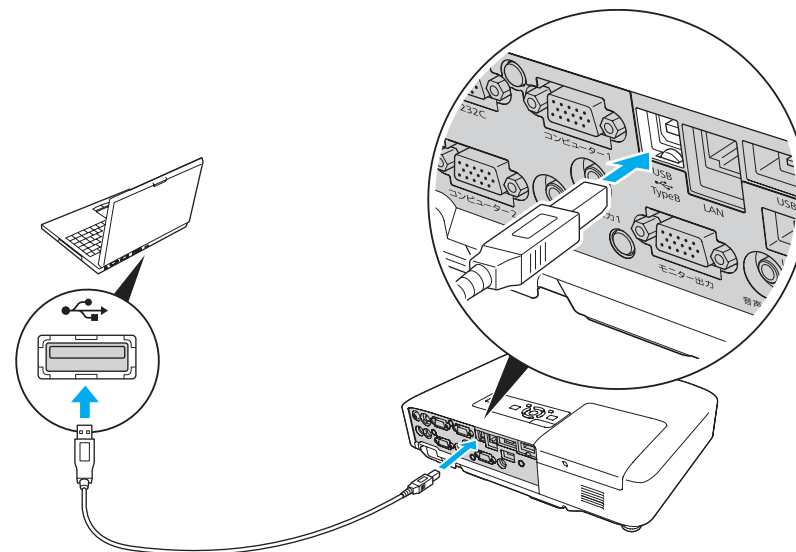


- 画面上に倍率が表示されます。 1~4倍まで、25段階で拡大できます。
- [ || ] ボタンを押すと、映像をスクロールできます。
- Eズームで拡大表示すると、プログレッシブ変換とノイズリダクションは一時的に解除されます。

リモコンでマウスポインターを操作する(ワイヤレスマウス)

ワイヤレスマウス機能を実行するには、環境設定メニューの**拡張設定**メニュー-**USB Type B**を**ワイヤレスマウス**に設定します。初期設定では**USB Type B**はUSBディスプレイに設定されています。事前に設定の変更をしてください。☞ [p.57](#)

コンピューターのUSB端子と、本機背面のUSB(TypeB)端子を同梱のUSBケーブルで接続すると、ワイヤレスマウスのように、リモコンでコンピューターのマウスポインターを操作できます。



対応OS

Windows : 98/98SE/2000/Me/XP Home Edition/
XP Professional/Vista Home Basic/Vista Home Premium/
Vista Business/Vista Enterprise/Vista Ultimate

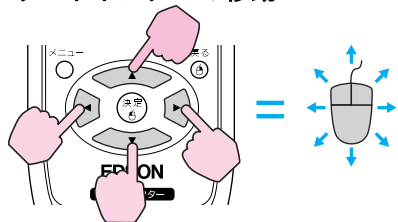
Macintosh : Mac OS X 10.3 ~ 10.5



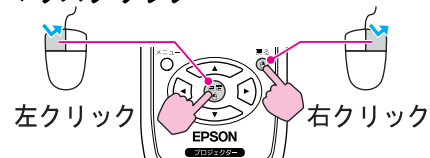
- ワイヤレスマウス機能は入力ソースがコンピューター1/コンピューター2/HDMI(EB-1925W/1915のみ)のときのみ使用できます。
- USBディスプレイで投写しているときはページ送り/戻しの操作のみできます。
- Windows/MacintoshともにOSのバージョンによりワイヤレスマウス機能を使用できない場合があります。
- マウスを使用するために、コンピューター側の設定が必要な場合があります。詳しくはコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

接続した後はマウスポインターを次のように操作できます。

マウスポインターの移動

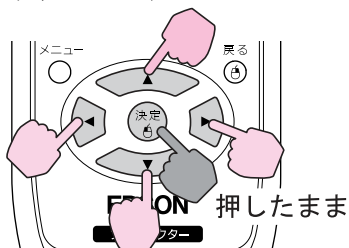


マウスクリック



左クリック：[決定]ボタンを押します。
 右クリック：[戻る]ボタンを押します。
 ダブルクリック：すばやく2回押します。

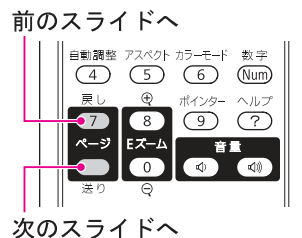
ドラッグ&ドロップ



- ① [決定]ボタンを押したまま、
 [↑] [↓] [←] [→] ボタンを押してドラッグします。
- ② 任意の場所で[決定]ボタンを離すと、ドロップします。

PowerPointの画面切り替え

PowerPointのスライドショーで、前のスライドを表示次のスライドを表示

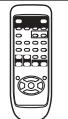
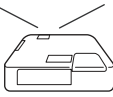
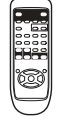


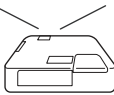
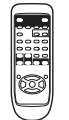
- 隣り合う[↑] [↓] [←] [→] ボタンを組み合わせると斜め方向にも移動することができます。
- コンピューターでマウスボタンの左右を逆に設定している場合は、リモコンでの操作も逆になります。
- 次の機能を使用しているときは、ワイヤレスマウス機能は行えません。
 - ・環境設定メニュー表示中
 - ・ヘルプ表示中
 - ・Eズーム機能中
 - ・ユーザーロゴのキャプチャ中
 - ・ポインター機能中
 - ・音量調整中
 - ・USBディスプレイ投写中
 - ・テストパターン表示中
 - ・カラーモード設定中
 - ・カラーモード名表示中
 - ・入力ソース名表示中
 - ・入力ソース切り替え中

プロジェクターとリモコンにIDを設定するとIDが一致するプロジェクターだけをリモコンで操作できるようになり、本機を複数台並べて使用するとき便利です。

プロジェクターには1～9までのIDを設定できます。初期値はオフになっています。

リモコンには0～9までのIDを設定できます。初期値は0になっています。プロジェクターIDとリモコンのIDの組み合わせ例は、次のとおりです。

リモコン操作	組み合わせの例		解説
○(可)		プロジェクターID：1	プロジェクターIDとリモコンIDが同じなのでプロジェクターをリモコンで操作できます。
		リモコンID：1	
○(可)		プロジェクターID：オフ	プロジェクターIDをオフに設定すると、リモコンのID設定に関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。
		リモコンID：1	
○(可)		プロジェクターID：1	リモコンIDを0に設定すると、プロジェクターのID設定に関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。
		リモコンID：0	

リモコン操作	組み合わせの例		解説
×(不可)		プロジェクターID：1	プロジェクターIDとリモコンIDが一致しないので、プロジェクターをリモコンで操作できません。
		リモコンID：3	

プロジェクターのIDを設定する

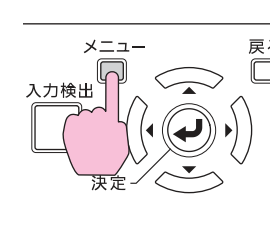
操作

- 1 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから拡張設定メニュー - 「プロジェクターID」を選びます。☞「環境設定メニューの操作」 p.51

リモコンの場合

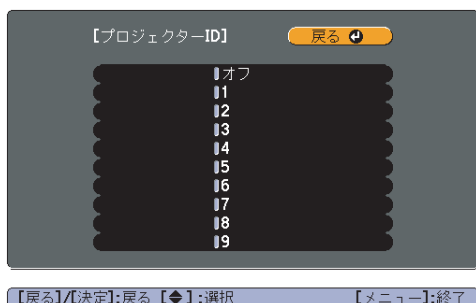


操作パネルの場合





- ② 設定したいIDを選び[決定]ボタンを押します。



- ③ [メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

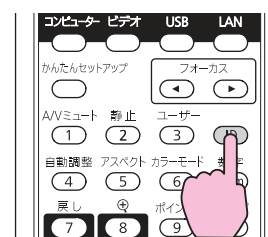
リモコンのIDを設定する

リモコンのIDはプロジェクターの電源を入れるたびに設定してください。電源を入れたときのリモコンIDは0(プロジェクターのIDの設定に関係なくリモコンでプロジェクターを操作できる状態)に設定されています。

操作

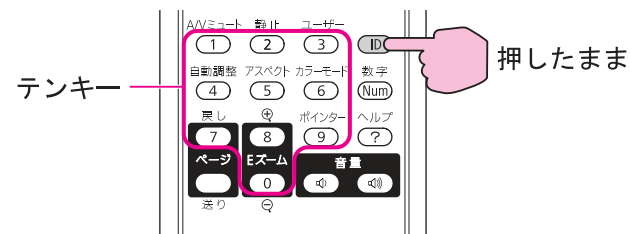
- ① 操作するプロジェクターのリモコン受光部にリモコンを向けて、リモコンの[ID]ボタンを押します。

リモコン



ボタンを押すと、投写画面上に現在のプロジェクターIDが表示されます。表示は約3秒経つと消えます。

- ② [ID]ボタンを押したまま、操作対象プロジェクターのIDと同じ数字のボタンを押します。



設定が終了するとリモコンから操作できるプロジェクターが限定されます。



プロジェクターの電源を切ると、リモコンのIDは0(プロジェクターのIDの設定に関係なくリモコンでプロジェクターを操作できる状態)に戻ります。

本機は複数台並べて並列投写したとき、それぞれの映像の明るさと色合いの違いをマルチスクリーンカラーアジャストメント機能で補正することができます。補正を行ってもそれぞれの映像の明るさと色合いは完全に一致しないこともあります。

補正手順の概要

複数台設置されているプロジェクターの中で補正が必要なプロジェクターに対して1台ずつ以下の操作を行い補正します。

1. プロジェクターIDとリモコンIDを設定する

補正対象のプロジェクターに限定して操作できるように、対象となるプロジェクターにプロジェクターIDを設定し、リモコンIDも一致するように設定します。☛ p.41

2. 色差補正を行う

複数台を投写した状態で色差補正を行います。黒から白を5段階に区分し各段階をレベル1~5と呼び、この5レベルすべてに対して次の2点の補正を行います。

- 明るさの補正
映像の明るさが揃うように補正します。
- 色の補正
映像の色味が合うように色補正(緑-赤)と色補正(青-黄)を補正します。

補正の方法

複数台を投写した状態でプロジェクターごとの明るさと色合いの差が縮まるように補正します。

操作

- 1 【メニュー】ボタンを押して、環境設定メニューから拡張設定メニュー -「マルチスクリーン」を選びます。☛ 「環境設定メニューの操作」 p.51



- 2 「調整レベル」で補正するレベルを選択します。
 - レベルを選択するたびに、選択したレベルのパターンが表示されます。
 - どのレベルから調整を始めてもかまいませんが、通常は1から5あるいは5から1のように暗い順あるいは明るい順に補正します。
- 3 「明るさ補正」で明るさの補正をします。
 - レベル5を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち最も暗い映像に合わせます。
 - レベル1を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち最も明るい映像に合わせます。
 - レベル2~4を選択しているときは、複数あるプロジェクターのうち中間の明るさの映像に合わせます。
 - [決定]ボタンを押すたびにパターン表示/通常の映像表示が切り替わりますので、実際の映像で補正結果の確認や補正を行うこともできます。

- 4** 「色補正(緑-赤)」と「色補正(青-黄)」を補正します。
[決定]ボタンを押すたびにパターン表示/通常の映像表示が切り替わりますので、実際の映像で補正結果の確認や補正を行うこともできます。
- 5** すべてのレベルを補正し終わるまで、手順②～④を繰り返し行います。
- 6** 補正がすべて終了したら、[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

本機には、次の充実したセキュリティ機能が備わっています。

- **パスワードプロテクト**
本機を使用する人を制限・管理できます。
- **操作ボタンロック**
本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。[☞ p.47](#)
- **盗難防止用ロック**
本機には機器そのものを持ち出されないように、多様な盗難防止の機構が備わっています。[☞ p.49](#)

利用者を管理する(パスワードプロテクト)

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使用できないため、盗難等の防止につながります。ご購入時は、パスワードプロテクト機能は無効になっています。

パスワードプロテクトの種類

本機のパスワードプロテクトは利用シーンに応じて次の3種類の設定ができます。

1. 電源投入時

電源投入時をオンにすると、電源ケーブルで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたとき(ダイレクトパワーオンも同様)に、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力しないと、投写は開始しません。

2. ユーザーロゴ保護

せっかくプロジェクターの所有者を明示するためにユーザーロゴを登録していても、ロゴ表示を変更されては意味がありません。**ユーザーロゴ保護をオン**にすると、ユーザーロゴに関する次の設定変更を禁止できます。

- ユーザーロゴのキャプチャ
- 環境設定メニューの**表示設定**で**背景表示**、**スタートアップスクリーン**、**AVミュート**の設定を変更する。

3. ネットワーク保護

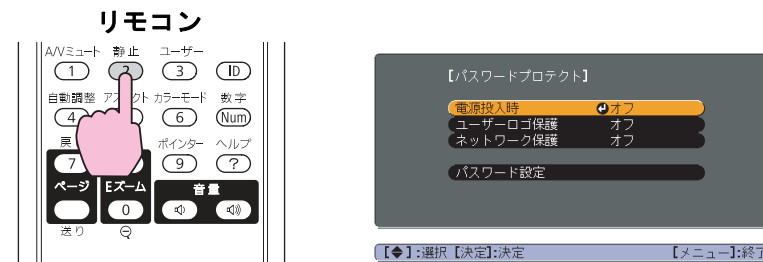
ネットワーク保護をオンにすると、環境設定メニューの**ネットワークメニュー**の設定変更を禁止できます。

パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、下記の手順で行います。

操作

- 1 本機で投写中に**[静止]**ボタンを約5秒間押し続けます。パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。





- すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードの入力が要求されます。パスワードを正しく入力するとパスワードプロテクト設定メニューが表示されます。☛ 「パスワードの認証」 p.46
- パスワード設定をしたときは、盗難防止の効果をさらに高めるために製品同梱のパスワードプロテクトシールを本機のお好きな位置に貼ってください。

2 「電源投入時」を有効にします。

- (1) 電源投入時を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) オンを選択し、[決定]ボタンを押します。
- (3) [戻る]ボタンを押します。

3 「ユーザーロゴ保護」を有効にします。

- (1) ユーザーロゴ保護を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) オンを選択し、[決定]ボタンを押します。
- (3) [戻る]ボタンを押します。

4 「ネットワーク保護」を有効にします。

- (1) ネットワーク保護を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) オンを選択し、[決定]ボタンを押します。
- (3) [戻る]ボタンを押します。

5 パスワードを設定します。

- (1) パスワード設定を選択し、[決定]ボタンを押します。
- (2) 「パスワードを変更しますか?」と表示されるので、はいを選択し、[決定]ボタンを押します。初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。いいえを選択すると、手順1の画面に戻ります。
- (3) [数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンで4桁の数字を入力します。入力したパスワードは「****」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。



- (4) 入力したパスワードを再度入力します。「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

パスワードの認証

パスワードの入力画面が表示されたら設定してあるパスワードをリモコンの数字ボタンを使って入力します。

操作

[数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押してパスワードを入力します。

正しいパスワードを入力し終わると投写が開始されます。

注意

- パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報+正式保証書発行カード』と照合しご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報+正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- 間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「**プロジェクターの動作を停止します。**」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。
- 万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている問い合わせコード：xxxxxの番号を控えて、プロジェクターインフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。☎『[お問い合わせ先](#)』
- 上記の操作を繰り返し、間違ったパスワードを続けて30回入力した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「**プロジェクターの動作を停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。**」☎『[お問い合わせ先](#)』

操作を制限する(操作ボタンロック)

次のどちらかを選んで本機の操作パネルのボタンをロックできます。

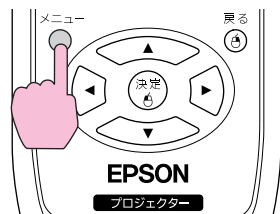
- 全ロック
操作パネルのボタンをすべてロックします。操作パネルからは電源のオン/オフを含めまったく操作できなくなります。
- 操作ロック
操作パネルの[Ⓛ]ボタンを除くすべてのボタンをロックします。

イベントやショーなどで投写中に本機を操作をできないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利です。リモコンからは通常どおり操作できます。

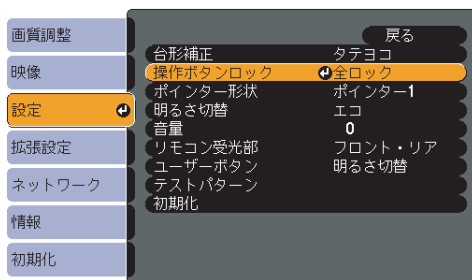
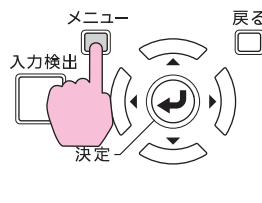
操作

- ① 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから設定メニュー - 「操作ボタンロック」を選びます。☞「環境設定メニューの操作」 p.51

リモコンの場合



操作パネルの場合



【戻る】:戻る 【↩】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

- ② 目的に応じて、「全ロック」または「操作ロック」を選択します。



【戻る】:戻る 【↩】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

- ③ 確認のメッセージが表示されるので、「はい」を選びます。
設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。



操作パネルのボタンロックを解除するには、次の2通りの方法があります。

- リモコンを使って、環境設定メニューの設定メニュー - 操作ボタンロックをオフに設定します。
- 操作パネルの[決定]ボタンを約7秒間押し続けると、メッセージが表示され、ロックが解除されます。

盗難防止用ロック

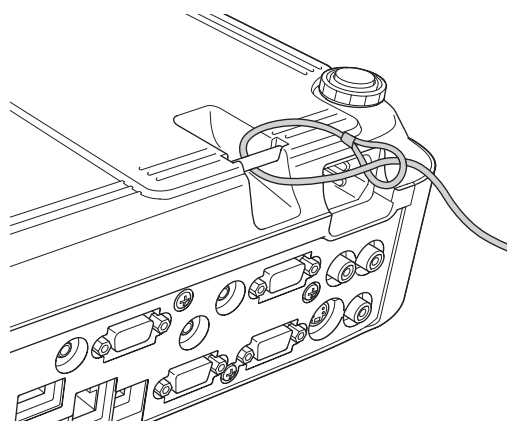
本機は無人になる部屋に天吊りなど固定設置されても、機器そのものを持ち出されないように次の機構があります。

- セキュリティスロット
Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティスロットです。マイクロサーバーセキュリティシステムの詳細は、Kensingtonのホームページ <http://www.kensington.com/>でご確認ください。
- セキュリティケーブル取付け部
市販の盗難防止用ワイヤーロックなどを通して、机や柱などに固定できます。

ワイヤーロックの取り付け方

盗難防止用ワイヤーロックのワイヤーを通します。

ワイヤーロックの施錠方法は、ワイヤーロックに添付の『取扱説明書』をご覧ください。



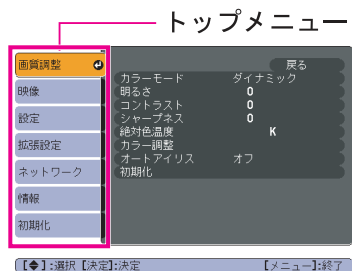


環境設定メニュー

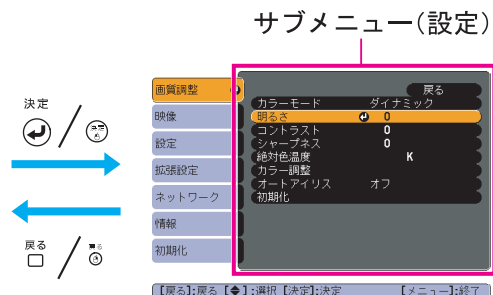
ここでは、環境設定メニューの機能と操作方法について説明しています。

1

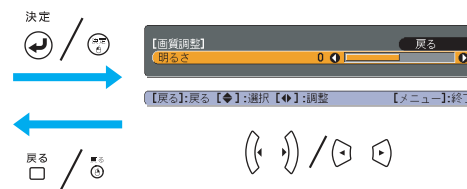
トップメニューの選択

**2**

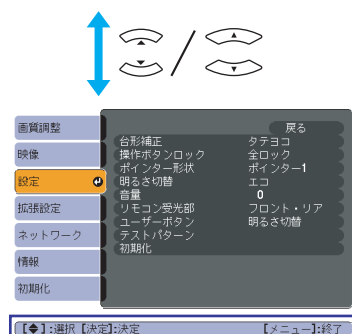
サブメニューの選択

**3**

選択した項目の変更

**4**

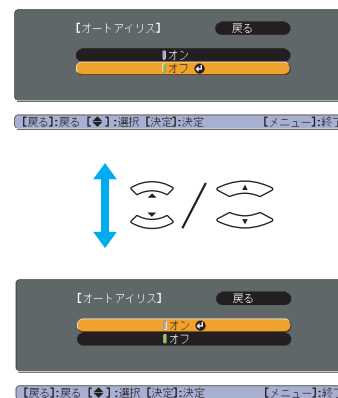
終了



ガイド



変更したい設定を選んで

**使用するボタン**
操作パネルの場合

リモコンの場合

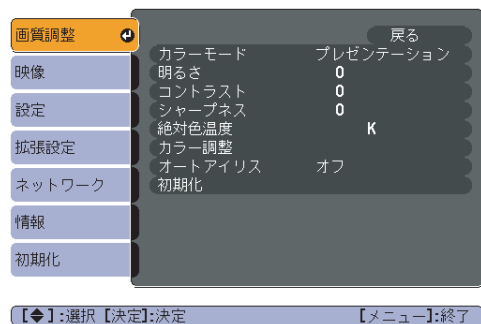


画質調整メニュー

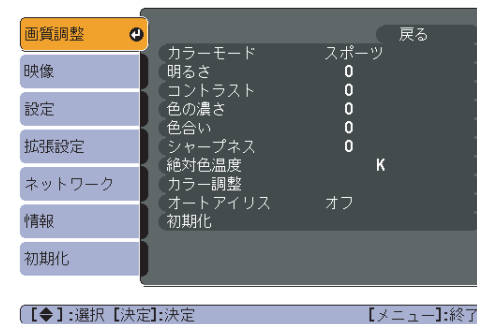
現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が以下の画面図のとおり異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

お使いの機種により対応していない入力ソースもあります。☞ p.28

RGB信号/USBディスプレイ/USB1/USB2/USB/LAN



コンポーネントビデオ▶信号/S-ビデオ/ビデオ



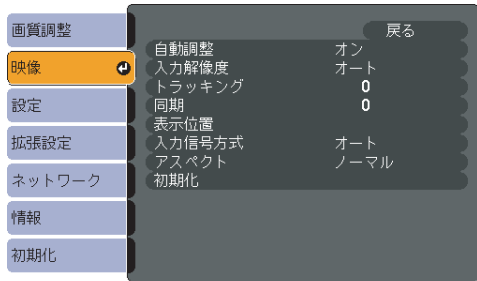
サブメニュー	機能
カラーモード	使用シーンに応じて、画質を選択できます。☞ p.30
明るさ	映像の明るさを調整します。
コントラスト	映像の明暗の差を調整します。
色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
色合い	(コンポジットビデオ/S-ビデオ信号の場合は、NTSC系の信号入力時のみ調整可能) 映像の色合いを調整します。
シャープネス	映像のシャープ感を調整します。
絶対色温度	(画質調整 - カラーモードをsRGB▶に設定しているときは設定不可) 映像全体の色合いを調整します。5000K~10000Kの10段階で調整することができます。高い値を選択すると青みがかった映像になり、低い値を選択すると赤みを帯びた映像になります。
カラー調整	以下のどちらかを選んで調整できます。 赤、緑、青：各色の強さを個別に調整します。 (画質調整 - カラーモードをsRGBまたはカスタムに設定していると、本項目は設定できません。) R、G、B、C、M、Y：R(赤)、G(緑)、B(青)、C(シアン)、M(マゼンダ)、Y(イエロー)ごとに色相、彩度、明度を調整します。 (画質調整 - カラーモードの調整値をカスタムに設定しているときのみ、本項目は設定できます。)

サブメニュー	機能
オートアイリス	(画質調整メニューのカラーモードをダイナミック、シアター、カスタムのいずれかに設定しているときのみ設定可能) 映像に合わせて最適な光量に調整する(オン)/しない(オフ)を設定します。☞ p.31 設定値はカラーモードごとに保存されます。
初期化	画質調整メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは☞ p.79

映像メニュー

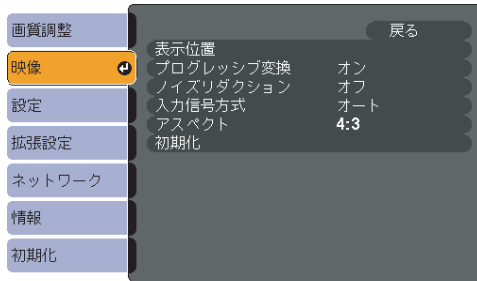
現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が以下の画面図のとおり異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。入力ソースがUSBディスプレイ/USB1/USB2/USB/LANのときは映像メニューの設定は行えません。

コンピューター1/
コンピューター2
(RGB信号入力時)



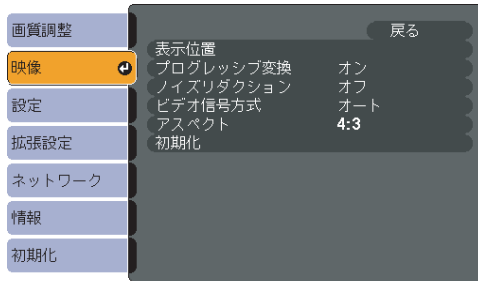
[◀]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

コンピューター1/
コンピューター2
(コンポーネントビデオ信号入力時)



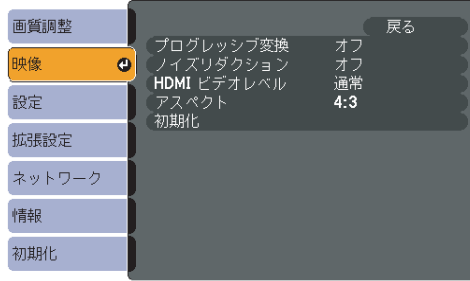
[▶]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

S-ビデオ/ビデオ



[▶]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

HDMI▶▶(EB-1925W/1915のみ)



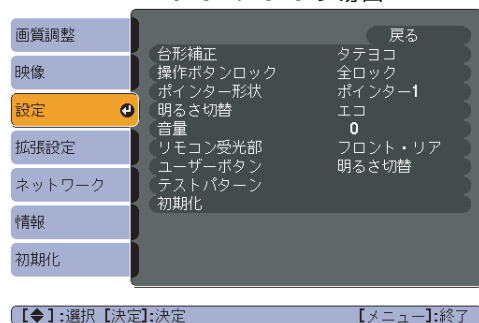
[▶]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

サブメニュー	機能
自動調整	入力信号が切り替わったときに、映像を最適な状態に自動調整する(オン)/しない(オフ)を設定します。☞ p.88
入力解像度	オートにしていると、入力信号の解像度を自動で判別します。オートに設定して投写映像が欠けるときは、接続しているコンピューターに合わせてワイド画面はワイドに、4:3や5:4画面はノーマルに設定してください。
トラッキング	映像に縦の縞模様が出るときに調整します。☞ p.88
同期	映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。☞ p.88
表示位置	映像の一部が欠けているときに表示位置を上下左右に移動し映像がすべて投写されるように調整します。

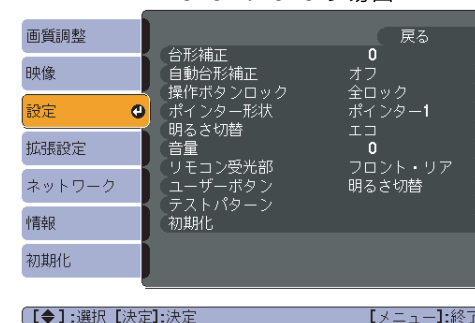
サブメニュー	機能
プログレッシブ変換	<p>(コンポーネントビデオ/RGB ビデオ信号入力時は、480i/576i/1080i 信号入力時のみ設定可能。デジタルRGB信号入力時は設定不可。)</p> <p>オフ：IP変換を各フィールドの画面内で行います。動きの大きい映像をお楽しみいただくときに適しています。</p> <p>オン：インターレース▶(i)信号をプログレッシブ▶(p)に変換します。静止画に適しています。</p> <p>ビデオ：一般のビデオ映像に適しています。</p> <p>フィルム/オート：映画フィルムやCG、アニメーション映像に適しています。</p>
ノイズリダクション	<p>(デジタルRGB信号入力時は設定不可)</p> <p>映像のざらつきを抑えます。モードを2つ用意しています。お好みの設定でご覧ください。DVDなど映像ソースにノイズが少ないときはオフに設定してご覧ください。</p>
HDMI ビデオレベル (EB-1925W/1915のみ)	<p>(デジタルRGB信号入力時は設定不可)</p> <p>本機のHDMI入力端子とDVDプレーヤーなどを接続しているときに、DVDプレーヤーのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定します。</p>
入力信号方式	<p>コンピューター1/2入力端子からの入力信号を選択します。</p> <p>オートにすると、接続機器に応じて自動的に入力信号を設定します。</p> <p>オートに設定していて、色が正しく表示されないときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。</p>
ビデオ信号方式	<p>ビデオ入力端子、S-ビデオ入力端子からの入力信号を選択します。オートにすると、ビデオ信号を自動認識します。オートに設定していて、映像にノイズが入ったり、映像が映らないなどのトラブルが起きるときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。</p>
アスペクト	<p>映像のアスペクト比▶を設定します。▶ p.32</p>
初期化	<p>映像メニューのうち、入力信号方式を除くすべての調整値を初期値に戻します。</p> <p>全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは▶ p.79</p>




設定メニュー


EB-1925W/1915の場合



EB-1920W/1910の場合



サブメニュー	機能
台形補正 (EB-1925W/1915の場合)	台形にゆがんだ画面を補正します。 タテヨコ：縦・横方向のゆがみを補正します。タテ補正・ヨコ補正から選択します。自動タテヨコ補正をオンに設定すると、プロジェクターを動かしたときに、投写映像のゆがみ補正とピント調整を自動で行います。(拡張設定メニュー - 設置モードでフロントを選択しているときのみ) オフに設定しているときは、手動で投写映像を調整してください。☛『セットアップガイド』 Quick Corner：投写映像の4つの角を選んで補正します。☛ p.25
台形補正 (EB-1920W/1910の場合)	台形にゆがんだ画面を垂直方向に補正します。☛『セットアップガイド』
自動台形補正 (EB-1920W/1910のみ)	オンにすると、垂直方向の台形補正を自動で行います。(拡張設定メニュー - 設置モードでフロントを選択しているときのみ) ☛『セットアップガイド』
操作ボタンロック	本機操作パネルの操作制限を設定します。☛ p.47
ポインター形状	ポインターの形状を選択します。☛ p.37 ポインター1：  ポインター2：  ポインター3： 
明るさ切替	ランプの明るさを2段階で切り替えることができます。 暗い部屋で投写したり小さなスクリーンに映す場合に、投写映像が明るすぎるときはエコに設定します。エコで使用すると、投写中の消費電力、ランプ寿命が次のように変わり、ファン回転音も低下します。消費電力：約26%減、ランプ寿命：約1.3倍
音量	音量を調整します。設定した内容は入力ソースごとに保持されます。

サブメニュー	機能
リモコン受光部	リモコンからの操作信号の受信を制限します。 リモコンでの操作を禁止したいときやリモコン受光部の近くに蛍光灯が設置されていて、その影響でリモコンが誤動作してしまうときに影響を受けている受光部を使わないように設定できます。
ユーザーボタン	リモコンの[ユーザー]ボタンに割り当てる環境設定メニューの項目を選択します。[ユーザー]ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。[ユーザー]ボタンに割り当てることができるのは以下の項目です。 明るさ切替、情報、プログレッシブ変換、テストパターン、マルチスクリーン、入力解像度
テストパターン	本機を設置する際に、機器を接続せずに投写状態を調整できるようにテストパターンを表示します。テストパターン表示中は Quick Corner(EB-1925W/1915のみ)、ズーム調整、フォーカス調整、台形補正 が行えます。 テストパターンの表示を解除するときは、リモコンまたは操作パネルの[戻る]ボタンを押します。
初期化	設定メニューのうち ユーザーボタン を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  p.79

拡張設定メニュー



サブメニュー	機能
表示設定	<p>本機の表示に関する設定を行います。</p> <p>メッセージ表示：オフに設定すると、次の表示がされなくなります。 入力ソースやカラーモード、アスペクトを切り替えた時の項目名の表示、映像信号が入力されていないときなどのメッセージの表示、高温警告などの警告表示。</p> <p>背景表示※1：映像信号が入力されていないときなどの画面の状態を黒、青、ロゴのいずれかで設定します。</p> <p>スタートアップスクリーン※1：スタートアップスクリーン(投写開始時に投写される映像)を起動時に表示する(オン)/しない(オフ)を設定します。</p> <p>AVミュート※1：AVミュート時に表示する画面を黒、青、ロゴのいずれかで設定します。</p>
ユーザーロゴ※1	<p>背景表示、AVミュート時などに表示するユーザーロゴを変更します。☞ p.102</p>
設定モード	<p>本機の設置状態に合わせて次の中から設定します。☞ p.94</p> <p>フロント、フロント・天吊り、リア、リア・天吊り</p> <p>リモコンの[AVミュート]ボタンを約5秒間押し続けると、天吊りの設定を次のように切り替えることができます。</p> <p>フロント↔フロント・天吊り</p> <p>リア↔リア・天吊り</p>

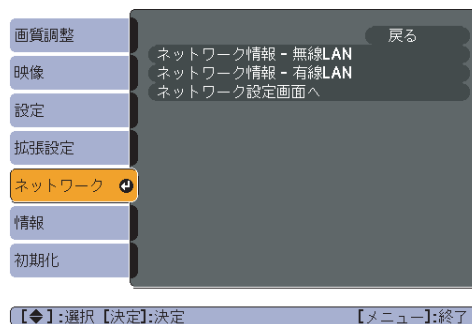
サブメニュー	機能
動作設定	<p>ダイレクトパワーオン：ダイレクトパワーオンさせる(オン)/させない(オフ)を設定します。 オンに設定しているときは、停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると本機の電源がオンになりますので、注意してください。</p> <p>スリープモード：オンに設定すると、映像信号が未入力のまま、なにも操作しないときに自動で電源を切ります。</p> <p>スリープモード時間：スリープモードをオンにしたときに自動で電源を切るまでの時間を1～30分の範囲を1分単位で設定します。</p> <p>レンズカバータイマー：オンに設定するとレンズカバーを閉めてから約30分後に自動で電源を切ります。お買い上げ時にはレンズカバータイマーはオンになっています。</p> <p>高地モード：標高約1500m以上でお使いの場合はオンにします。</p>
待機モード	<p>本機がスタンバイ状態のときも、ネットワーク監視・制御機能を働かせるときは、ネットワーク有効に設定します。 ネットワーク経由で本機の状態を監視・制御するにはSNMP▶▶を使うか、あるいは本製品に添付のアプリケーションソフトEasyMP Monitorを使用して行います。</p>
USB Type B	<p>本機とコンピューターをUSBケーブルで接続してコンピューターの映像を投写するときにはUSB Displayに設定します。☞『セットアップガイド』</p> <p>リモコンでマウスポインターを操作するときはワイヤレスマウスに設定します。☞ p.39</p>
プロジェクターID	<p>1～9までのIDを設定します。オフはIDを設定していない状態です。☞ p.41</p>
マルチスクリーン	<p>プロジェクター複数台を並べて投写した際の各映像の色合いや明るさの差を補正できます。☞ p.43</p> <p>調整レベル：黒から白を5段階に区分し各段階をレベル1～5と呼び、この5レベルすべてに対して明るさ補正と色補正を行います。</p> <p>明るさ補正：製品ごとの明るさのばらつきを補正します。</p> <p>色補正(緑-赤)/色補正(青-黄)：製品ごとの色のばらつきを補正します。</p>
言語	<p>メッセージやメニューに表示する言語を設定します。</p>
初期化	<p>拡張設定メニューのうち、表示設定※1、動作設定※2の調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは☞ p.79</p>

※1パスワードプロテクトの**ユーザーロゴ保護**をオンにしていると、ユーザーロゴに関する設定の変更はできません。**ユーザーロゴ保護**をオフにしてから設定を変更してください。☞ [p.45](#)

※2高地モードは除く。

ネットワークメニュー(EB-1925W/1915の場合)

パスワードプロテクトのネットワーク保護をオンに設定していると、メッセージが表示されネットワークの設定を変更することはできません。ネットワーク保護をオフにしてからネットワークの設定を行ってください。☞ p.45



サブメニュー	機能
ネットワーク情報 - 無線LAN ネットワーク情報 - 有線LAN	<p>各ネットワークの設定状況を以下のように確認できます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;">  <p>【ネットワーク情報 - 無線LAN】 戻る</p> <p>接続モード: かんたんモード</p> <p>アンテナレベル: ██████</p> <p>プロジェクト名</p> <p>SSID</p> <p>拡張設定: DHCP: オフ</p> <p>ネットワーク: IPアドレス, サブネットマスク, ゲートウェイアドレス</p> <p>情報: MACアドレス</p> <p>初期化</p> <p>【◆】:選択 【メニュー】:終了</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;">  <p>【ネットワーク情報 - 有線LAN】 戻る</p> <p>プロジェクト名</p> <p>DHCP: オフ</p> <p>IPアドレス</p> <p>サブネットマスク</p> <p>拡張設定: ゲートウェイアドレス</p> <p>ネットワーク: MACアドレス</p> <p>情報</p> <p>初期化</p> <p>【◆】:選択 【メニュー】:終了</p> </div> </div>
ネットワーク設定画面へ	<p>以下の項目についてネットワークの設定を行います。</p> <p>基本設定メニュー、無線LANメニュー、セキュリティーメニュー、有線LANメニュー、メールメニュー、その他メニュー、初期化メニュー、設定完了メニュー</p>



本機とネットワーク接続したコンピューターのWebを利用して、コンピューターから本機の設定や制御が行えます。この機能をWeb制御と呼びます。Web制御はキーボードを使って設定内容を入力できるので、セキュリティーの設定など文字の入力を伴う設定も容易に行えます。

☞ 『プロジェクト活用ガイド』『Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)』 (EB-1925W/1915)

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニューやサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず**設定完了**メニューを選択して、**はい**、**いいえ**、**キャンセル**のいずれかを選択します。**はい**あるいは**いいえ**を選択すると、環境設定メニューに戻ります。






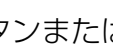
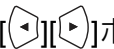
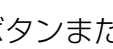
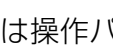
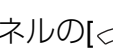
はい： 設定を保存してネットワークメニューを終了します。

いいえ： 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。

キャンセル： ネットワークメニューを続けます。

ソフトキーボードの操作

ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には以下のようなソフトキーボードが表示されます。リモコンの

[][][][]ボタンまたは操作パネルの[][][][]

で目的のキーにカーソルを移動し、[決定]ボタンを押して入力します。数字は、リモコンの[数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後キーボードの[Finish]を

選択すると入力が確定します。キーボードの[Cancel]を選択すると入力は取り消されます。



- [CAPS]キーを選択し決定するたびにアルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- [SYM1/2]キーを選択し決定するたびに枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

基本設定メニュー



サブメニュー	機能
プロジェクター名	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示しています。 変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します。
PJLinkパスワード	PJLink対応アプリケーションソフトを使って本機にアクセスするときの認証用パスワードを設定します。 半角英数で最大32文字まで入力できます。
Web制御パスワード	Web制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字8文字以内で入力します。Web制御はネットワークで接続しているコンピューターのWebブラウザを利用して、コンピューターから本機を設定・制御する機能です。●『 プロジェクター活用ガイド 』『 Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御) 』(EB-1925W/1915)
プロジェクターキーワード	オンに設定していると、本機とコンピューターをネットワークで接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。これにより予定外のコンピューターからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常はオンに設定してお使いください。●『 プロジェクター活用ガイド 』『 ネットワーク上のプロジェクターに接続して投写する 』(EB-1925W/1915)

無線LANメニュー(オプションの無線LANユニット装着時のみ)



サブメニュー	機能
無線LAN電源	本機とコンピューターを無線LANで接続して使用するときには オン に設定します。 無線LANで接続しないときは、 オフ に設定しておくこと他人からの不正なアクセス等を防ぐことができます。初期値は オン に設定されています。
接続モード	EasyMP Network Projectionで本機とコンピューターを接続するとき、いつも決まった接続モードで接続する場合に設定します。
Wi-Fi Protected Setup	Wi-Fi Protected Setup対応の無線LANアクセスポイントを経由してネットワークに参加するとき、本機とアクセスポイント間の接続とセキュリティの設定を簡単に行うことができます。☛ p.104
無線LAN方式	無線LAN方式を設定します。 オート に設定すると802.11g/802.11b/802.11aのうち、お使いの環境に準拠した規格を自動的に選択します。(オートは 接続モード で マニュアルモード に設定しているときのみ設定できます。) 802.11aに対応していない地域では、 802.11g/b のみ表示されます。(802.11aとオートは表示されません)
SSID	SSID ☛を入力します。本機が参加する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを入力します。 半角英数字で最大32文字まで入力できます。
DHCP	DHCP ☛を使用する(オン)/しない(オフ)を設定します。 ここで オン に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。
IPアドレス	本機に割り当てる IPアドレス ☛を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)
サブネットマスク	本機の サブネットマスク ☛を入力します。アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。0.0.0.0、255.255.255.255

サブメニュー	機能
ゲートウェイアドレス	本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス▶は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
MACアドレス	MACアドレスを表示しています。
SSID表示	LAN待機画面上にSSID▶を表示させないときは、オフに設定します。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレス▶を表示させないときは、オフに設定します。

セキュリティーメニュー(オプションの無線LANユニット装着時に有効)



サブメニュー	機能
セキュリティー	セキュリティーの種類を表示される項目から選択します。 セキュリティーの設定は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従ってください。

セキュリティーの種類

オプションの無線LANユニットを装着してマニュアルモードでお使いの際は、必ずセキュリティーの設定を行うことをお奨めします。次のセキュリティー設定の中から1つ選択できます。

• WEP

暗号キー(WEPキー)を使ってデータの暗号化を行います。アクセスポイントとプロジェクター間で、暗号キーが一致しないと通信できない仕組みです。

• WPA

WEPの弱点を補強しセキュリティー強度を向上させた暗号化規格です。WPAには数種類の暗号化方式がありますが、本機ではTKIPとAESを使用します。

WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバーを使う方法と、認証サーバーは使わずコンピューターとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバーを使わない認証方法に対応しています。

• EAP

EAPは、クライアントと認証サーバー間のやりとりに用いられるプロトコルです。ユーザー認証に電子証明書を用いるEAP-TLS、ユーザーIDとパスワードを用いるLEAP、EAP-TTLSなどがあります。

方式	認証
EAP-TLS	電子証明書、CA証明書
EAP-TTLS	ユーザーID、パスワード
PEAP	ユーザーID、パスワード
LEAP	ユーザーID、パスワード
EAP-Fast	ユーザーID、パスワード



- 各設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。
- EAPを使用する場合、認証サーバーに合わせた設定をプロジェクターで行う必要があります。RADIUSサーバーの設定については、ネットワークシステムの管理者にご確認ください。
- 電子証明書、CA証明書をUSBストレージに保存して、PC Freeでプロジェクターに登録します。プロジェクターに登録できる電子証明書とCA証明書は1対のみです。この証明書はEAP-TLSで使用します。☞ [「プロジェクター活用ガイド」](#) (EB-1925W/1915)



WEP選択時

サブメニュー	機能
WEP暗号	WEP暗号化の暗号方式を設定します。 128Bit ：128(104)bit暗号化を使用します。 64Bit ：64(40)bit暗号化を使用します。
入力方式	WEP暗号キーの入力方式を設定します。 ASCII ：テキストで入力します。 HEX ：HEX(16進)で入力します。
キーID	WEP暗号IDキーを選択します。

サブメニュー	機能
暗号キー1/暗号キー2/暗号キー3/暗号キー4	<p>WEP暗号に使用するキーを入力します。プロジェクターが参加するネットワークの管理者の指示に従って、キーを半角文字で入力します。WEP暗号と入力方式の設定により、入力できる文字種・数が異なります。</p> <p>下記でそれぞれ規制している文字数に満たなかったとき、あるいは文字数を超える部分は暗号化されません。</p> <p>128Bit-ASCIIの場合：半角英数字、13文字 64Bit-ASCIIの場合：半角英数字、5文字 128Bit-HEXの場合：0～9とA～F、26文字 64Bit-HEXの場合：0～9とA～F、10文字</p>
認証方式	<p>WEP認証方式を設定します。</p> <p>Open：オープンシステム認証を使用します。 Shared：共有キー認証を使用します。</p>



WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)選択時

サブメニュー	機能
PSK(暗号キー)	<p>Pre-Shared Key(暗号キー)を半角英数字で入力します。8文字以上、最大32文字まで入力できます。Pre-Shared Keyを入力し、[決定]ボタンで確定すると、設定値はアスタリスク(*)で表示されます。</p>

EAP-TLS選択時

サブメニュー	機能
発行者／発行先／有効期間	証明書情報が表示されます。入力できません。

EAP-TTLS/MD5、EAP-TTLS/MS-CHAPv2、PEAP/MS-CHAPv2、PEAP/GTC、LEAP、EAP-Fast/MS-CHAPv2、EAP-Fast/GTC選択時

サブメニュー	機能
ユーザー名	認証に使用するユーザー名を半角英数字で入力します(スペースは使用できません)。最大32文字まで入力できます。
パスワード	パスワード認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。最大32文字まで入力できます。パスワードを入力し、[決定]ボタンで確定すると、パスワードはアスタリスク(*)で表示されます。

有線LANメニュー



サブメニュー	機能
DHCP	DHCP▶を使用する(オン)/しない(オフ)を設定します。 ここでオンに設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。
IPアドレス	本機に割り当てるIPアドレス▶を入力します。 アドレスの各フィールドには0~255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255(xは0~255の数字)

サブメニュー	機能
サブネットマスク	本機のサブネットマスク▶▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255
ゲートウェイアドレス	本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス▶▶は使用できません。0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
MACアドレス	MACアドレスを表示しています。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、オフに設定します。

メールメニュー

プロジェクトが異常/警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。👉 [p.115](#)



サブメニュー	機能
メール通知機能	メール通知を行う(オン)/行わない(オフ)を選択します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレス▶▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1～65535までの有効な数値を入力できます。
メールアドレス1/メールアドレス2/メールアドレス3	通知メールの送信先のメールアドレスを入力します。送信先は最大3件まで登録できます。メールアドレスは最大32文字まで入力できます。

サブメニュー	機能
通知イベントの指定	メールで通知する本機の異常/警告を選択します。選択した異常/警告が本機で起きたときに、宛先メールアドレスで指定したメールアドレスに異常/警告が発生したことを通知します。表示されている項目より、複数選択できます。

その他メニュー



サブメニュー	機能
SNMPトラップIPアドレス1/ SNMPトラップIPアドレス2	<p>SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。</p> <p>127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)</p> <p>SNMPを使ってプロジェクトを監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。</p>
優先ゲートウェイ	優先ゲートウェイを無線/有線どちらにするか選択します。
AMX Device Discovery	本機をネットワークに接続しているとき、AMX Device Discoveryによる本機の検出を有効にしたいときはオンに設定します。AMX社のコントローラやAMX Device Discoveryで制御する環境に接続していないときは、オフに設定してください。

初期化メニュー

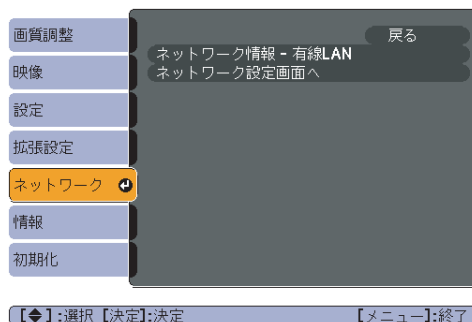
ネットワークの設定をすべて初期化します。

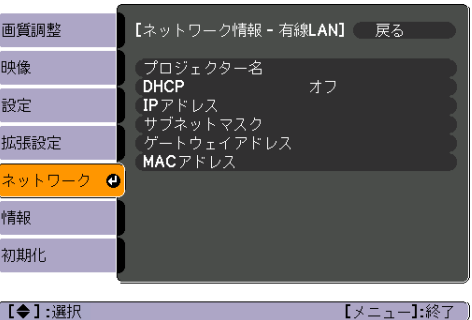


サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときには はい を選択します。 初期化した後は、 基本設定メニュー に移行します。

ネットワークメニュー(1920W/1910の場合)

パスワードプロテクトのネットワーク保護をオンに設定していると、メッセージが表示されネットワークの設定を変更することはできません。ネットワーク保護をオフにしてからネットワークの設定を行ってください。☞ p.45



サブメニュー	機能
ネットワーク情報 - 有線LAN	<p>ネットワークの設定状況を以下のように確認できます。</p>  <p>【◀】:選択 [メニュー]:終了</p>
ネットワーク設定画面へ	<p>以下の項目についてネットワークの設定を行います。 基本設定メニュー、有線LANメニュー、メールメニュー、その他メニュー、初期化メニュー、設定完了メニュー</p>

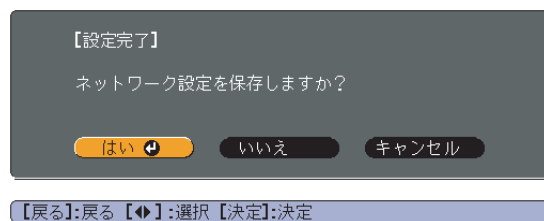


本機とネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザを利用して、コンピューターから本機の設定や制御が行えます。この機能をWeb制御と呼びます。Web制御はキーボードを使って設定内容を入力できるので、セキュリティーの設定など文字の入力を伴う設定も容易に行えます。☞ 『プロジェクト活用ガイド』『Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)』(EB-1920W/1910)

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニューやサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず**設定完了**メニューを選択して、**はい**、**いいえ**、**キャンセル**のいずれかを選択します。**はい**または**いいえ**を選択すると、環境設定メニューに戻ります。



はい： 設定を保存してネットワークメニューを終了します。

いいえ： 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。

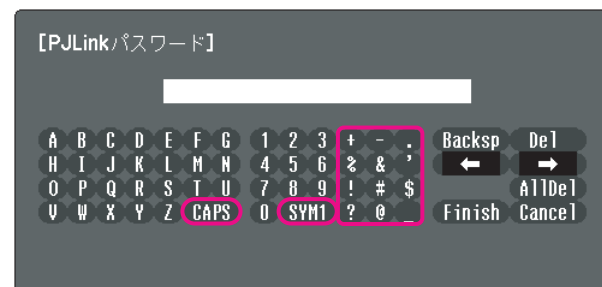
キャンセル： ネットワークメニューを続けます。

ソフトキーボードの操作

ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には次のようなソフトキーボードが表示されます。リモコンの

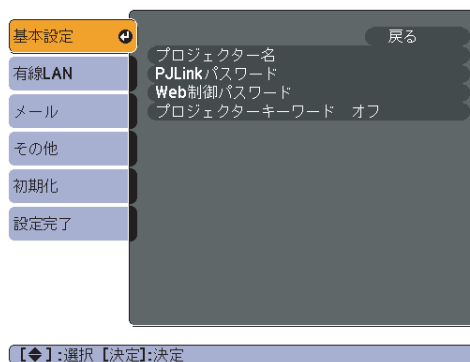
[][][][]ボタンまたは操作パネルの[][][][]

で目的のキーにカーソルを移動し、[決定]ボタンを押して入力します。数字は、リモコンの[数字]ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後キーボードの[Finish]キーを選択すると入力が確定します。キーボードの[Cancel]キーを選択すると入力は取り消されます。



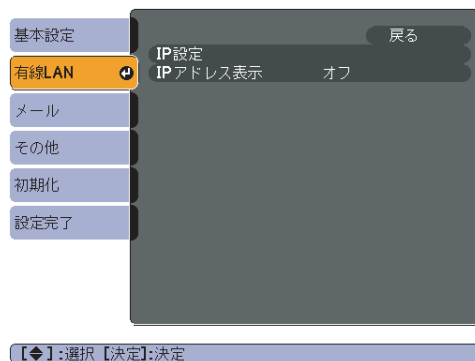
- [CAPS]キーを選択し決定するたびにアルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- [SYM1/2]キーを選択し決定するたびに枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

基本設定メニュー




サブメニュー	機能
プロジェクター名	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示しています。 変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します。
PJLinkパスワード	PJLink対応アプリケーションソフトを使って本機にアクセスするときの認証用パスワードを設定します。☞ p.120 半角英数字で最大32文字まで入力できます。
Web制御パスワード	Web制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字で最大8文字まで入力できます。Web制御はネットワークで接続しているコンピュータのWebブラウザを利用して、コンピュータから本機を設定・制御する機能です。☞『プロジェクト活用ガイド』『Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御)』(EB-1920W/1910)
プロジェクターキーワード	オンに設定していると、本機とコンピュータをネットワークで接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。これによりEasyMP Network Projectionで接続して投写中に予定外のコンピュータからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常はオンに設定してお使いください。☞『プロジェクト活用ガイド』『ネットワーク上のプロジェクトに接続して投写する』(EB-1920W/1910)

有線LANメニュー



サブメニュー	機能
IP設定	<p>ネットワークの設定を行います。</p> <p>DHCP：DHCP▶を使用する(オン)/しない(オフ)を設定します。ここでオンに設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。</p> <p>IPアドレス：本機に割り当てるIPアドレス▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)</p> <p>サブネットマスク：本機のサブネットマスク▶を入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255</p> <p>ゲートウェイアドレス：本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレス▶は使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)</p>
IPアドレス表示	ネットワークメニューのネットワーク情報とLAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、オフに設定します。

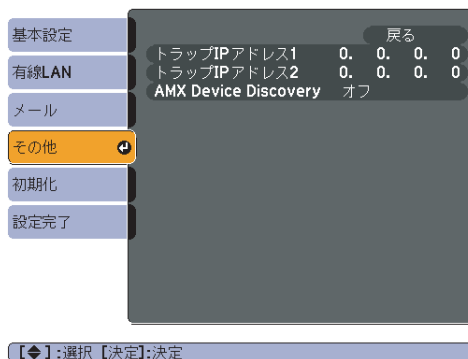
メールメニュー

プロジェクターが異常/警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。送付されるメールの内容については「[異常通知メールの見方](#)」 p.115



サブメニュー	機能
メール通知機能	メール通知を行う(オン)/行わない(オフ)を選択します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレス▶を入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1～65535までの有効な数値を入力できます。
宛先1設定 宛先2設定 宛先3設定	通知メールの送信先のメールアドレスとメールで通知する本機の異常/警告の項目を設定します。メールアドレスは最大32文字まで入力できます。メールで通知する本機の異常/警告の項目は複数選択できます。また、メールアドレスごとに変えることができます。

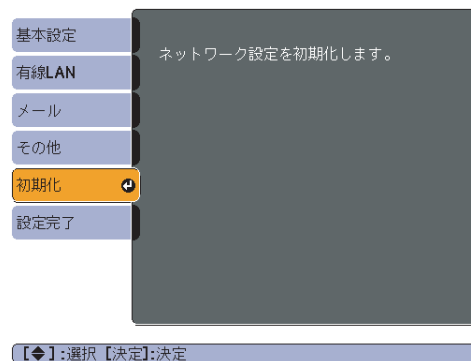
その他メニュー



サブメニュー	機能
トラップIPアドレス1 トラップIPアドレス2	<p>SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。 ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)</p> <p>SNMPを使ってプロジェクトを監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。</p>
AMX Device Discovery	<p>本機をネットワークに接続しているとき、AMX Device Discoveryによる本機の検出を有効にしたいときはオンに設定します。AMX社のコントローラやAMX Device Discoveryで制御する環境に接続していないときは、オフに設定してください。</p>

初期化メニュー

ネットワークの設定をすべて初期化します。

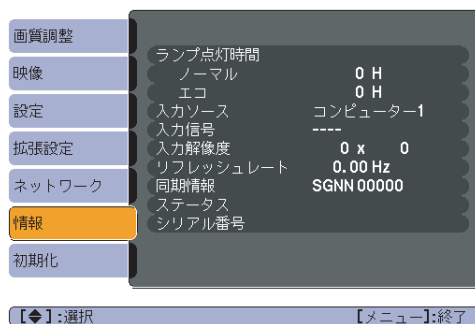


サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときには はい を選択します。 初期化した後は、 基本設定 メニューに移行します。

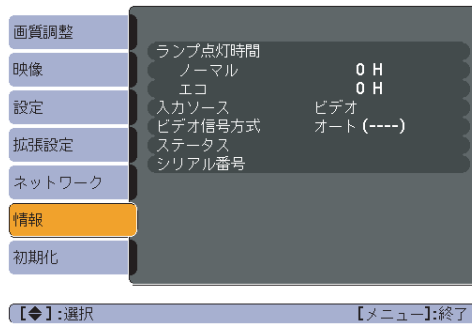
情報メニュー(表示のみ)

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。現在投写している入力ソースにより表示される項目が以下の画面図のとおり異なります。お使いの機種により対応していない入力ソースもあります。☞ p.28

コンピューター1/コンピューター2/HDMI



S-ビデオ/ビデオ



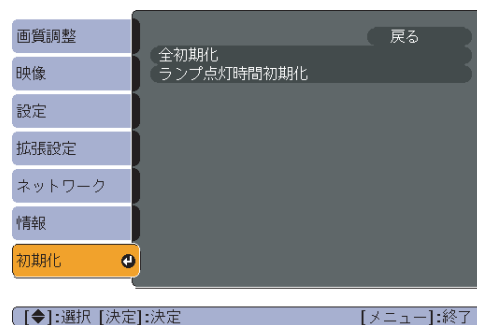
USBディスプレイ/USB1/USB2/USB/LAN



サブメニュー	機能
ランプ点灯時間	ランプの累積使用時間※を表示しています。 ランプ寿命警告時間に達すると、文字が黄色に変わります。
入力ソース	現在投写中の機器を接続している入力ソース名を表示しています。
入力信号	映像メニューの入力信号方式の設定内容を入力ソースに応じて表示しています。
入力解像度	入力解像度を表示しています。
ビデオ信号方式	映像メニューのビデオ信号方式の設定内容を表示しています。
リフレッシュレート	リフレッシュレート▶を表示しています。
同期情報	映像信号の情報を表示しています。 お問い合わせ時に、この値を確認することがあります。
ステータス	本機に発生した異常についての情報です。 お問い合わせ時に、この値を確認することがあります。
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。

※ 累積使用時間が0~10時間までは「0H」と表示されます。10時間以上は「10H」、「11H」と1時間単位で表示されます。

初期化メニュー



サブメニュー	機能
全初期化	環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。 入力信号方式、ユーザーロゴ、ネットワークメニューの全項目、ランプ点灯時間、言語は初期値に戻りません。
ランプ点灯時間初期化	ランプ点灯時間の累積をクリアし、「0H」に戻します。ランプを交換したときに行ってください。



困ったときに

ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

トラブル発生時の解決方法を投写映像に表示できます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

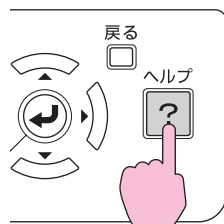
操作

- 1 [ヘルプ]ボタンを押します。
ヘルプ画面が表示されます。

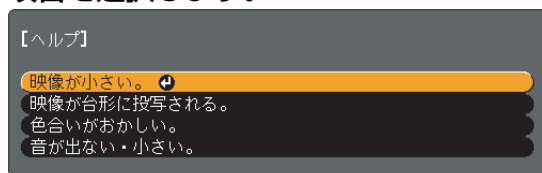
リモコンの場合



操作パネルの場合

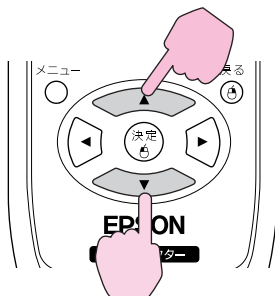


- 2 項目を選択します。

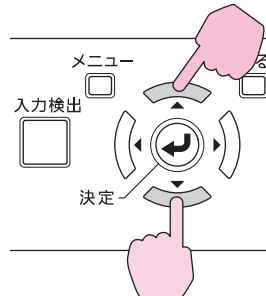


[◀▶]:選択 [決定]:決定 [ヘルプ]:終了

リモコンの場合

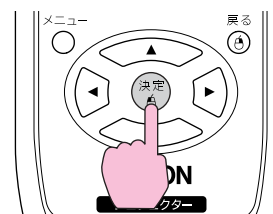


操作パネルの場合

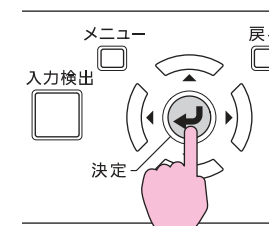


- 3 項目を決定します。

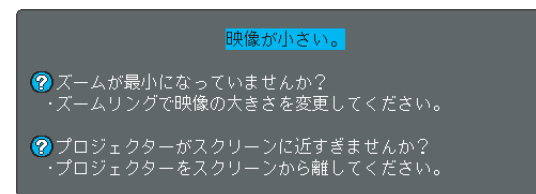
リモコンの場合



操作パネルの場合



以下の画面のように質問と対処法が表示されます。
[ヘルプ]ボタンを押すとヘルプは解除されます。



[戻る]:戻る

[ヘルプ]:終了

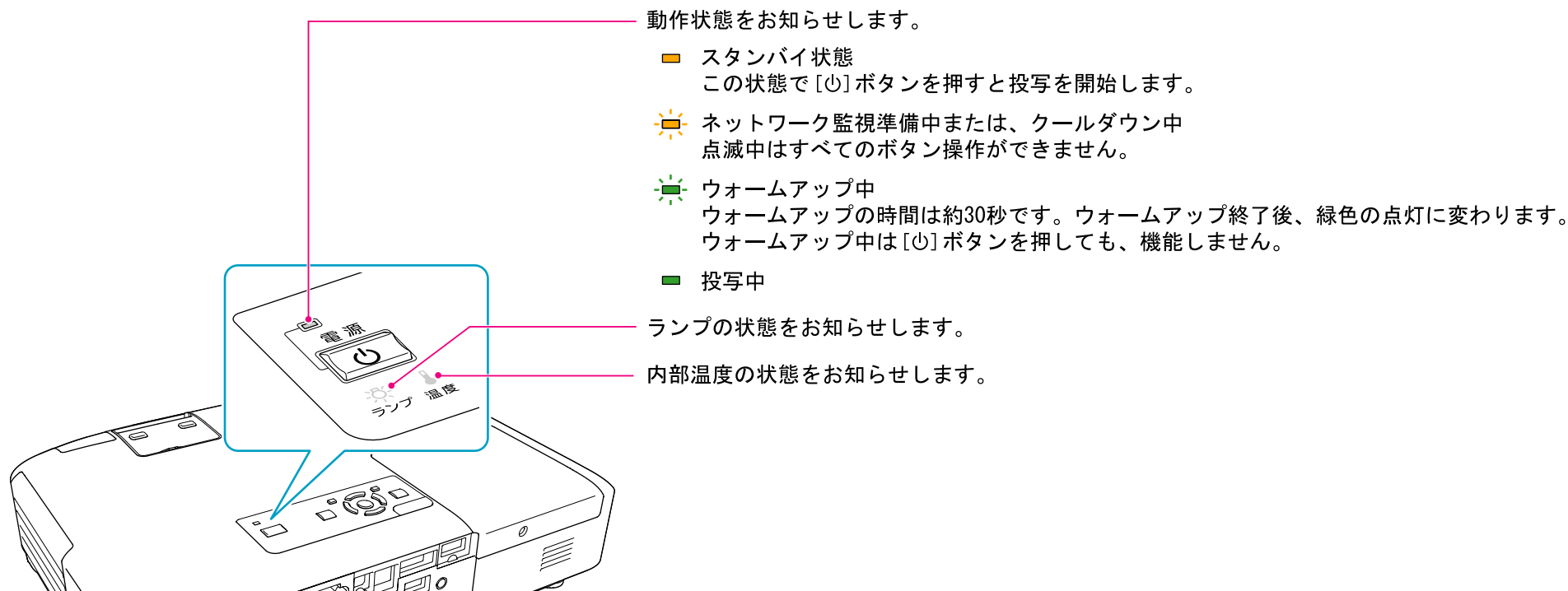


ヘルプ機能を使ってもわからないときは、「故障かなと思ったら」
p.82をご覧ください。

故障かな?と思ったら、まず本機のインジケータをご覧になり下記の「インジケータの見方」で本機の状態をご確認ください。
インジケータをご覧になってもわからないときは、「インジケータを見てもわからないとき」を確認してください。☛ p.85

インジケータの見方

本機には、次の3種類のインジケータがあり本機の状態をお知らせします。
















インジケータの状態とその対処方法については、次の表を参照してください。

インジケータがすべて消灯している場合は、電源ケーブルが正しく接続されていないか、または電気が供給されていません。
電源ケーブルを抜いても☹インジケータがしばらく点灯したままになることがあります。故障ではありません。

④ インジケーターが赤色点灯/点滅時



■ : 点灯 ■■■ : 点滅 □ : 消灯

状態	原因	処置または状態
  	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『 お問い合わせ先 』
  	ファン異常 センサー異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『 お問い合わせ先 』
  	内部高温異常 (オーバーヒート)	<p>ランプが自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態待ちます。約5分後、スタンバイ状態になりますので、次の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。☛ p.95,p.100 <p>上記を確認後もエラーになるとき:ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』</p> <p>標高1500m以上の場所でお使いのときは、高地モードをオンにしてください。☛ p.57</p>
  	ランプ異常 ランプ点灯失敗	<p>次の2点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ランプを取り出してランプが割れていないか確認します。☛ p.97 • エアフィルターを掃除します。☛ p.95 <p>割れていないとき:ランプを再セットして、電源を入れます。</p> <p>それでもエラーになるとき:新しいランプに交換してから電源を入れます。</p> <p>それでもエラーになるとき:ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』</p> <p>割れているとき:お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください(ランプを交換しないと映像を投写することはできません)。☛『お問い合わせ先』</p> <p>標高1500m以上の場所でお使いのときは、高地モードをオンにしてください。☛ p.57</p>

状態	原因	処置または状態
	オートアイリス異常 電源系異常(バラスト)	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛ 『お問い合わせ先』

⚙️ **インジケータがオレンジ点灯/点滅時**

■ : 点灯 ■ (with red dots) : 点滅 □ : 消灯 □ : 本機の状態により異なる場合

状態	原因	処置または状態
	高温警告	(異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動停止します。) <ul style="list-style-type: none"> エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認してください。 エアフィルターが目詰まりしている場合は、掃除または交換をしてください。☛ p.95, p.100
	ランプ交換勧告	新しいランプに交換してください。☛ p.97 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。














- インジケータは異常を示していないのに、投写映像が異常のときは、「インジケータを見てもわからないとき」 [p.85](#)をご覧ください。
- 各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛ [『お問い合わせ先』](#)

インジケータを見てもわからないとき

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。





映像に関するトラブル

- 「映像が表示されない」  p.86
投写を開始しない・真っ黒の映像になる・青い映像になるなど...
- 「動画が表示されない(動画の部分だけが黒くなる)」  p.86
コンピューターで再生する動画が黒くなり映像が投写されない。
- 「自動的に投写が消える」  p.86
- 「[この信号は本プロジェクターでは受けられません。] と表示される」  p.87
- 「[映像信号が入力されていません。] と表示される」  p.87
- 「ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ」  p.87
- 「ノイズが入る、乱れる」  p.88
ノイズが入る・乱れる・市松模様のようにモノクロのチェックになるなど...
- 「映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない」  p.88
映像の一部しか投写されない、映像の縦横の比率が正しくないなど...
- 「色合いが違う」  p.89
全体が赤紫がかっている・緑色がかっている・モノクロになる・色がくすむなど...(コンピューターのモニターや液晶画面とは色の再現性が異なるため、プロジェクターでの投写映像とモニターでの表示の色合いは必ずしも一致しませんが、異常ではありません。)
- 「暗い」  p.89
- 「外部モニターに表示されない」  p.90

投写開始時のトラブル

- 「電源が入らない」  p.90

その他のトラブル

- 「音が出ない・小さすぎる」  p.91
- 「リモコンで操作できない」  p.91
- 「メッセージやメニューの言語を変更したい」  p.91
- 「プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない」  p.92

映像に関するトラブル

映像が表示されない

確認	対処法
[⓪]ボタンを押しましたか？	[⓪]ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源ケーブルが正しく接続されていないか、または電気が供給されていません。本機に電源ケーブルを正しく接続してください。☛『セットアップガイド』 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
AVミュートの状態になっていませんか？	リモコンの[AVミュート]ボタンを押してAVミュートを解除します。☛ p.31
レンズカバーが閉じていませんか？	レンズカバーを開けます。☛ p.10
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。☛ 初期化メニュー - 全初期化 p.79
入力映像そのものが真っ黒になっていませんか？ コンピューター投写時のみ	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
映像の信号形式の設定は合っていますか？ ビデオ機器投写時のみ	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53

動画が表示されない(動画の部分だけが黒くなる)

確認	対処法
コンピューター映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されていませんか？ ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ	コンピューター側の映像信号を外部のみの出力に切り替えます。☛ コンピューターに添付の『取扱説明書』、あるいはお使いのコンピューターのメーカーにお問い合わせください。

自動的に投写が消える

確認	対処法
スリープモードをオンにしていませんか？	[⓪]ボタンを押して電源を入れます。スリープモードを働かせないときは設定を オフ にしてください。 ☛ 拡張設定メニュー - 動作設定 - スリープモード p.57

「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ ビデオ機器投写時のみ	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53
映像信号の解像度やリフレッシュレートが対応するモードですか？ コンピューター投写時のみ	コンピューターから出力されている映像信号の解像度・リフレッシュレートの変更は、コンピューターの取扱説明書などでご確認ください。☛ 「対応解像度一覧」 p.121

「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ 『セットアップガイド』
接続した入力端子を正しく選択していますか？	リモコンか操作パネルの[入力検出]ボタンを押して映像を切り替えます。☛ p.28
接続されたコンピューターやビデオ機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ	映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニターにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに映像が出せないモデルもあります。☛ コンピューターの『取扱説明書』「外部出力のしかた」や「外付けモニターへ出力のしかた」など本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替える[Fn](ファンクションキー)が働かないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。☛ 『セットアップガイド』

ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ

確認	対処法
プロジェクターとスクリーンの距離が3.5m以上離れていませんか？(EB-1925W/1915の場合)	自動タテヨコ補正またはかんたんセットアップで投写映像が自動調整されるのは、スクリーンから約1.0m～3.5mまでです。それより遠い場所に設置するときは、手動で投写映像を調整してください。
環境設定メニューの設定メニュー - 台形補正で 自動タテヨコ補正 を オフ に設定していませんか？(EB-1925W/1915のみ)	オン に設定すると自動タテヨコ補正が機能します。☛ p.55 オフのまま使用する場合は、手動で投写映像を調整してください。☛ 『セットアップガイド』
ピントは正しく調整されていますか？	[フォーカスボタン](EB-1925W/1915のみ)、フォーカスリング(EB-1920W/1910のみ)でピントを合わせます。☛ 『セットアップガイド』

確認	対処法
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲を外れていませんか？ 推奨範囲内で設置してください。☛ p.108
台形補正の調整値を大きくしていませんか？	投写角度を小さくして台形補正の調整値を小さくしてください。☛ 『セットアップガイド』
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に使用する部屋に本機を設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。

ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ 【ビデオ機器投写時のみ】	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53
ケーブル類は正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ 『セットアップガイド』
ケーブルを延長していませんか？	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを接続して確認してください。
解像度の選択は正しいですか？ 【コンピューター投写時のみ】	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☛ 「対応解像度一覧」 p.121 ☛ コンピューターの『取扱説明書』など
「同期▶▶・トラッキング▶▶」は正しく調整されていますか？ 【コンピューター投写時のみ】	リモコンの[自動調整]ボタンまたは操作パネルの[決定]ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューの同期、トラッキングで調整することもできます。 ☛ 映像メニュー - トラッキング、同期 p.53

映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない

確認	対処法
ワイドパネルのコンピューター映像を投写していますか？ 【コンピューター投写時のみ】	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。☛ 映像メニュー - 入力解像度 p.53
Eズームで拡大したままになっていませんか？	リモコンの[戻る]ボタンを押してEズーム機能を解除します。☛ p.38

確認	対処法
表示位置は正しく調整されていますか？	<p>コンピューター映像投写時は、リモコンの[自動調整]ボタンまたは操作パネルの[決定]ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューの表示位置で調整することもできます。</p> <p>コンピューター映像以外の信号を投写時は、環境設定メニューの表示位置で調整します。👉 映像メニュー - 表示位置 p.53</p>
デュアルディスプレイの設定をしていませんか？ コンピューター投写時のみ	<p>接続しているコンピューターのコントロールパネルの「画面のプロパティ」でデュアルディスプレイの設定をしていると、コンピューター画面の映像が半分くらいしか投写されません。コンピューター画面の映像をすべて投写するときは、デュアルディスプレイの設定を解除します。👉 コンピューターのビデオドライバーの『取扱説明書』</p>
解像度の選択は正しいですか？ コンピューター投写時のみ	<p>本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 👉 「対応解像度一覧」 p.121 👉 コンピューターの『取扱説明書』など</p>

色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか？	<p>以下のとおり接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 コンピューター1/2入力端子に接続した機器の映像のとき👉 映像メニュー - 入力信号方式 p.53 ビデオ、S-ビデオ入力端子に接続した機器の映像のとき👉 映像メニュー - ビデオ信号方式 p.53</p>
映像の明るさは正しく調整されていますか？	<p>環境設定メニューの明るさを調整してください。👉 画質調整メニュー - 明るさ p.52</p>
ケーブル類が正しく接続されていますか？	<p>投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。👉 『セットアップガイド』</p>
コントラスト ▶▶は正しく調整されていますか？	<p>環境設定メニューのコントラストを調整してください。👉 画質調整メニュー - コントラスト p.52</p>
適切なカラー調整に設定されていますか？	<p>環境設定メニューのカラー調整を調整してください。👉 画質調整メニュー - カラー調整 p.52</p>
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか？ ビデオ機器投写時のみ	<p>環境設定メニューの色の濃さ、色合いを調整してください。👉 画質調整メニュー - 色の濃さ、色合い p.52</p>

暗い

確認	対処法
映像の明るさは正しく設定されていますか？	<p>環境設定メニューの明るさや明るさ切替を設定してください。 👉 画質調整メニュー - 明るさ p.52 👉 設定メニュー - 明るさ切替 p.55</p>

確認	対処法
コントラスト▶▶は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの コントラスト を調整してください。 ☛ 画質調整メニュー - コントラスト p.52
ランプの交換時期ではありませんか？	ランプの交換時期が近づくと映像が暗くなったり、色合いが悪くなります。新しいランプと交換してください。☛ p.97

外部モニターに表示されない

確認	対処法
コンピューター1入力端子以外から入力している映像を表示させようとしていませんか？	外部モニターに表示できる映像はコンピューター1入力端子からのコンピューター映像のみです。

投写開始時のトラブル

電源が入らない

確認	対処法
[⏻]ボタンを押しましたか？	[⏻]ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源ケーブルが正しく接続されていないか、電気が供給されていません。 電源ケーブルを抜いて差し直してください。☛ 『セットアップガイド』 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
電源ケーブルを触ると、インジケーターが点いたり消えたりしませんか？	電源ケーブルが接触不良を起こしているか、電源ケーブルが故障している可能性があります。電源ケーブルを差し直してください。それでも直らないときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください。☛ 『お問い合わせ先』
操作ボタンロックが全ロックになっていませんか？	リモコンの[⏻]ボタンを押します。 操作ボタンロック を働かせないときは設定を オフ にしてください。 ☛ 設定メニュー - 操作ボタンロック p.55
リモコン受光部の設定は正しいですか？	環境設定メニューの リモコン受光部 の設定を確認してください。☛ 設定メニュー - リモコン受光部 p.55

その他のトラブル

音が出ない・小さすぎる

確認	対処法
音声入力は正しく接続されていますか？	音声入力端子からケーブルを抜いて差し直してください。
音量調整が最小になっていませんか？	聞こえる音量に調整してください。☛ p.55, 『セットアップガイド』
AVミュートの状態になっていませんか？	リモコンの[AVミュート]ボタンを押してAVミュートを解除します。☛ p.31
オーディオケーブルの様子は「抵抗なし」となっていますか？	市販のオーディオケーブルを使う場合は「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。
HDMIケーブルで接続していますか？(EB-1925W/1915のみ)	HDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、接続先の機器の設定をPCM出力にしてください。

リモコンで操作できない

確認	対処法
リモコンの発光部を本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？	リモコン受光部に向かって操作してください。 操作可能範囲☛ 『セットアップガイド』
本機から離れすぎていませんか？	操作可能距離は、約8mです。☛ 『セットアップガイド』
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	強い光などがリモコン受光部に当たる場所を避けて設置してください。または、環境設定メニューのリモコン受光部で光の影響を受けている方の受光部をオフにしてください。☛ 設定メニュー - リモコン受光部 p.55
リモコン受光部の設定は正しいですか？	環境設定メニューのリモコン受光部の設定を確認してください。☛ 設定メニュー - リモコン受光部 p.55
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	新しい乾電池を正しい向きにセットします。☛ p.96
リモコンIDはプロジェクターIDと一致していますか？	操作したいプロジェクターのIDとリモコンのIDを一致させてください。IDの設定に関わらずすべてのプロジェクターをリモコンで操作できるようにするには、リモコンのIDを0に設定してください。☛ p.41

メッセージやメニューの言語を変更したい

確認	対処法
言語の設定を変更します。	環境設定メニューの言語で目的の言語を選択してください。☛ 拡張設定メニュー - 言語 p.57

プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない

確認	対処法
待機モードをネットワーク有効に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの待機モードをネットワーク有効に設定します。☛ 拡張設定メニュー - 待機モード p.57
致命的な異常が発生し、プロジェクターが瞬時に起動停止状態になっていませんか？	瞬時に起動停止したときはメール送信できません。 プロジェクターを確認しても異常状態が復帰しないときは、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先に修理を依頼してください。☛ 『セットアップガイド』
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
環境設定メニューでメール通知が正しく設定されていますか？	異常通知のメールは環境設定メニューのメールの設定に従って発信されます。正しく設定されているか確認してください。 EB-1925W/1915をお使いのとき☛ p.68 EB-1920W/1910をお使いのとき☛ p.75



付 録

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くお使いいただくための補足的な知識について説明しています。

本機の投写方法は、次の4種類があります。設置場所の条件に合わせて設置してください。

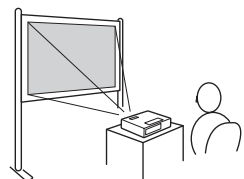
警告

- 天井への取り付け(天吊り設置)工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。
天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。

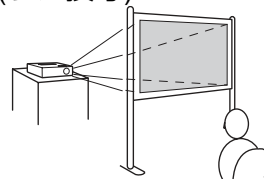
注意

本機を縦置き状態にして投写しないでください。故障の原因となります。

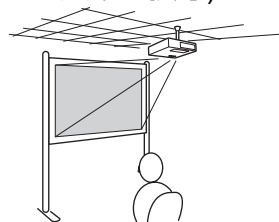
- 正面から投写する(フロント投写)



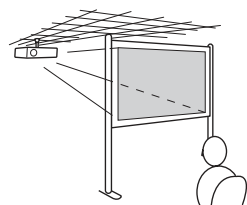
- リアスクリーンへ裏側から投写する(リア投写)



- 天吊りして正面から投写する(フロント・天吊り投写)



- 天吊りしてリアスクリーンへ裏側から投写する(リア・天吊り投写)



- 天吊りするには、オプションの天吊り金具が必要です。
☞ p.101
- リモコンの[AVミュート]ボタンを約5秒間押し続けると、次のように設定を切り替えることができます。
フロント↔フロント・天吊り
リア、リア・天吊りに設定するには環境設定メニューで行います。☞ p.57

本機が汚れたり、映像の映りが悪くなったら掃除をしてください。

注意

掃除をするときは、本機の電源をオフにしてから行ってください。

本機の掃除

本機の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質、変色することがあります。

レンズの掃除

レンズの汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

警告

レンズに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

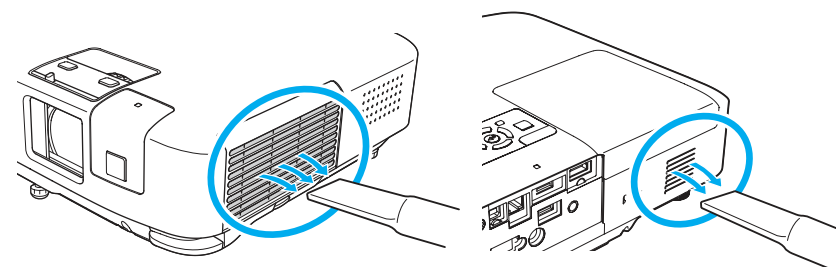
エアフィルターの掃除

下記のメッセージが表示されたらエアフィルターや吸気口の掃除をしてください。

「内部温度が上昇しています。吸排気口付近の障害物を取り除き、エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

注意

- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。



- 掃除をしても頻繁にメッセージが表示される場合は交換時期です。新しいエアフィルターに交換してください。☞ p.100
- 約3ヶ月に一度は掃除を行うことをお勧めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行ってください。

ここでは、リモコンの電池、ランプ、エアフィルターの交換方法について説明します。

リモコンの電池の交換方法

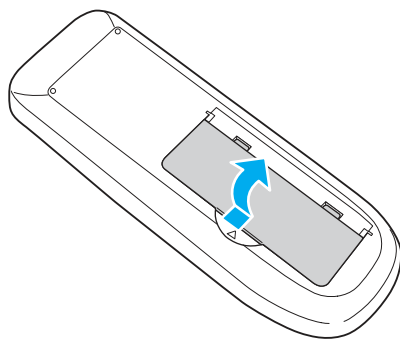
使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなったときは電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池2本を用意してください。単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池以外の電池は使用できません。

注意

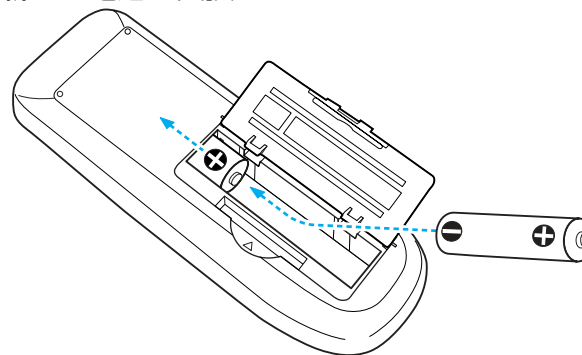
電池を取り扱う前に、別冊の『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。●『安全にお使いいただくために』

操作

- 1 電池カバーを外します。
電池カバーのツメを押さえながら、上へ持ち上げます。



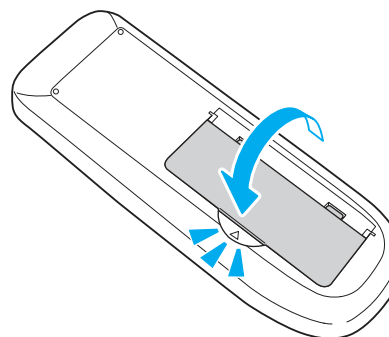
- 2 新しい電池と交換します。



注意

電池ホルダー内の表示を確認し、(+)(-)を正しく入れてください。

- 3 電池カバーを取り付けます。
カチッと音がするまでカバーを押し込みます。

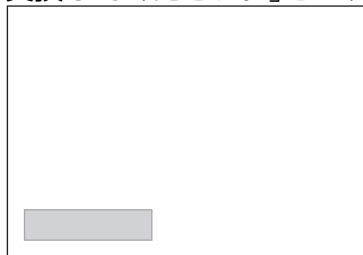


ランプの交換

ランプの交換時期

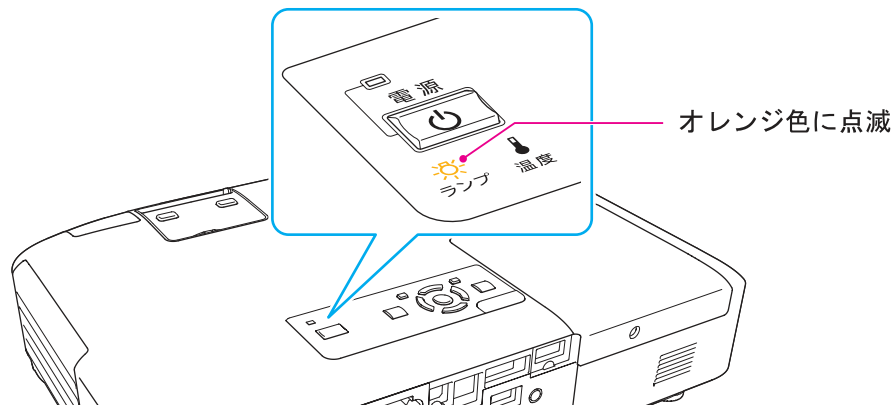
次の場合は、ランプを交換してください。

- 投写を開始したときに下図のように投写画面の左下に「**投写ランプを交換してください。**」とメッセージが表示されたとき



メッセージが表示されます。

- ランプインジケータがオレンジ色に点滅したとき



- 初期に比べ、明るさや画質が落ちたとき

注意

- 交換メッセージは、初期の明るさや画質を維持するため、次の時間で表示されます。☛ p.55
- **明るさ切替：ノーマル**で使い続けた場合：約2400時間
- **明るさ切替：エコ**で使い続けた場合：約3400時間
- 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、まだランプが点灯する状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 電源オフ直後に電源をオンにする操作を繰り返さないでください。頻繁に電源オフ/オンを繰り返すと、ランプ寿命が短くなるおそれがあります。
- 個々のランプの特性や使用条件などで、メッセージが表示される前に暗くなったり、点灯しなくなるものがあります。交換用ランプをあらかじめ準備しておくことをお奨めします。

ランプの交換方法

本機は天吊り設置したままでもランプの交換ができます。

⚠ 警告

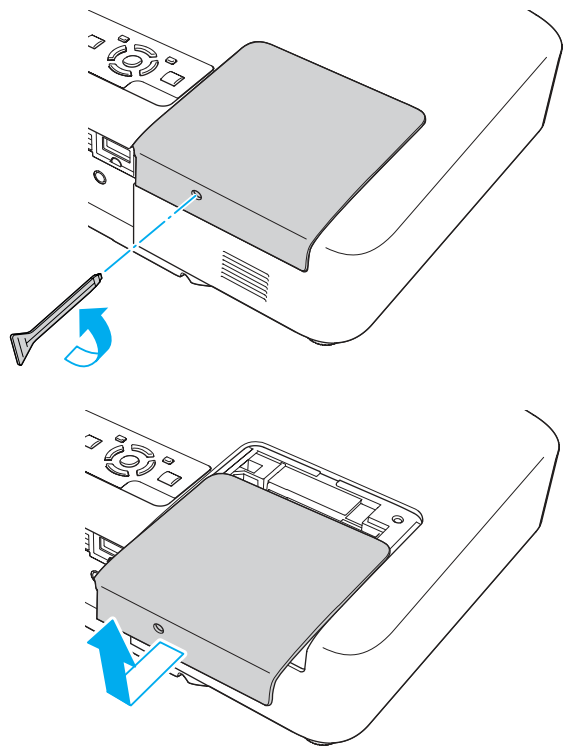
- ランプが点灯しなくなり交換するときは、ランプが割れている可能性があります。本機を天吊り設置していてランプ交換を行うときは、ランプが割れていることを想定しランプカバーの真下に立たずに横から作業してください。また、ランプカバーをそっと取り外してください。
- ランプの分解・改造は、絶対にしないでください。分解・改造したランプをセットして本機を使用すると、火災・感電・事故の原因となります。

⚠ 注意

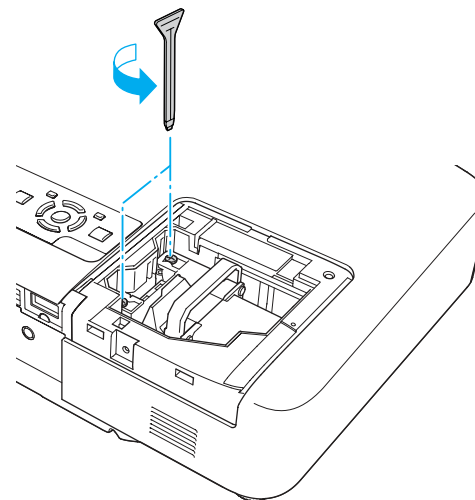
ランプが十分冷えてからランプカバーを外してください。熱で、やけど・けがの原因となることがあります。ランプが十分冷えるには、電源を切ってから約1時間必要です。

操作

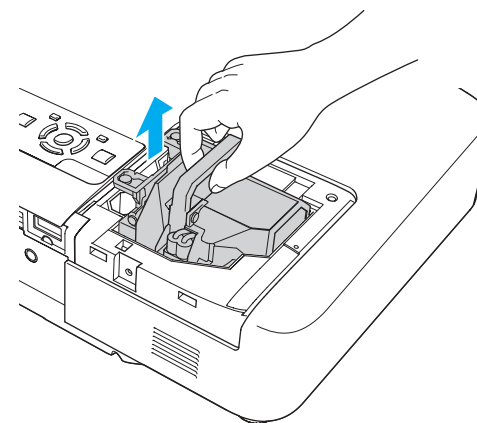
- ① 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。
- ② ランプが十分冷えてから、本機上面のランプカバーを外します。
ランプカバーの固定ネジを交換用ランプに同梱のドライバー、または+のドライバーでゆるめます。ランプカバーをまっすぐスライドさせて、持ち上げて外します。



- ③ ランプ固定ねじ2本をゆるめます。

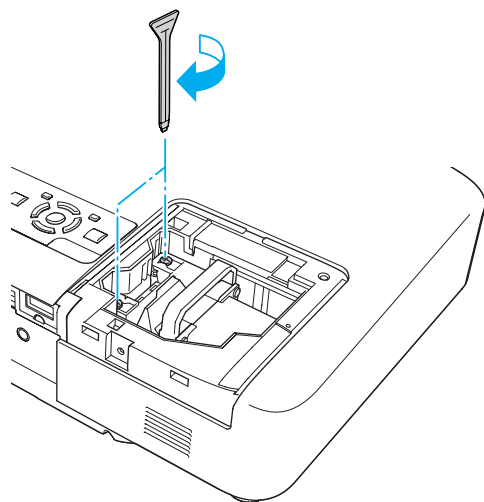
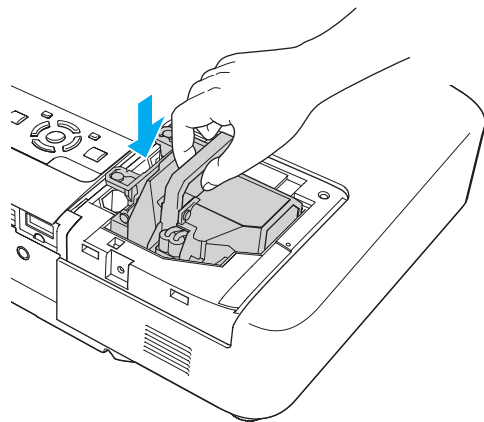


- ④ 古いランプを取っ手をつまんで取り出します。
ランプが割れているときは、お買い上げの販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください。☎ 『お問い合わせ先』

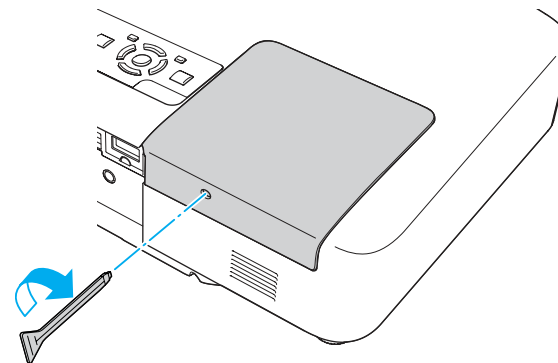


5 新しいランプを取り付けます。

ランプを収納部の形に合う向きでガイドレールに沿って入れ、しっかりと押し込み、ランプ固定ねじ2本を締めます。



6 ランプカバーを取り付けます。



注意

- ランプは確実に取り付けてください。本機は安全のため、ランプカバーを外すと自動的に電源がオフになります。ランプやランプカバーの取り付けが不十分だと電源が入りません。
- ランプには水銀が含まれています。使用済みのランプは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

ランプ点灯時間の初期化

本機はランプ点灯時間を記憶し、累計が交換時間に達するとメッセージやインジケータでお知らせします。ランプ交換を実施した後は、環境設定メニューでランプ点灯時間の累計を初期化してください。

☛ p.79



ランプ点灯時間の初期化は、ランプを交換したとき以外は行わないでください。ランプの交換時期が正しく表示されなくなります。

エアフィルターの交換

エアフィルターの交換時期

次の場合はエアフィルターを交換してください。

- エアフィルターが破れているとき。
- エアフィルターの掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるとき。

エアフィルターの交換方法

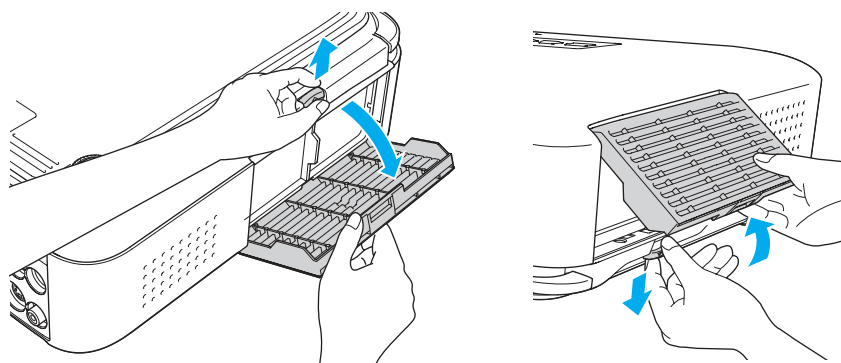
本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

操作

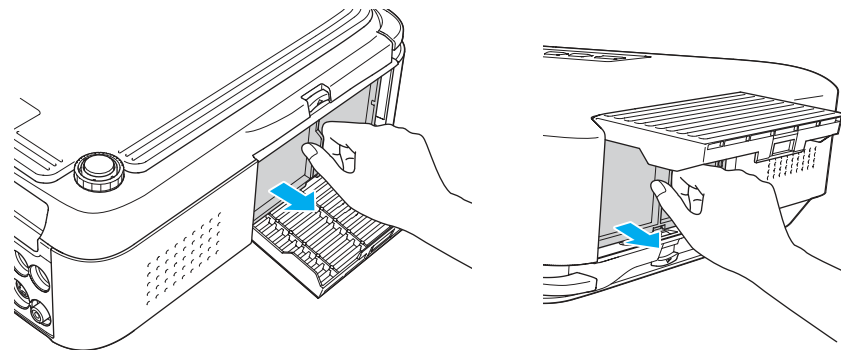
- 1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源ケーブルを外します。
- 2 エアフィルターカバーを開けます。
フックを△方向に押すと、エアフィルターカバーが開きます。エアフィルターカバーが水平に開いたところで、仮固定されます。

天吊り使用時

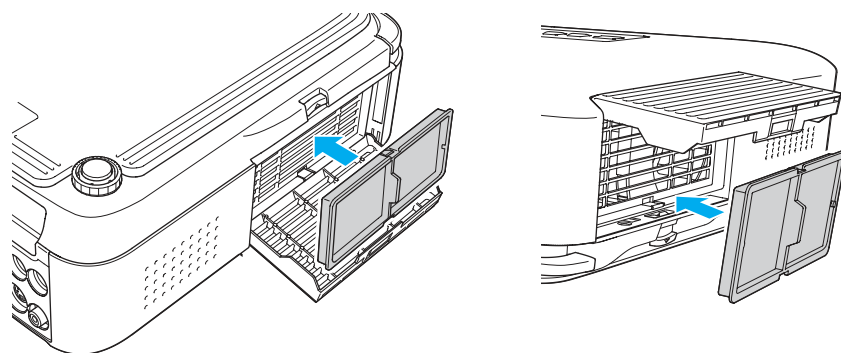
卓上使用时



- 3 エアフィルターを取り外します。
エアフィルター中央の突起をつまみ、まっすぐに取り出します。



- 4 新しいエアフィルターを取り付けます。
カチッと音がするまでエアフィルターを押し込みます。



- 5 エアフィルターカバーを閉めます。
カチッと音がするまでエアフィルターカバーを押し込みます。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

枠部分の材質：ポリプロピレン

フィルター部分の材質：ポリプロピレン

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション品類は2009年7月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション品

60型スクリーン ELPSC07

80型スクリーン ELPSC08

100型スクリーン ELPSC10

携帯型ロールスクリーンです。(アスペクト比▶▶4:3)

EB-1925W/1920W用

70型スクリーン ELPSC23

80型スクリーン ELPSC24

90型スクリーン ELPSC25

携帯型ロールスクリーンです。(アスペクト比▶▶16:10)

携帯スクリーン(50型) ELPSC06

持ち運びに便利なコンパクトスクリーンです。(アスペクト比4:3)

コンピューターケーブル ELPKC02

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用1.8m)

製品同梱のコンピューターケーブルと同等品です。

コンピューターケーブル ELPKC09

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m)

コンピューターケーブル ELPKC10

(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m)

製品同梱のコンピューターケーブルでは短いときの延長ケーブルです。

D端子ケーブル ELPKC22

(ミニD-Sub 15pin/D端子用 3m)

映像機器のD端子と接続するときに使います。

コンポーネントビデオケーブル ELPKC19

(ミニD-Sub 15pin/RCAオス×3用 3m)

コンポーネントビデオ▶▶を投写するときに使います。

書画カメラ ELPDC06

書籍やOHP原稿、スライドを投写するときなどに使います。

無線LANユニット ELPAP03(EB-1925W/1915のみ)

本機とコンピューターを無線で接続して投写するときに使います。

クイックワイヤレス用USBキー ELPAP06

本機とWindows搭載のコンピューターを1対1で即接続して投写するときに使います。

パイプ450(450mm)※ ELPFP13

パイプ700(700mm)※ ELPFP14

高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。

天吊り金具※ ELPMB23

本機を天井に取り付けるときに使います。

※ 天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店または『お問い合わせ先』に記載の連絡先にご相談ください。▶▶『お問い合わせ先』

消耗品

交換用ランプ ELPLP53

使用済みランプと交換します。

エアフィルター ELPAF24

使用済みエアフィルターと交換します。

現在表示している映像をユーザーロゴとして登録します。

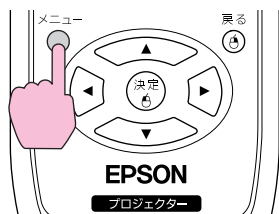


ユーザーロゴは一度登録すると、初期設定状態には戻せません。

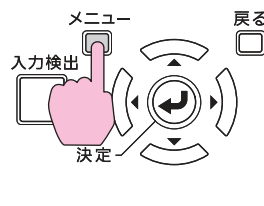
操作

- 1 ユーザーロゴとして登録したい映像を投写し、[メニュー]ボタンを押します。

リモコンの場合



操作パネルの場合



- 2 環境設定メニューから拡張設定メニュー - 「ユーザーロゴ」を選びます。☛「環境設定メニューの操作」 p.51

使えるボタンと操作はメニューの下に表示されるガイドでご確認ください。



【戻る】:戻る 【↔】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了



- パスワードプロテクトでユーザーロゴ保護をオンに設定しているときは、メッセージが表示され操作することはできません。ユーザーロゴ保護をオフにしてから操作してください。☛ p.45
- 台形補正、Eズーム、アスペクト、プログレッシブ変換を行っているときにユーザーロゴを選択すると、実行している機能は一時的に解除されます。



- 3 「現在投写されている映像の一部をユーザーロゴとして使いますか？」と表示されるので、「はい」を選択します。



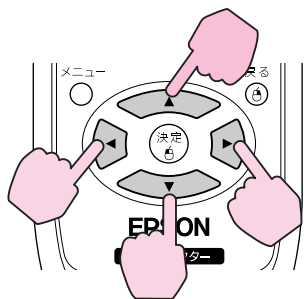
リモコンまたは操作パネルの[決定]ボタンを押すと、映像信号の実際の解像度に切り替わるため、信号によっては画面サイズが変わることがあります。



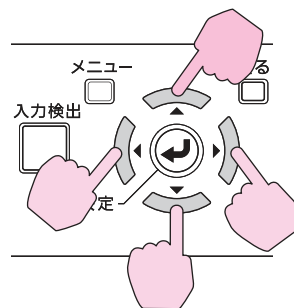
- 4 登録する映像と選択枠が表示されるので、ユーザーロゴとして使う位置を選択します。



リモコンの場合



操作パネルの場合



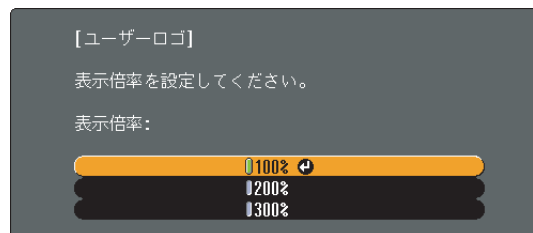
登録できるサイズは400x300ドットです。

5

「この映像を使用しますか?」と表示されるので、「はい」を選択します。

6

表示倍率設定画面で倍率を選択します。



[戻る]:戻る [◆]:選択 [決定]:決定 [メニュー]:終了

7

「この映像を保存しますか?」とメッセージが表示されるので、「はい」を選択します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザーロゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。



- ユーザーロゴの登録を実行すると、先に登録されているユーザーロゴは消去されます。
- 保存にはしばらく時間がかかります(約15秒)。保存している間は、本機や接続している機器を操作しないでください。故障の原因になります。

Wi-Fi Protected Setupの設定には以下の2通りの方式があります。

- プッシュボタン方式

本機操作パネルの[決定]ボタンとアクセスポイント機器に搭載されている専用ボタンを押せば、SSIDとセキュリティの設定が自動的に行われます。プロジェクターとアクセスポイントが近くにあるときはこの方式が向いています。

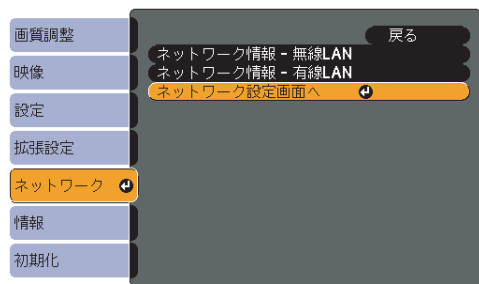
- PINコード方式

プロジェクターにあらかじめ割り振られている8桁の数字をコンピューターを介してアクセスポイント機器へ入力することで、SSIDとセキュリティの設定が自動的に行われます。コンピューターとアクセスポイント間は、事前に接続設定しておきます。接続方法はアクセスポイント機器の取扱説明書でご確認ください。プロジェクターを天吊り設置しているときは、この方式が向いています。

接続設定の方法

操作

① 本機で投写中に[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューから「ネットワーク」 - 「ネットワーク設定画面へ」を選びます。



【戻る】:戻る 【◆】:選択 【決定】:決定 【メニュー】:終了

設定画面が表示されます。

② 「無線LAN」 - 「設定ウィザード画面へ」を選びます。



以下の画面が表示されます。



プッシュボタン方式で接続するときは、続く手順に従って操作してください。PINコード方式で接続するときは、「PINコード方式で接続する」 p.106

プッシュボタン方式で接続する

操作

① 「プッシュボタン方式」を選びます。



プッシュボタン方式画面が表示されます。

② 画面の指示に従って本機操作パネルの[決定]ボタンを押します。



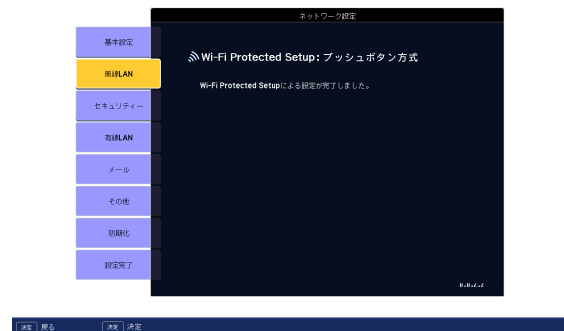
引き続きプッシュボタン方式画面が表示されます。

③ 画面の指示に従ってアクセスポイント機器のボタンを押します。



設定が完了します。

④ [決定]ボタンまたは[戻る]ボタンを押します。



無線LANメニューの画面に戻ります。

- 5 「設定完了」 - 「はい」を選びます。



以上でプロジェクターとアクセスポイント間の接続が完了しました。[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

PINコード方式で接続する



PINコード方式で接続する前に、コンピューターとアクセスポイント機器の接続設定をしておきます。

操作

- 1 「PINコード方式」を選びます。

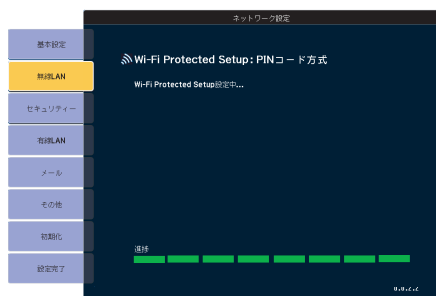


PINコード方式画面が表示されます。

- ② 「PINコード方式」画面に表示されているPINコードをコンピューターからアクセスポイント機器に入力し「設定スタート」を選びます。



進行状況が表示されます。



- ③ 「Wi-Fi Protected Setupによる設定が完了しました。」と表示されたら「決定」ボタンまたは「戻る」ボタンを押します。



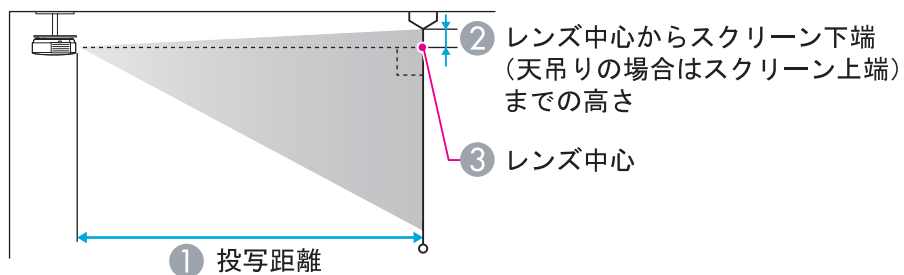
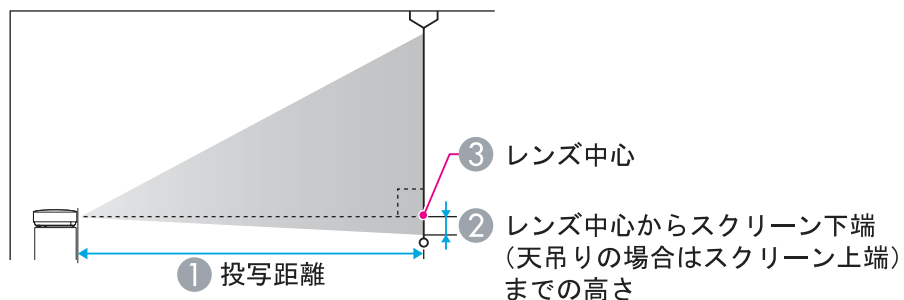
無線LANメニューの画面に戻ります。

- ④ 「設定完了」 - 「はい」を選びます。



以上でプロジェクターとアクセスポイント間の接続が完了しました。[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

EB-1925W/1920Wの投写距離表



4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
30型	61x46	104 ~ 170	3
40型	81x61	140 ~ 229	4
50型	100x76	176 ~ 287	5
60型	120x91	213 ~ 345	5
80型	160x120	285 ~ 462	7
100型	200x150	358 ~ 579	9
120型	240x180	430 ~ 696	10
150型	300x230	539 ~ 871	14
200型	410x300	720 ~ 1163	18

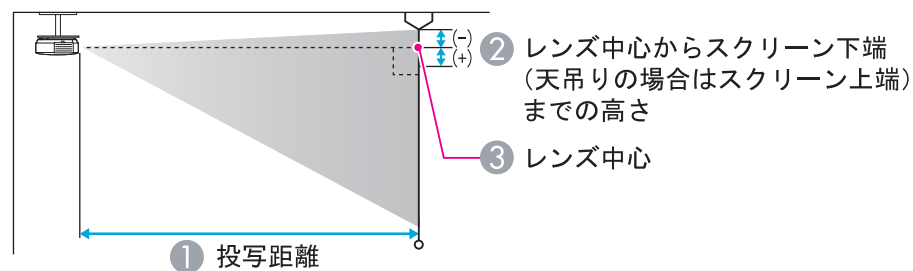
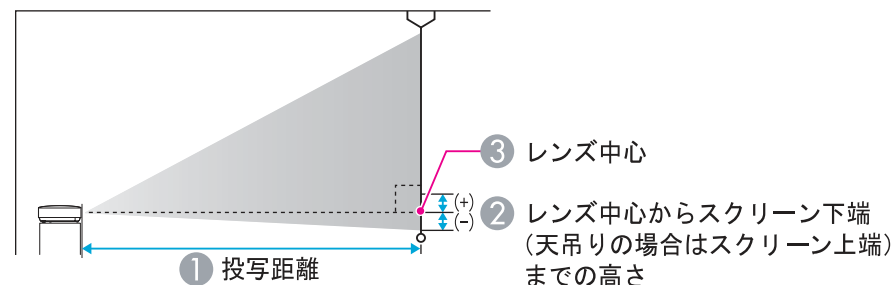
4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
250型	500x380	902 ~ 1455	23
260型	520x400	938 ~ 1513	24

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
30型	66x37	94 ~ 154	0
40型	89x50	127 ~ 207	1
50型	110x62	160 ~ 260	1
60型	130x75	193 ~ 313	1
80型	180x100	258 ~ 419	1
100型	220x120	324 ~ 525	1
120型	270x150	390 ~ 631	2
150型	330x190	489 ~ 790	2
200型	440x250	654 ~ 1055	3
250型	550x310	818 ~ 1320	3
280型	620x350	917 ~ 1479	4

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
30型	64x40	91 ~ 150	2
40型	86x54	123 ~ 201	3
50型	110x67	155 ~ 253	4
60型	130x81	187 ~ 305	5
80型	170x110	251 ~ 408	6
100型	220x130	315 ~ 511	8

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	
120型	260x160	379 ~ 614	10
150型	320x200	476 ~ 769	12
200型	430x270	636 ~ 1027	16
250型	540x340	796 ~ 1285	20
300型	640x400	956 ~ 1542	24

EB-1915/1910の投写距離表



4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)~最長(テレ)	
30型	61x46	96 ~ 158	-4
40型	81x61	130 ~ 212	-6
50型	100x76	164 ~ 267	-7
60型	120x91	197 ~ 321	-8
80型	160x120	265 ~ 430	-11
100型	200x150	332 ~ 538	-14
120型	240x180	400 ~ 647	-17
150型	300x230	501 ~ 810	-21
200型	410x300	670 ~ 1081	-28

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
250型	510x380	839 ~ 1353	-35
300型	610x460	1007 ~ 1624	-42

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
30型	66x37	102 ~ 167	+2
40型	89x50	142 ~ 232	+2
50型	110x62	179 ~ 291	+3
60型	130x75	216 ~ 350	+3
80型	180x100	289 ~ 468	+5
100型	220x120	363 ~ 578	+6
120型	270x150	436 ~ 705	+7
150型	330x190	546 ~ 883	+9
200型	440x250	730 ~ 1178	+11
250型	550x310	914 ~ 1474	+14
275型	610x340	1006 ~ 1622	+16

USBメモリーやUSB対応のデジタルカメラ、ハードディスク、オプション品の書画カメラを接続できます。

EB-1925W/1915をお使いのときは、接続したUSBストレージ内のシナリオ・画像・動画ファイルやデジタルカメラ内の画像ファイルをPC Freeで投写します。☛『プロジェクト活用ガイド』『PC Freeの基本操作』(EB-1925W/1915)

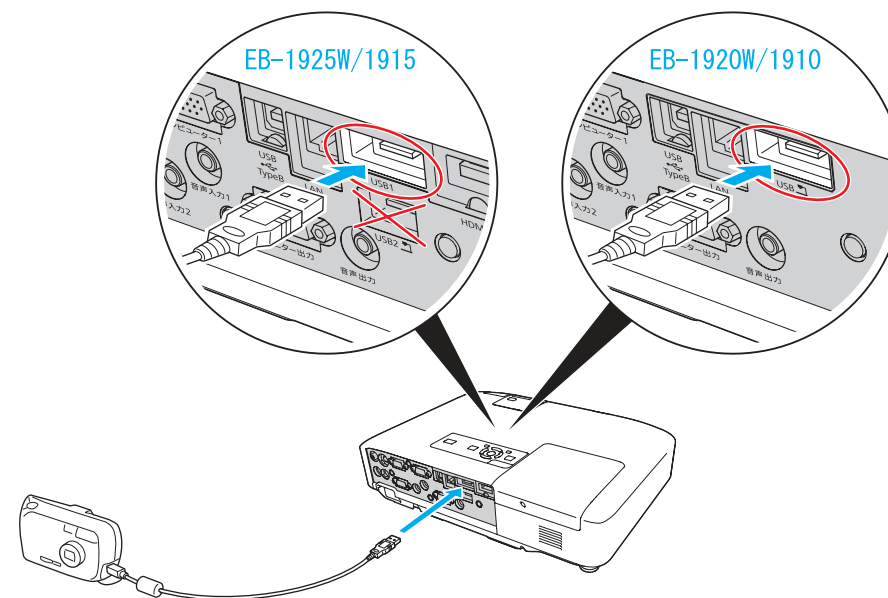
EB-1920W/1910をお使いのときは、USBストレージ内のJPEGファイルやデジタルカメラ内の画像ファイルをスライドショーで再生します。☛『プロジェクト活用ガイド』『スライドショーの基本操作』(EB-1920W/1910)

USB機器の接続

ここではデジタルカメラを例に、USB機器の接続方法を説明します。

操作

デジタルカメラに同梱、あるいは指定のUSBケーブルを、本機のUSB1端子(EB-1925W/1915のみ)/USB(TypeA)端子(EB-1920W/1910のみ)に接続します。



注意

- USBハブを使用すると、正しく動作しません。デジタルカメラやUSBストレージを直接本機に接続してください。
- USB対応のハードディスクを接続して使用する際は、必ずハードディスクに付属のACアダプタを接続してください。
- デジタルカメラやハードディスクの接続には、各機器に同梱、あるいは指定のUSBケーブルをお使いください。
- USBケーブルの長さは、3m以下のものをお使いください。ケーブル長が3mを超えると、PC Free(EB-1925W/1915のみ)、スライドショー(EB-1920W/1910のみ)が正しく動作しないことがあります。

USB機器の取り外し方

操作

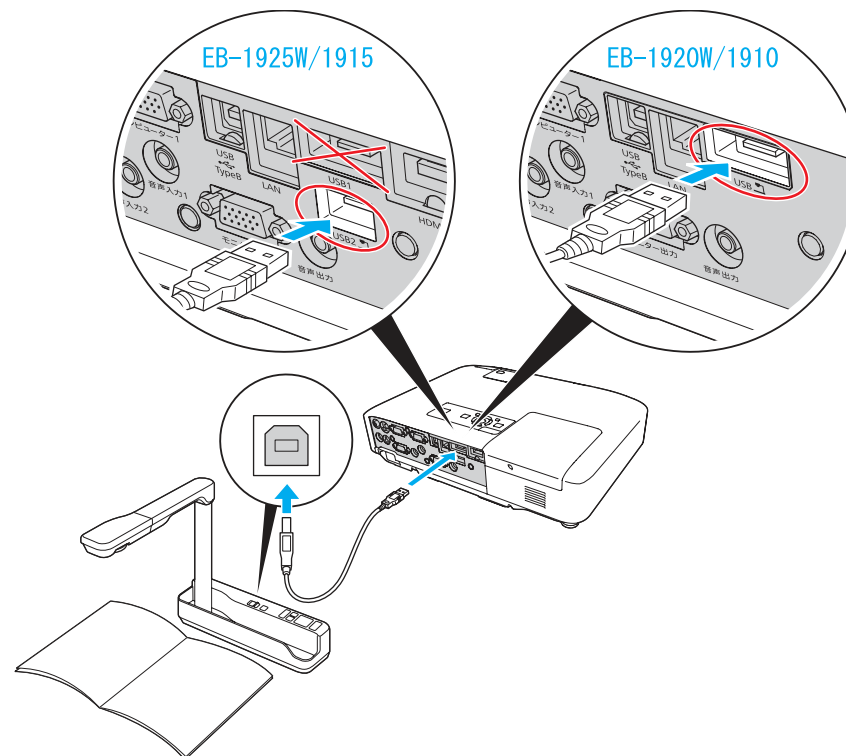
投写終了後は、本機からUSB 機器を取り外します。デジタルカメラやハードディスクなどは、各機器の電源をオフにしてから取り外してください。

書画カメラ(ELPDC06)の接続

オプション品の書画カメラ(ELPDC06)を接続したときは、書画カメラの画像に切り替わります。本機で他の映像を投写中に書画カメラを接続したときは、リモコンの[USB]ボタンを押すか、操作パネルの[入力検出]ボタンを押すと、投写映像が書画カメラの画像に切り替わります。

操作

オプション品の書画カメラ(ELPDC06)を、書画カメラに同梱のUSBケーブルで、USB2 端子 (EB-1925W/1915 のみ)/USB(TypeA) 端子 (EB-1920W/1910のみ)に接続します。

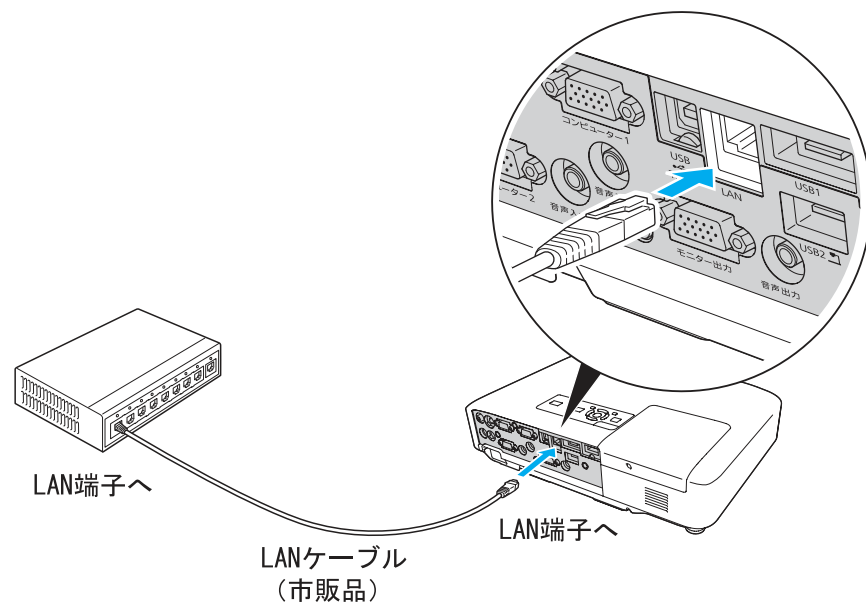


書画カメラ(ELPDC06)の取り外し方

操作

投写終了後は、オプション品の書画カメラ(ELPDC06)と接続しているUSBケーブルを、本機から取り外します。

市販の100BASE-TXまたは10BASE-TタイプのLANケーブルで接続します。

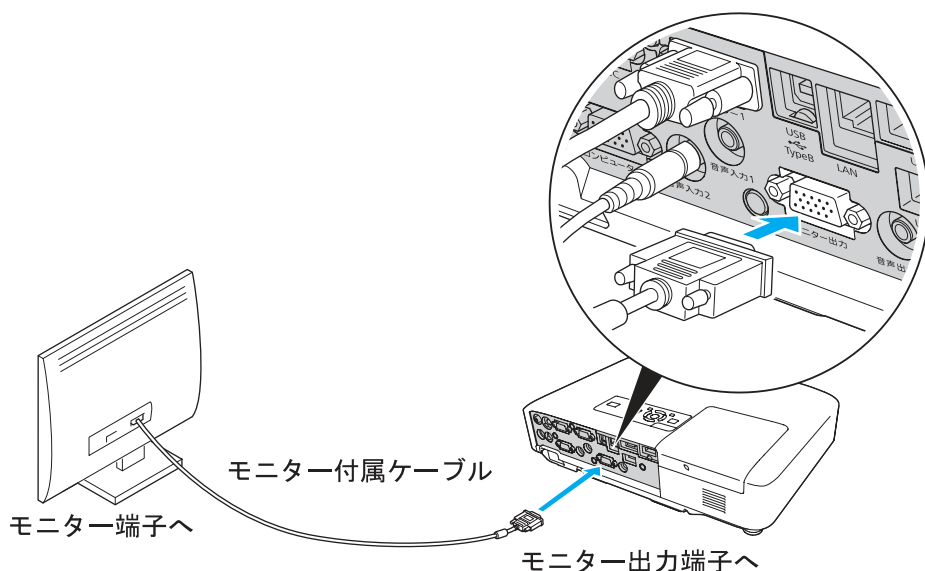


注意

LANケーブルは誤動作防止のために、カテゴリ5のシールド付をお使いください。

外部モニターとの接続

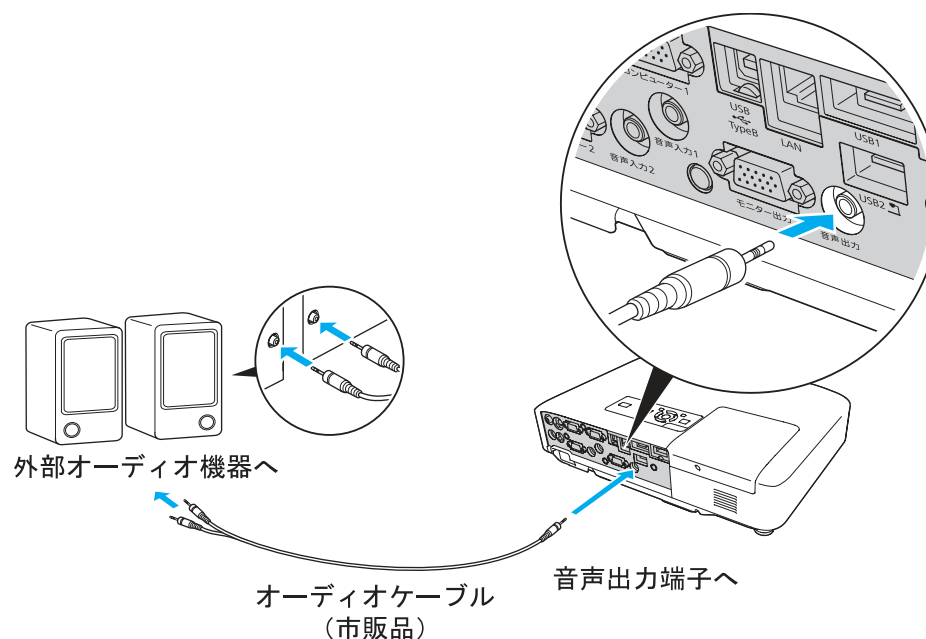
コンピューター1入力端子から入力しているコンピューター映像は、本機に接続した外部モニターとスクリーンに同時に表示できます。スクリーンから離れた位置でプレゼンテーションを行うときでも、外部モニターで映像を確認しながら行えます。接続は外部モニターに付属のケーブルで行います。



- コンポーネントビデオ信号やコンピューター1入力端子以外の端子に接続した機器の映像を外部モニターに表示することはできません。
- プロジェクターがスタンバイ状態のときに、外部モニターで映像を表示したいときは、環境設定メニューの**拡張設定 - 待機モード**で**ネットワーク有効**に設定します。
- 台形補正などの設定ゲージや環境設定メニュー・ヘルプは外部モニターに出力されません。

外部スピーカーとの接続

本機の音声出力端子と外付けのアンプ内蔵スピーカーを接続すると、迫力あるサウンドが楽しめます。接続は市販のオーディオケーブル(ピンプラグ↔3.5mmステレオミニプラグなど)で行います。オーディオケーブルは、外部オーディオ機器のコネクター形状に合わせて購入してください。



- 音声出力端子へオーディオケーブルのプラグを差し込むと、音声の出力先が外部に切り替わり本機の内蔵スピーカーからは音が出なくなります。
- 市販の2RCA(L・R)/ステレオミニピンオーディオケーブルをご使用になる際は「抵抗なし」と表記されたものをお選びください。


メール通知機能をオンに設定して本機が異常/警告状態になったときには、次のメールが送付されます。

メールタイトル：EPSON Projector

1行目：異常が生じたプロジェクターのプロジェクター名

2行目：異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降：異常の内容

異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す内容は次表のとおりです。異常/警告の対処方法は「[インジケータの見方](#)」をご確認ください。  [p.82](#)

メッセージ	原因
Internal error	内部異常
Fan related error	ファン異常
Sensor error	センサー異常
Lamp timer failure	ランプ点灯失敗
Lamp out	ランプ異常
Internal temperature error	内部高温異常 (オーバーヒート)
High-speed cooling in progress	高温警告
Lamp replacement notification	ランプ交換勧告
No-signal	ノーシグナル 本機に映像信号が入力されていません。接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。
Auto Iris Error	オートアイリス異常

メッセージ	原因
Power Err. (Ballast)	電源系異常(バラスト)

メッセージの最初に(+)や(-)が付きます。

(+)：本機に異常が発生した場合

(-)：本機の異常が対処された場合

コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。本機は電源オンの状態になったときにコロン「:」(3Ah)を返信します。

このように本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後「:」を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に「:」を返信します。

項目		コマンド	
電源のオン/オフ	オン	PWR ON	
	オフ	PWR OFF	
信号切り替え	コンピューター1	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11
		コンポーネント	SOURCE 14
	コンピューター2	オート	SOURCE 2F
		RGB	SOURCE 21
		コンポーネント	SOURCE 24
	HDMI(EB-1925W/1915のみ)		SOURCE 30
	ビデオ		SOURCE 41
	S-ビデオ		SOURCE 42
	USBディスプレイ		SOURCE 51
	USB1(EB-1925W/1915のみ)の USB(EB-1920W/1910のみ)		SOURCE 52
LAN		SOURCE 53	
USB2(EB-1925W/1915のみ)		SOURCE 54	
AVミュート機能の オン/オフ	オン	MUTE ON	
	オフ	MUTE OFF	

項目		コマンド
AVミュート機能の 切り替え	黒	MSEL 00
	青	MSEL 01
	ロゴ	MSEL 02

各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

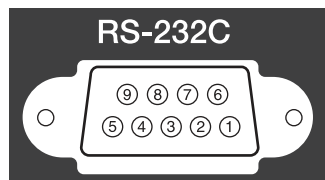
ケーブル配線

シリアル接続

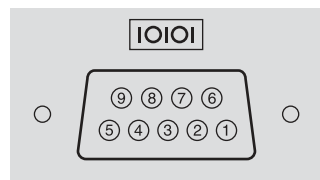
- コネクタ形状：D-Sub 9pin(オス)

- プロジェクター入力端子名：RS-232C

<プロジェクター側>



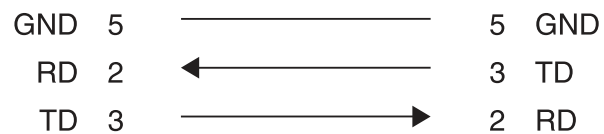
<コンピューター側>



<プロジェクター側>

(PCシリアルケーブル)

<コンピューター側>



信号名	機能
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティ：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

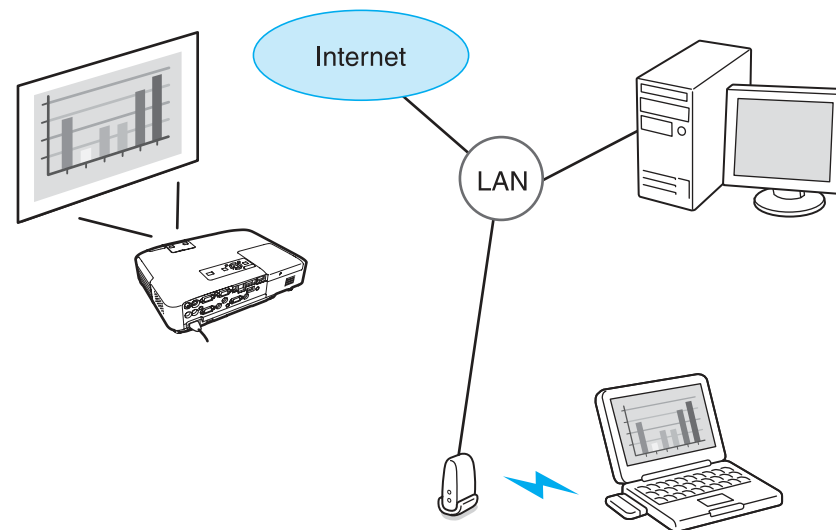
本機をネットワークを介してコンピューターと接続して、コンピューター画面の映像を投写するには、以下の2通りの方法があります。

- EasyMP Network Projectionで行う

同梱の『EPSON Projector Software for Meeting & Presentation』に収録されているEasyMP Network Projectionには、分配機能、マルチスクリーンディスプレイ、動画再生モード、プレゼンテーションモードなど多彩な画面・音声転送機能が備わっています。EasyMP Network Projectionを使えば、単にプロジェクターとコンピューターを接続して投写するだけでなく効果的な会議やプレゼンテーションが行えます。☛『プロジェクター活用ガイド』(EB-1925W/1915)

- ネットワークプロジェクタで行う

ネットワークプロジェクタはWindows Vistaに標準搭載の機能です。したがって、特別なアプリケーションソフトをインストールしなくてもOSが持つ機能だけでネットワーク上のプロジェクターを検出してコンピューター画面の映像を投写できます。



対応OS

Windows:Vista Home Premium/Vista Business/Vista Enterprise/Vista Ultimate

ここでは、ネットワークプロジェクタの使い方を簡単に説明します。

本機とコンピューターがネットワークに接続されていることを確認して、以下の操作を行います。

操作

- 1 本機の電源を入れ、リモコンの[LAN]ボタンを押します。

- 2** コンピュータでWindowsを起動し、「スタート」- 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「ネットワークプロジェクタへの接続」の順に選択します。

接続設定画面が表示されます。

自動でプロジェクターを検出する方法と、IPアドレスを入力して検出する方法があります。

- 3** 検出結果から目的のプロジェクターを選択して「接続」をクリックします。

プロジェクターのパスワードを問い合わせる画面が表示されたときは、本機のLAN待機画面の下に表示されているキーワードを入力してください。



- 1台のコンピューターから接続できるプロジェクターは1台のみです。
- Windowsミーティング スペースのオプションからネットワークプロジェクタを実行するときは、お使いのコンピューターの画面の色を最高(32ビット)に設定してください。32ビットになっていないとメッセージが表示され接続することができません。

JBMIA(社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会)によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLink Class1が策定されました。

本機は、JBMIAが策定したPJLink Class1の規格に適合しています。

PJLink Class1で定義されているコマンドのうち、以下の内容を除く全コマンドに対応しており、PJLink 規格適合性検証で適合を確認しています。

URL : <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

• 非対応コマンド

機能		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

• PJLinkで定義している入力名と本機の入力ソースの対応

入力ソース	PJLinkコマンド
コンピューター1	INPT 11
コンピューター2	INPT 12
ビデオ	INPT 21
S-ビデオ	INPT 22
HDMI(EB-1925W/1915のみ)	IMPT 32
USB1(EB-1925W/1915のみ) の USB(EB-1920W/1910のみ)	INPT 41
USB2(EB-1925W/1915のみ)	INPT 42
LAN	INPT 52
USBディスプレイ	INPT 53

• 「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名

EPSON

• 「機種情報問合せ」で表示する機種名

EB-1925W

EB-1920W

EB-1915

EB-1910

EB-1925W/1920Wの対応解像度表

コンピューター映像(アナログRGB)

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード				
			ノーマル	16:9	フル	ズーム	リアル
VGAEGA	85	640x350	1280x700	1280x720	1280x800	1280x700	640x350
VGA	60/72/75/85/iMac※1	640x480/640x360※2	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
SVGA	56/60/72/75/85/iMac※1	800x600/800x450※2	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	800x600
XGA	60/70/75/85/iMac※1	1024x768/1024x576※2	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1024x768
WXGA	60	1280x768	1280x768	1280x720	1280x800	1280x768	1280x768
	60	1360x768	1280x722	1280x720	1280x800	1280x722	1280x768
	60/75/85	1280x800	1280x800	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
WXGA+	60/75/85	1440x900	1280x800	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
WSXGA+※3	60	1680x1050	1280x800	1280x720	1280x800	1280x800	1152x800
SXGA	70/75/85	1152x864	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1152x800
	60/75/85	1280x1024	1000x800	1280x720	1280x800	1280x800	1152x800
	60/75/85	1280x960	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
SXGA+	60/75/85	1400x1050	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
UXGA	60	1600x1200	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
MAC13"	67	640x480	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
MAC16"	75	832x624	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	832x624
MAC19"	75	1024x768	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1024x768
	60	1024x768	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	1024x768

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード				
			ノーマル	16:9	フル	ズーム	リアル
MAC21"	75	1152x870	1059x800	1280x720	1280x800	1280x800	1152x800

※1 VGA出力ポートが装着されていない機種には接続できません。

※2 レターボックス信号

※3 環境設定メニューの**入力解像度**で**ワイド**を選択しているときに限り対応します。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード				
			ノーマル	16:9	フル	ズーム	リアル
SDTV(480i)	60	720x480/720x360 [※]	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
SDTV(576i)	50	720x576/720x432 [※]	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	768x576
SDTV(480p)	60	720x480/720x360 [※]	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
SDTV(576p)	50	720x576/720x432 [※]	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	768x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720	1280x720	1280x720	1280x800	1280x720	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080	1280x720	1280x720	1280x800	1280x720	1280x800
HDTV(1080p)	50/60	1920x1080	1280x720	1280x720	1280x800	1280x720	1280x800

※ レターボックス信号

コンポジットビデオ/S-ビデオ

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード				
			ノーマル	16:9	フル	ズーム	リアル
TV(NTSC)	60	720x480/720x360 [※]	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
TV(PAL,SECAM)	50	720x576/720x432 [※]	1066x800	1280x720	1280x800	1280x800	768x576

※ レターボックス信号

HDMI入力端子からの入力信号(EB-1925Wのみ)

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード			
			16:9	フル	ズーム	リアル
VGA	60	640x480/640x360※	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
SVGA	60	800x600	1280x720	1280x800	1280x800	800x600
XGA	60	1024x768	1280x720	1280x800	1280x800	1024x768
WXGA	60	1280x800	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
SXGA	60	1280x960	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
	60	1280x1024	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
SXGA+	60	1400x1050	1280x800	1280x800	1280x800	1280x800
UXGA	60	1600x1200	1280x720	1280x800	1280x800	1280x800
SDTV(480i)	60	720x480/720x360※	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
SDTV(480p)	60	720x480/720x360※	1280x720	1280x800	1280x800	640x480
SDTV(576i)	50	720x576/720x432※	1280x720	1280x800	1280x800	768x576
SDTV(576p)	50	720x576/720x432※	1280x720	1280x800	1280x800	768x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720	1280x720	1280x800	1280x720	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080	1280x720	1280x800	1280x720	1280x800
HDTV(1080p)	24/50/60	1920x1080	1280x720	1280x800	1280x720	1280x800

※ レターボックス信号

EB-1915/1910の対応解像度表

コンピューター映像(アナログRGB)

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード		
			ノーマル	4:3	16:9
VGAEGA	85	640x350	1024x560	1024x768	1024x576
VGA	60/72/75/85/iMac ^{※1}	640x480/640x360 ^{※2}	1024x768	1024x768	1024x576
SVGA	56/60/72/75/85/iMac ^{※1}	800x600/800x450 ^{※2}	1024x768	1024x768	1024x576
XGA	60/70/75/85/iMac ^{※1}	1024x768/1024x576 ^{※2}	1024x768	1024x768	1024x576
WXGA	60	1280x768	1024x614	1024x768	1024x576
	60	1360x768	1024x578	1024x768	1024x576
	60/75/85	1280x800	1024x640	1024x768	1024x576
WXGA+	60/75/85	1440x900	1024x640	1024x768	1024x576
SXGA	70/75/85	1152x864	1024x768	1024x768	1024x576
	60/75/85	1280x1024	960x768	1024x768	1024x576
	60/75/85	1280x960	1024x768	1024x768	1024x576
SXGA+	60/75/85	1400x1050	1024x768	1024x768	1024x576
UXGA	60	1600x1200	1024x768	1024x768	1024x576
MAC13"	67	640x480	1024x768	1024x768	1024x576
MAC16"	75	832x624	1024x768	1024x768	1024x576
MAC19"	75	1024x768	1024x768	1024x768	1024x576
	60	1024x768	1024x768	1024x768	1024x576
MAC21"	75	1152x870	1016x768	1024x768	1024x576

※1 VGA出力ポートが装着されていない機種には接続できません。

※2 レターボックス信号

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード	
			4:3	16:9
SDTV(480i)	60	720x480/720x360*	1024x768	1024x576
SDTV(576i)	50	720x576/720x432*	1024x768	1024x576
SDTV(480p)	60	720x480/720x360*	1024x768	1024x576
SDTV(576p)	50	720x576/720x432*	1024x768	1024x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720	1024x768	1024x576
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080	1024x768	1024x576
HDTV(1080p)	50/60	1920x1080	1024x768	1024x576

* レターボックス信号

コンポジットビデオ/S-ビデオ

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード	
			4:3	16:9
TV(NTSC)	60	720x480/720x360*	1024x768	1024x576
TV(PAL,SECAM)	50	720x576/720x432*	1024x768	1024x576

* レターボックス信号

HDMI入力端子からの入力信号(EB-1915のみ)

単位：ドット

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード	
			16:9	ズーム
VGA	60	640x480/640x360*	1024x768	1024x576
SVGA	60	800x600	1024x768	1024x576

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度	アスペクトモード	
			16:9	ズーム
XGA	60	1024x768	1024x768	1024x576
WXGA	60	1280x800	1024x768	1024x576
SXGA	60	1280x960	1024x768	1024x576
	60	1280x1024	1024x768	1024x576
SXGA+	60	1400x1050	1024x768	1024x576
UXGA	60	1600x1200	1024x768	1024x576
SDTV(480i)	60	720x480/720x360※	1024x768	1024x576
SDTV(480p)	60	720x480/720x360※	1024x768	1024x576
SDTV(576i)	50	720x576/720x432※	1024x768	1024x576
SDTV(576p)	50	720x576/720x432※	1024x768	1024x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720	1024x768	1024x576
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080	1024x768	1024x576
HDTV(1080p)	24/50/60	1920x1080	1024x768	1024x576

※ レターボックス信号

本機仕様

商品名	EB-1915	EB-1925W	EB-1910	EB-1920W	
外形サイズ	幅357x高さ86x奥行き257mm (突起部含まず)				
パネルサイズ	0.7型	0.74型ワイド	0.7型	0.74型ワイド	
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス				
画素数	786,432個 XGA(横1024x縦768 ドット)x3	1,024,000個 WXGA(横1280x縦800 ドット)x3	786,432個 XGA(横1024x縦768 ドット)x3	1,024,000個 WXGA(横1280x縦800 ドット)x3	
フォーカス調整	電動		手動		
ズーム調整	手動(1-1.6)				
ランプ	UHEランプ 定格230W 型番：ELPLP53				
音声最大出力	10Wモノラル				
スピーカー	1個				
電源	100-240V AC±10%,50/60Hz 3.9-1.7A				
消費電力	100-120Vエリア	定格消費電力：341W 待機時消費電力(ネットワーク有効)：5.5W 待機時消費電力(ネットワーク無効)：0.2W		定格消費電力：341W 待機時消費電力(ネットワーク有効)：7.2W 待機時消費電力(ネットワーク無効)：0.2W	
	200-240Vエリア	定格消費電力：319W 待機時消費電力(ネットワーク有効)：6.8W 待機時消費電力(ネットワーク無効)：0.3W		定格消費電力：319W 待機時消費電力(ネットワーク有効)：8.8W 待機時消費電力(ネットワーク無効)：0.3W	
動作高度	標高 0～2286m				
動作温度範囲	5～+35℃(結露しないこと)				
保存温度範囲	-10～+60℃(結露しないこと)				
質量	約3.5kg		約3.4kg		

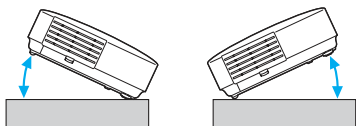
商品名		EB-1915	EB-1925W	EB-1910	EB-1920W
接続端子	コンピューター1入力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)青		
	音声入力1端子	1系統	ステレオミニピンジャック		
	コンピューター2入力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)青		
	音声入力2端子	1系統	ステレオミニピンジャック		
	ビデオ入力端子	1系統	RCAピンジャック		
	S-ビデオ入力端子	1系統	ミニDIN 4pin		
	音声入力端子	1系統	RCAピンジャックx2(L,R)		
	HDMI入力端子	1系統	HDMI(音声はPCMにのみ対応)		—
	モニター出力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)黒		
	音声出力端子	1系統	ステレオミニピンジャック		
	USB1端子※	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)		—
USB2端子※	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)		—	
USB(TypeA)端子※	1系統	—		USBコネクタ(Aタイプ)	
USB(TypeB)端子※	1系統	USBコネクタ(Bタイプ)			
USB端子 (無線LANユニット専用)	1系統	USBコネクタ(Aタイプ)		—	
LAN端子	1系統	RJ-45			
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin(オス)			

※ USB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。



本機にはPixelworks DNX™のICが搭載されています。

傾斜角度



45°以上傾けてお使いになると、故障や事故の原因となります。

ソフトウェアの動作条件

本機に添付のソフトウェアは、以下の条件を満たすコンピュータで動作します。

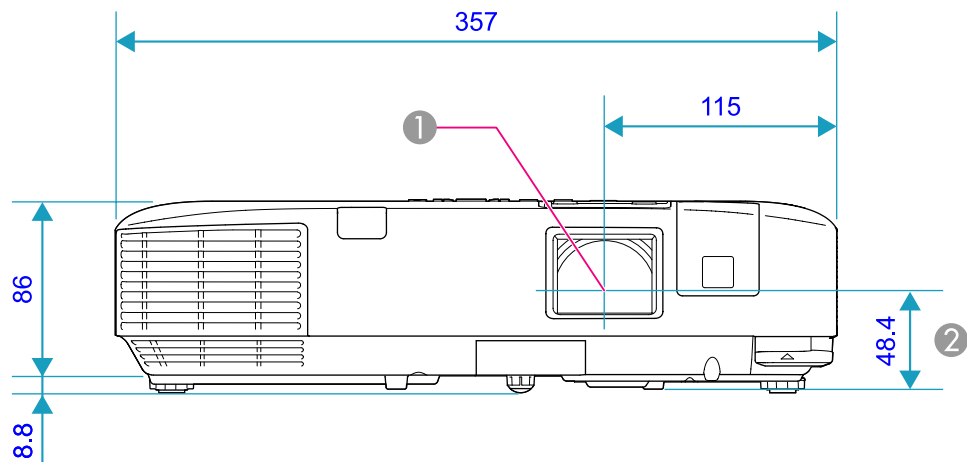
EasyMP Slide ConverterはEB-1925W/1915にのみ添付されています。

	EasyMP Network Projection	EasyMP Slide Converter ^{※1}	EasyMP Monitor
OS	Windows 2000 SP4/Windows XP/Windows XP SP1以降/ Windows Vista/Windows Vista SP1 Mac OS X 10.3 以上 推奨：Mac OS X 10.5.1 以上 10.4.11/10.3.9	Windows 2000 SP4/Windows XP SP2以降/Windows Vista SP1以降	Windows 98 SE SP1/Windows Me/Windows NT4.0 SP6/ Windows 2000 SP4/Windows XP 32Bit版 SP2以降/Windows Vista/Windows Vista SP1 ^{※3}
CPU	Mobile Pentium III 1.2GHz以上 Power PC G3 900MHz以上 推奨：Pentium M 1.6GHz 以上 CoreDuo 1.5GHz以上	Pentium M 1.6GHz 以上	Pentium MMX 166MHz以上 推奨：Pentium II 233MHz以上
メモリー容量	256MB以上 推奨：512MB以上	512MB 以上	64MB以上
ハードディスク 空き容量	20MB以上	50MB 以上 ^{※2}	50MB以上
ディスプレイ	XGA(1024x768)以上の解像度 16ビットカラー以上の表示色約 32000色の表示色	XGA(1024x768)以上の解像度 16ビット・32ビットフルカラーの 表示色	SVGA(800x600)以上の解像度 32ビットフルカラー以上の表示色

※1 PowerPoint 2002以降とVisual Basic for Applications(VBA)がインストールされている必要があります。

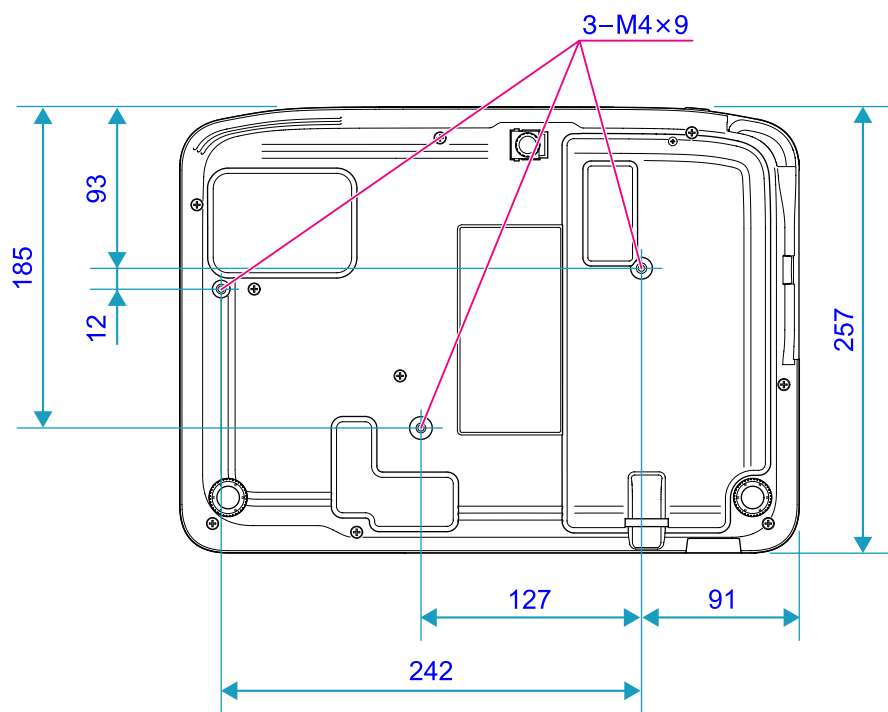
※2 インストール時に必要な容量です。PowerPointファイルを変換する際は、PowerPointファイルに設定されたアニメーションの種類・数によって異なります。

※3 Internet Explorer Ver.5以降を搭載、Administrator権限を持つユーザー



① レンズ中心

② レンズ中心から天吊固定部までの寸法



単位：mm

本書で使用している用語で本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

AMX Device Discovery	AMX Device Discoveryとは、AMX社のコントロールシステムとその対象機器の構成を容易にする、AMX社の提唱する技術です。エプソンでは、その技術のプロトコルを導入して、そのプロトコル機能を有効(ON)にできる設定を用意しました。詳細に関しては、AMX社のWebサイトを参照してください。 URL http://www.amx.com/
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、 IPアドレス ▶▶を自動的に割り当てるプロトコルのことです。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略でDVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術です。本機のHDMI入力端子はHDCPに対応しているためHDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 垂直解像度720p、1080i以上(pはプログレッシブ▶▶走査、iはインターレース▶▶走査) • 画面のアスペクト比▶▶は16:9
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
S-ビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。 Y(輝度信号)C(色信号)の2つの独立した信号からできている映像をいいます。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、 HDTV ▶▶の条件を満たさない標準テレビジョン放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルータやコンピューター、端末などネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム(OS)やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
SSID	SSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。SSIDが一致している機器どうしで無線通信できます。
SVGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横800ドットx縦600ドットのもの呼びます。
SXGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,280ドットx縦1,024ドットのもの呼びます。
VGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横640ドットx縦480ドットのもの呼びます。
Wi-Fi Protected Setup	Wi-Fi Allianceで無線LANの設定や暗号化が簡単にできるように策定した規格です。
XGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,024ドットx縦768ドットのもの呼びます。

アスペクト比	画面の縦と横の比率をいいます。縦横の比率が16：9と横長になっている画面をワイド画面といいます。標準画面のアスペクト比は4：3です。
インターレース	1つの画面を表示するときに情報を横方向に細かい線に分け、左から右へ、上から下へ順次表示させます。このとき偶数線分と奇数線分を交互に表示する方法をいいます。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスク▶によって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバー(ルータ)のことです。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がハッキリ見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
コンポーネントビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。 Y(輝度信号)Pb、Pr(色差信号)の3つの独立した信号からできている映像をいいます。
コンポジットビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を混合した、一般的な家庭用ビデオ信号(NTSC、PAL、SECAM)です。カラーバー信号の中の伝送用信号Y(輝度信号)とクロマ(色)信号を重ねて1つの信号にしています。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数に本機の周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレス▶のことです。
ドルビーデジタル	ドルビー研究所で開発されたサウンド方式です。通常のステレオは2つのスピーカーを用いた2ch方式ですが、ドルビーデジタルは、それにセンタースピーカー、リア2chスピーカー、サブウーファを追加した6ch(5.1ch)方式となっています。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を上から下へ順次走らせて一画面を構成する方式をいいます。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ(Hz)で表します。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(裏表紙参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

商標について

Windows Vista およびWindowsロゴは米国Microsoft Corporation及びその関連会社の商標です。

IBM、DOS/V、XGAは、International Business Machines Corp.の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、iMacは、Apple Inc.の商標です。

Windows、Windows NT、PowerPointは米国マイクロソフトコーポレーションの米国及びその他の国における商標または登録商標です。

ドルビーはドルビーラボラトリーズの商標です。

Pixelworks、DNXはPixelworks社の商標です。

本製品は、RSA Security Inc.のRSA, BSAFE™ソフトウェアを搭載しています。RSAはRSA Security Inc.の登録商標です。BSAFEはRSA Security Inc.の米国および他の国における登録商標です。

本製品では、東芝情報システム株式会社の **NetNucleus**® **WPA** ソフトウェアを搭載しています。

NetNucleus は、日本における東芝情報システム株式会社の登録商標です。

WPA™、WPA2™、Wi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Allianceの登録商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI LicensingLLCの商標、または登録商標です。 

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標または登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2009. All rights reserved.

ソフトウェアの著作権について

本装置は当社が権利を有するソフトウェアの他にフリーソフトウェアを利用しています。

本装置に利用にされているフリーソフトウェアに関する情報は下記のとおりです。

1. LGPL

(1) 当社は、GNU LESSER General Public License Version 2, June 1991またはそれ以降のバージョン(以下「LGPL」)の適用対象となるフリーソフトウェアを本装置に利用しています。

LGPLの全文は以下のWebサイトでご覧いただけます。

[LGPL]<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html>

当社は、本装置に含まれるLGPLの適用対象となるフリーソフトウェアについてLGPLに基づきソースコードを開示しています。

当該フリーソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、最寄りのサポート窓口までご連絡ください。

なお、当該フリーソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はLGPLの条件に従ってください。

また、当該フリーソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

(2) 上記(1) のとおり、本装置に含まれるLGPLの適用対象となるフリーソフトウェア自体の保証はありませんが、本装置の不具合(当該フリーソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社による保証の条件(保証書記載)に影響はありません。

(3) 本装置に含まれるLGPLの適用対象となるフリーソフトウェアおよびその著作者は(1)にて開示するソースコード内に記載してあります。

2. その他フリーソフトウェア

当社は、**LGPL**の適用対象となるフリーソフトウェア以外に以下のフリーソフトウェアを本装置に利用しています。

以下、それぞれの著作者および条件等を原文にて記載します。なお、これらのフリーソフトウェアはその性格上フリーソフトウェア自体の保証はありませんが、本装置の不具合(当該フリーソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社による保証の条件(保証書記載)に影響はありません。

(1) libpng

Copyright© 1998-2004 Glenn Randers-Pehrson

Copyright© 1996-1997 Andreas Dilger

Copyright© 1995-1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

(2) zlib

Copyright© 1995-2003 Jean-loup Gailly and Mark Adler

GNU GPL 適用ソフトウェアについて

- (1) 当社は、GNU General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「GPL」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアをGPLの条件に従い本製品に利用しています。

当社は、本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアについてGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、カラリオインフォメーションセンターにお問い合わせください。開示期間は、本製品の販売終了後5年間とさせていただきます。

なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はGPLの条件に従ってください。

また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1)のとおり、本製品に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

- (3) 本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアは下記のとおりであり、その著作権者は(1)にて開示されるソースコード内に記載してあります。

GPL適用ソフトウェアパッケージリスト

busybox-1.7.2

libgcc1(gcc-4.2.3)

linux-2.6.20

patches

udhcp 0.9.8

uvc rev.219

wireless_tools 29

Pixelworks 社 PWC950 SDK drivers

GPL 適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。また、以下のWeb サイトでもご覧いただけます。

<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html>

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.
You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

- 3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w` and `show c` should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w` and `show c`; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LGPL 適用ソフトウェアについて

- (1) 当社は、GNU LESSER General Public License Version 2, June 1991 またはそれ以降のバージョン(以下「LGPL」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアをLGPLの条件に従い本製品に利用しています。

当社は、本製品に含まれるLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアについてLGPLに基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、カラリオインフォメーションセンターにお問い合わせください。開示期間は、本製品の販売終了後5年間とさせていただきます。

なお、当該オープンソースソフトウェアを複製、改変、頒布する場合はLGPLの条件に従ってください。

また、当該オープンソースソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる種類の保証も提供されません。ここでいう保証とは、商品化、商業可能性および使用目的についての適切性ならびに第三者の権利(特許権、著作権、営業秘密を含むがこれに限定されない)を侵害していないことに関する保証をいいますが、これに限定されるものではありません。

- (2) 上記(1)のとおり、本製品に含まれるGPLおよびLGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

- (3) 本製品に含まれるGPLの適用対象となるオープンソースソフトウェアは下記のとおりであり、その著作権者は(1)にて開示されるソースコード内に記載してあります。

LGPL適用ソフトウェアパッケージリスト

uClibc-0.9.29

SDL-1.2.13

LGPL 適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。また、以下のWeb サイトでもご覧いただけます。

LGPL : <http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
 - a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
 - b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

University of California, Berkeley(UCB)によるBSDライセンス適用ソフトウェアについて

当社は、University of California, BerkeleyによるBSDライセンス(以下「UCB BSDライセンス」)の適用対象となる以下のオープンソースソフトウェアを当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件に従い本製品に利用しています。

なお、当該オープンソースソフトウェアはその性格上、当該オープンソースソフトウェア自体の保証はありませんが、本製品の不具合(当該オープンソースソフトウェアに起因する不具合も含まれます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

UCB BSDライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

busybox_1.7.2

UCB BSDライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (c) The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Kenneth Almquist.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

libjpegについて

当社はオープンソースソフトウェア「libjpeg」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libjpegライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libjpeg」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libjpeg」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libjpeg」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libjpeg」に起因する不具合も含まれます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libjpegライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libjpeg-6b

libjpegライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (C) 1994-1997, Thomas G. Lane. This file is part of the Independent JPEG Group's software. For conditions of distribution and use, see the accompanying README file.

This distribution contains the sixth public release of the Independent JPEG Group's free JPEG software. You are welcome to redistribute this software and to use it for any purpose, subject to the conditions under LEGAL ISSUES, below.

LEGAL ISSUES

=====

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

- (1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
- (2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
- (3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config.guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

"The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

libpngについて

当社はオープンソースソフトウェア「libpng」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libpngライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libpng」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libpng」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libpng」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libpng」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libpngライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libpng-1.2.7

libpngライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

For conditions of distribution and use, see copyright notice in png.h
Copyright (c) 1998-2004 Glenn Randers-Pehrson (Version 0.96
Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger) (Version 0.88 Copyright (c)
1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.)

This copy of the libpng notices is provided for your convenience. In case of any discrepancy between this copy and the notices in the file png.h that is included in the libpng distribution, the latter shall prevail.

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:

If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence.

libpng version 1.2.6, September 12, 2004, is Copyright (c) 2004 Glenn Randers-Pehrson, and is distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:

There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.

libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright (c) 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright (c) 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin BraceySam Bushell
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright (c) 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.

For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

```
printf("%s",png_get_copyright(NULL));
```

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg (88x31) and "pngnow.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennrp@users.sourceforge.net
September 12, 2004

zlibについて

当社はオープンソースソフトウェア「zlib」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「zlibライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「zlib」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「zlib」はオープンソースソフトウェアという性格上、「zlib」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「zlib」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

zlibライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

zlib-1.1.4

zlibライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright notice:

(C) 1995-1998 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly
jloup@gzip.org

Mark Adler
madler@alumni.caltech.edu

If you use the zlib library in a product, we would appreciate *not* receiving lengthy legal documents to sign. The sources are provided for free but without warranty of any kind. The library has been entirely written by Jean-loup Gailly and Mark Adler; it does not include third-party code.

If you redistribute modified sources, we would appreciate that you include in the file ChangeLog history information documenting your changes.

libmd5-rfcについて

当社はオープンソースソフトウェア「libmd5-rfc」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者から提示された条件(以下「libmd5-rfcライセンス」)に従い本製品に利用しています。

「libmd5-rfc」のライセンス条件は以下の通りです。

なお、「libmd5-rfc」はオープンソースソフトウェアという性格上、「libmd5-rfc」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「libmd5-rfc」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

libmd5-rfcライセンス適用ソフトウェアパッケージリスト

libmd5-rfc

libmd5-rfcライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (C) 1999, 2002 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

L. Peter Deutsch ghost@aladdin.com

Independent implementation of MD5 (RFC 1321).

This code implements the MD5 Algorithm defined in RFC 1321, whose text is available at

<http://www.ietf.org/rfc/rfc1321.txt>

The code is derived from the text of the RFC, including the test suite (section A.5) but excluding the rest of Appendix A. It does not include any code or documentation that is identified in the RFC as being copyrighted.

The original and principal author of md5.h is L. Peter Deutsch <ghost@aladdin.com>. Other authors are noted in the change history that follows (in reverse chronological order):

- 2002-04-13 lpd Removed support for non-ANSI compilers; removed references to Ghostscript; clarified derivation from RFC 1321; now handles byte order either statically or dynamically.
- 1999-11-04 lpd Edited comments slightly for automatic TOC extraction.
- 1999-10-18 lpd Fixed typo in header comment (ansi2knr rather than md5);
 - added conditionalization for C++ compilation from Martin Purschke <purschke@bnl.gov>.
- 1999-05-03 lpd Original version.

ncursesについて

当社はオープンソースソフトウェア「ncurses」を当該オープンソースソフトウェアの著作権者であるFree Software Foundationから提示された条件(以下「ncursesライセンス」)に従い本製品に利用しています。

なお、「ncurses」はオープンソースソフトウェアという性格上、「ncurses」自体の保証はありませんが、本製品の不具合(「ncurses」に起因する不具合も含みます)に関する当社の保証の条件(保証書に記載)に影響はありません。

ncursesライセンス適用ソフトウェアパッケージ

ncurses-5.6

ncursesライセンス適用ソフトウェアにつきましては、以下の条件が適用になります。

Copyright (c) 1998-2002,2003 Free Software Foundation, Inc.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, distribute with modifications, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE ABOVE COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name(s) of the above copyright holders shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization.

For embedded multimedia software:

This product contains embedded multimedia software licensed from Ingenient Technologies, Inc. (www.ingenient.com).

Copyright© 2000-2007 Ingenient Technologies, Inc. All rights reserved.

For MPEG-4 ASP:

With respect to a Licensee offering MPEG-4 Video Decoders and/or Encoders the following notice shall be given: THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i) ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE MPEG-4 VISUAL STANDARD ("MPEG-4 VIDEO") AND/OR (ii) DECODING MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE MPEG-4 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,LLC. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM).

For MPEG-4 AVC:

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

For WMV/WMA (Microsoft):

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

数字・アルファベット

A/Vミュート	31
DHCP	62, 67
EAP-Fast/GTC	67
EAP-Fast/MS-CHAPv2	67
EAP-TLS	67
EAP-TTLS/MD5	67
EAP-TTLS/MS-CHAPv2	67
ESC/VP21	116
Eズーム	38
HDMI入力端子	12
HDMIビデオレベル	54
IPアドレス	62, 67, 68, 75
LAN ケーブルの接続	113
LAN端子	12, 13
LEAP	67
MACアドレス	63, 68
PEAP/GTC	67
PEAP/MS-CHAPv2	67
PINコード方式	104, 106
PJLink	118, 120
PJLinkパスワード	61, 73
Quick Corner	25, 55
SMTP サーバー	68, 75
sRGB	12, 30
SSID	62
S-ビデオ入力端子	11, 13
USB Type B	58
USB(TypeA)端子	13
USB(TypeB)端子	12, 13
USB1端子	12
USB2端子	12
USBインジケータ	11

USB機器の接続	111
Web制御パスワード	61, 73
WEP	65
Wi-Fi Protected Setup	104
WPA2-PSK(AES)	66
WPA-PSK(TKIP)	66

ア

明るさ	52
明るさ切替	55
アスペクト	32, 54
宛先1 設定	75
宛先2 設定	75
宛先3 設定	75
色合い	52
色の濃さ	52
インジケータ	16, 17, 82
エアフィルター・吸気口の掃除	95
エアフィルターカバー開フック	10
エアフィルターの交換時期	100
エアフィルターの交換方法	100
映像メニュー	53
オート	34, 35
オートアイリス	31, 53
オーバーヒート	83
オプション品	101
音声出力端子	12, 13
音声入力端子	11, 13
温度インジケータ	82
音量	55

カ

解像度	121
-----	-----

外部モニターとの接続	114
拡張設定メニュー	57
各部の名称と働き	10
カスタム	30
画質調整メニュー	52
カラー調整	52
カラーモード	30, 52
環境設定メニュー	51
かんたんセットアップ	22
基本設定メニュー	61, 73
吸気口	12, 13
ゲートウェイアドレス	63, 68, 74
言語	58
高地モード	58
黒板	30
故障かなと思ったら	82
コントラスト	52
コンピューター1入力端子	12, 13
コンピューター2入力端子	12, 13

サ

サブネットマスク	62, 68, 74
シアター	30
自動台形補正	55
自動タテヨコ補正	22, 55
自動調整	53
シャープネス	52
仕様一覧	127
情報メニュー	78
消耗品	101
書画カメラ	101
初期化メニュー	70, 77, 79
色差補正	43

ズーム	36
ズームリング	11
スクリーンサイズ	108
スタートアップスクリーン	57
スポーツ	30
スリープモード	58
静止	32
セキュリティーロット	12, 13
セキュリティーメニュー	63
接続モード	62
絶対色温度	52
設置モード	57
設定メニュー	55
全初期化	79
全ロック	47
操作パネル	16, 17
操作ボタンロック	48, 55
掃除	95
その他メニュー	69, 76
ソフトウェアの動作条件	129
ソフトキーボード	60, 72

タ

ターゲットスコープ	38
対応解像度	121
待機モード	58
台形補正	55
ダイナミック	30
ダイレクトパワーオン	58
タテヨコ補正	25
テストパターン	56
電源インジケータ	82
電源端子	11, 13

電源投入時	45
電池の交換方法	96
天吊り	57, 94
天吊り固定部	14
問い合わせコード	47
同期	53
同期情報	78
動作温度範囲	127
動作設定	58
投写距離	108
トラッキング	53
トラップIPアドレス	69, 76

ナ

入力解像度	78
入力検出	16, 17, 28
入力信号	78
入力信号方式	54
入力ソース	78
ネットワーク情報	59, 71
ネットワーク設定画面	59, 71
ネットワークプロジェクタ	118
ネットワーク保護	46
ネットワークメニュー	59, 71
ノイズリダクション	54
ノーマル	34, 35

ハ

排気口	10
背景表示	57
パスワードプロテクト	45
パスワードプロテクトシール	46
ビデオ信号方式	54, 78

ビデオ入力端子	11, 13
表示位置	53
表示設定	57
フォーカスボタン	11
フォーカスリング	10
フォト	30
プッシュボタン方式	104, 105
フットレバー	10
フル	35
プレゼンテーション	30
プログレッシブ変換	54
プロジェクターID	41, 58
プロジェクターキーワード	61, 73
プロジェクター名	61, 73
フロント	57, 94
フロントフット	10
ヘルプ機能	81
ポインター	37
ポインター形状	55
ポート番号	68, 75
保存温度範囲	127
ホワイトボード	30
本機の掃除	95

マ

マウスポインター	39
マルチスクリーン	43, 58
無線LANインジケータ	10
無線LAN電源	62
無線LAN方式	62
無線LANユニットカバー	10
無線LANメニュー	62
メールアドレス	68

メール通知機能	68, 75
メール通知メニュー	68, 75
メールの見方	115
メッセージ表示	57
メニュー	51
モニター出力端子	12, 13

ヤ

ユーザーボタン	56
ユーザーロゴ	102, 104
ユーザーロゴ保護	45
有線LANメニュー	67, 74

ラ

ランプインジケーター	82
ランプカバー	11
ランプ点灯時間	78
ランプ点灯時間の初期化	79, 99
ランプの交換時期	97
ランプの交換方法	97
リア	57, 94
リアスクリーン	94
リアフット	14
リアル	36
リフレッシュレート	78
リモコン	18
リモコンID	42
リモコン受光部	10, 12, 13
レンズカバータイマー	58

ワ

ワイドサイズの映像	32
ワイヤレスマウス機能	39